

第5次総合計画の総括評価について

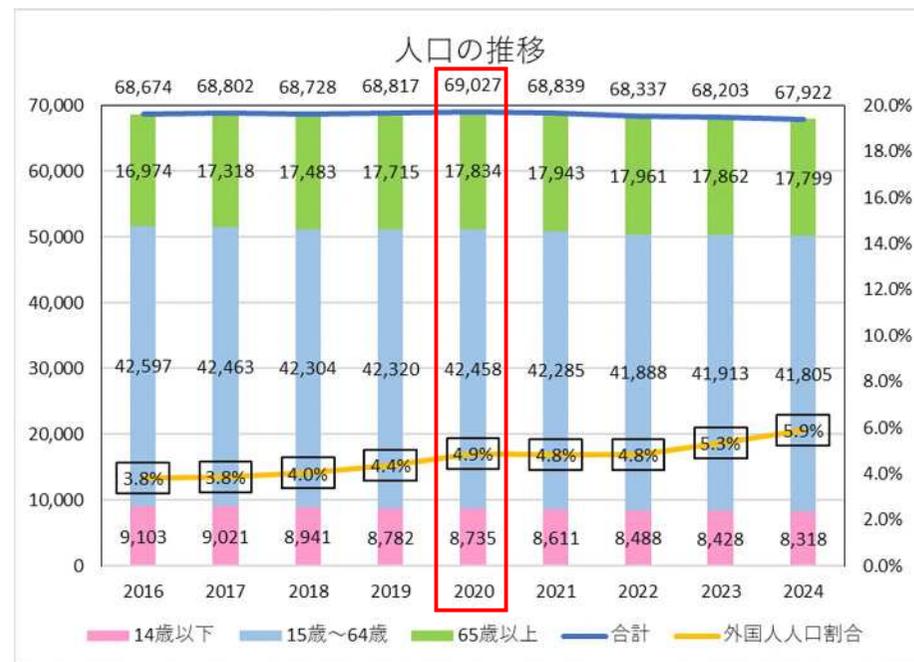
1. 第5次総合計画期間(2016-2025)の豊明市の変遷

(1) 人口

本市における人口は、1958年から1980年まで急激に増加し、それ以降は緩やかな増加傾向にありました。第5次総合計画における人口推計では、2015年頃をピークに減少に転じる予想から、2025年の**目標人口を71,000人**に設定しました。

実際には、2020年の69,027人をピークに減少に転じておりますが、市外流出人口の抑制と市内に住み続けることができる受け皿を確保することを目的とした土地区画整理事業を実施しており、道路、公園などの都市基盤と居住環境の整備を図るとともに宅地の利用増進を目指しています。

また、本市の特徴として、外国人人口は2016年の2,620人から2024年には3,995人に増加しており、外国人人口割合は5.9%となっています。



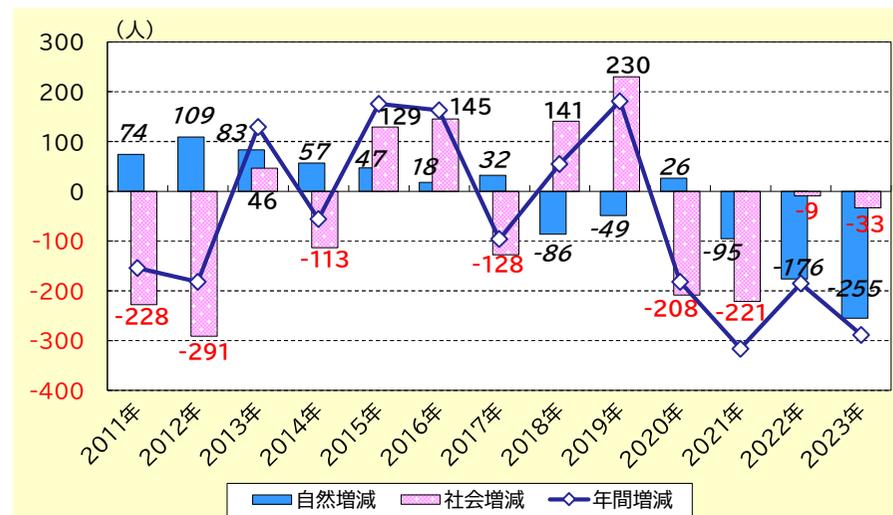
※資料 とよあけの統計(住民基本台帳)(各年4月1日時点)

(2) 人口動態

自然増減は、2017年までは出生数が死亡者数を上回る状態が続いていましたが、2018年以降は、2020年度を除き死亡者数が出生数を上回る、‘自然減’の状態が続いています。

社会増減は、2014年までは概ね転出者が転入者を上回る転出超過の状態が続いていました。2015年から2019年は概ね転入者が転出者を上回る転入超過の状態に転じたものの、2020年以降は再び転出超過となっている‘社会減’の状態に戻っています。

合わせた年間増減の推移をみますと社会増減の推移の影響が大きいことが分かります。



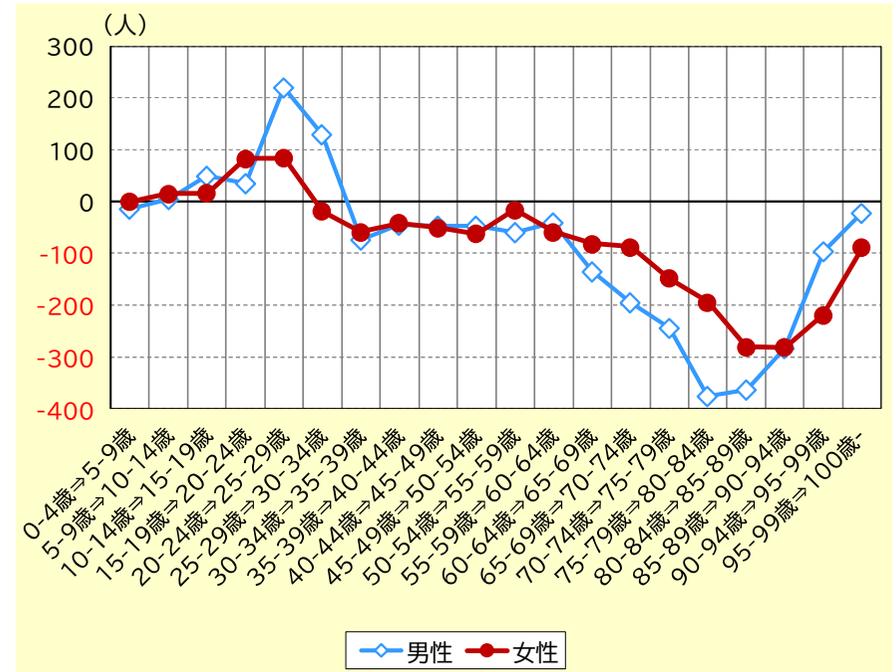
※資料 とよあけの統計(住民基本台帳)(各年4月1日時点)

(3) 5歳階級別人口増減の動向

2018年から2023年までの年齢5歳階級別人口増減について、若年層で見ると25-29歳⇒30-34歳で男性が増加している一方で、女性は減少しています。

高齢層で見ると、男女ともに減少しており、特に男性の70-74歳⇒75-79歳と75-79歳⇒80-84歳の減少幅が大きくなっています。

他の調査と合わせて推察すると、10歳代後半から20歳代の比較的若い人々は大学等への進学や就職等に合わせて本市に転入してくるため、社会増による人口増加がみられるものの、結婚・転職・住宅取得等を契機に転出し、社会減に転じるものと思われます。



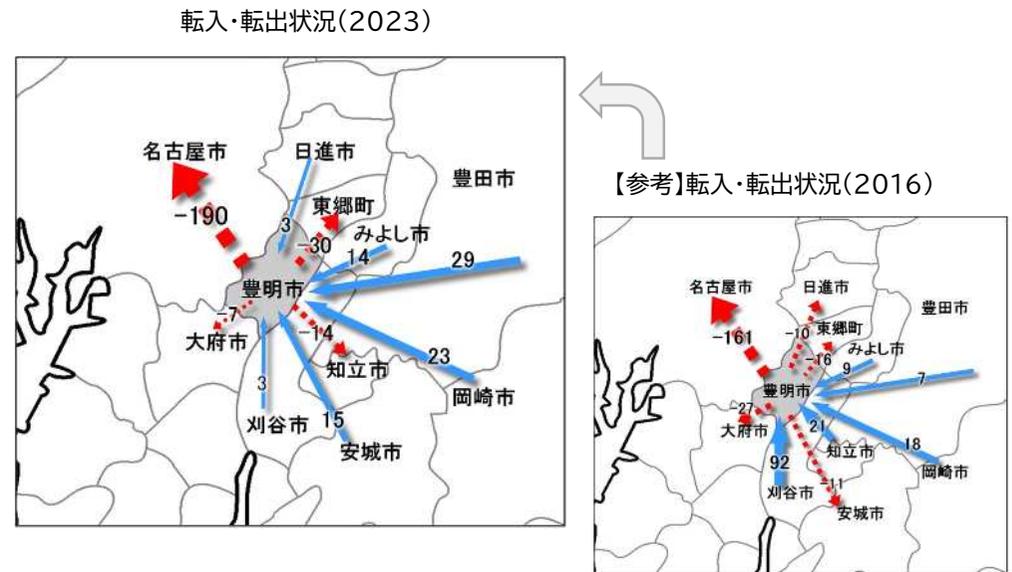
※資料 とよあけの統計(住民基本台帳)(各年4月1日時点)

(4) 近隣市町との転入・転出動向

2023年の近隣市町との転出入の動向をみると、転入者数、転出者数ともに、名古屋市、刈谷市、豊田市の順で多くなっています。

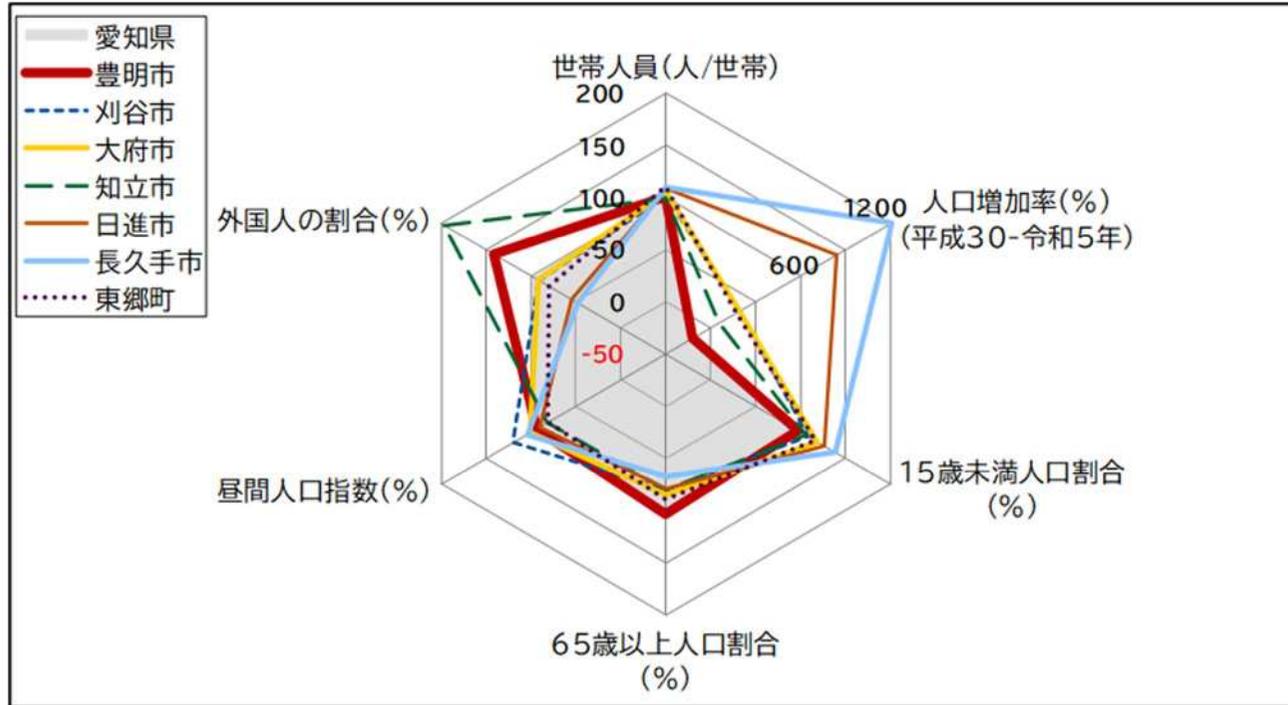
また、転入超過数は豊田市、岡崎市、安城市の順で多くっており、転出超過数は名古屋市、東郷町、知立市の順で多くなっています。

2016年と比較すると、知立市は転入超過から転出超過に、日進市、安城市はわずかながら転出超過から転入超過に転じています。



※資料 住民基本台帳人口移動報告(外国人を含む)

(5) 人口の状況(他市間比較)



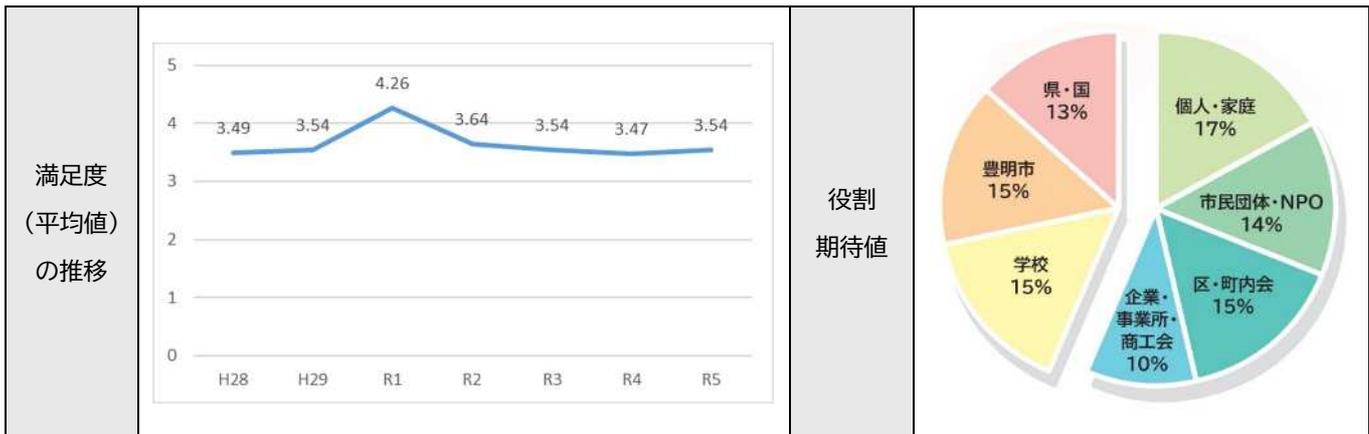
(背景色付きは最上位、 下線は最下位)	愛知県	豊明市	刈谷市	大府市	知立市	日進市	長久手市	東郷町
人口(人)	7,512,703	68,325	152,372	92,828	72,030	93,774	60,985	43,784
世帯数(世帯)	3,421,030	30,685	68,104	40,119	32,937	39,221	25,406	18,104
世帯人員 (人/世帯)	2.20	2.23	2.24	2.31	<u>2.19</u>	2.39	2.40	2.42
人口増加率 (2018-2023年)	-0.52%	<u>-0.65%</u>	0.99%	1.00%	0.29%	4.37%	6.26%	0.88%
15歳未満人口割合	12.8%	<u>12.4%</u>	13.9%	15.2%	13.5%	16.1%	17.7%	14.8%
65歳以上人口割合	25.2%	26.2%	20.5%	21.6%	20.4%	20.2%	<u>17.0%</u>	22.8%
昼間人口指数	101.2%	95.1%	121.1%	102.9%	83.0%	91.8%	105.5%	<u>82.6%</u>
外国人の割合	3.70%	5.24%	3.37%	3.38%	<u>7.26%</u>	2.02%	<u>1.77%</u>	2.97%

2. 第5次総合計画「めざすまちの姿」ごとの総括評価(詳細は、資料 1-2 のとおり)

めざすまちの姿		取り組んだ主な事業
1	子ども、高齢者、障がい者等への虐待やDVなどがない	家庭児童相談室事業、児童発達支援センター事業、重層支援体制整備事業、
2	多様な主体者が連携して、将来を見据えた医療や福祉の戦略を実行しており、市民が安心している	重層的支援体制整備事業、包括支援事業
3	まちが明るく、地域の防犯活動が活発で、犯罪が少ない	自主防犯活動支援事業、防犯対策事業
4	いじめや自殺、引きこもりがない	いじめ・不登校対策充実事業、重層的支援体制整備事業
5	子どもが良いことと悪いことの区別ができる	青少年対策事業、子育て支援センター事業
6	人通りが多い場所でもごみが落ちておらず、まちがきれいである	ごみ減量啓発事業、リサイクル推進事業、公園緑地管理事業
7	道路環境がよく、歩行者も自転車も自動車も安全に通行することができる	市道等維持管理業務、道路新設改良事業、交通安全施設管理・整備事業、都市計画道路整備事業
8	交通の利便性がよく、市外から人が移り住んだり、通勤・通学している	地域公共交通活性化事業、都市計画道路整備事業
9	空気がきれいである	温暖化対策推進事業、公害対策事業、新エネルギー推進事業、緑化推進事業
10	日常生活は自然に親しむことができると同時に生活に不自由のないコンパクトシティになっている	農業環境保全事業、土地区画整理事業、公共施設マネジメント推進事業
11	子どもから高齢者まで気軽にスポーツを楽しみ、健康に暮らしている	スポーツ振興事業、健康づくり事業
12	元気なしいちゃん、ばあちゃんの姿を見て、若い世代が老後の生き方に夢を持つことができている	一般介護予防事業、高齢者生きがいづくり事業、包括支援事業、共生交流プラザ管理運営事業
13	教育や子どもに関する予算が確保され、教育環境がよい	小中学校施設維持管理事業、図書館施設維持管理事業、公民館管理運営事業
14	子どもがずっと育ってきた豊明を大好きでいる	豊明夏・秋まつり支援事業、市民文化育成事業
15	誰もが身近に寄り合える場所があり、地域の人と支え合いながら孤立することなく暮らすことができている	障がい福祉サービス事業、多文化共生推進事業、LGBT 事業、共生交流プラザ管理運営事業
16	支援が必要な人の家族の負担が軽減され、日常生活で困ってない	重層的支援体制整備事業、ひとり親支援施策事業、生活困窮者等扶助事業、高齢者在宅サービス事業
17	子どもが地域とつながり、大人になったときにも地域で活動している	青少年対策事業、社会教育活動事業、区・町内会活動支援事業
18	災害時に行政と民間、地域、近隣市町村との連携がとれている	災害対策事業、消防団運営事業
19	防災を行政任せにせず、普段から家庭と地域の準備と連携が十分できており、災害時には助け合うことができる	総合治水対策事業、女性防火クラブ事業、防災啓発事業
20	行政や地域が発信する情報を市民が積極的に共有し、活用している	ホームページ管理事業、広報事業
21	市民が豊明の歴史・伝統・文化に誇りを持ち、次世代が継承し創造している	文化財保護事業、市史編さん事業、市民文化育成事業
22	行政は積極的に市民からの意見を吸い上げる工夫や努力をしている	パブリックコメント事業、広聴事業
23	世代、性別などで不公平感のない予算配分や施策となっている	総合計画進捗管理事務、予算編成事務
24	税収が確保され、持続可能な財政運営となっている	収納管理事務、企業誘致事業、ふるさと豊明応援寄附推進事業、公共施設マネジメント推進事業、私有財産管理事業
25	市職員の顧客サービス向上の意識が高く、市民のほうを見て仕事をしている	職員研修事業、ICT 推進事業、受付サービス事業
26	市民にとって必要な情報が提供され、行政が取り組んでいることが市民に分かりやすい	ホームページ管理事業、広報事業、情報発信推進事業、議会広報広聴事務
27	行政は明確な成果目標を持ち、定期的に達成度を確認し、絶えず改善している	行政評価推進事業、総合計画進捗管理事務
28	子どもを産み育てやすいまちになっており、子どもの数が増えている	妊娠出産子育てワンストップ事業、子育て支援センター事業、保育所等運営事業
29	子どもが元気に外で遊んでいる	スポーツ振興事業、公園施設整備事業、放課後育成事業
30	子どもの個性や感性を尊重し、伸ばしている	青少年対策事業、特別支援教育事業、障がい児福祉サービス事業、学校と地域の連携事業
31	豊明市に魅力があふれ、「通過するまち」から、「足を運んでいただけるまち」になっている	観光活性化事業、友好自治体交流事業、商工業の育成振興事業
32	市内に遊ぶ場所や働く場所があり、豊明市が潤っている	工業団体整備事業、企業誘致事業、農業振興事業
33	高齢者、障がい者など誰でも居場所と出番があり、経験や知識を活かして働き、収入と生きがいを得ている	高齢者生きがいづくり事業、シルバー人材センター関係事務、障がい福祉サービス事業
34	若い世代も地域で活動し、地域の自治力が高まっている	青少年対策事業、市民活動支援事業、区・町内会活動支援事業
35	若い人が豊明市を自分たちのまちとして愛着をもち、新しい感性を活かし、まちづくりが進められている	豊明夏・秋まつり支援事業、観光活性化事業
36	女性が職場や地域で活躍し続けている	女性の復職支援プログラム事業、男女共同参画推進事業、保育所等運営事業
37	子どもが夢を持ち、将来グローバル(グローバル+ローカル)に活躍できる人材に育っている	多文化共生推進事業、学力向上対策事業
38	すべての子どもが質の高い学びに参加し、生きるための学力が向上している	小中学校運営事業、指導力向上事業、定住外国人児童生徒支援事業、総合教育会議事務
39	若い人たちが地元で働ける	創業支援事業、雇用就労対策事業
40	市長や議会、行政は、まちを良くしていくために外からの知識を吸収し、失敗を恐れず果敢にチャレンジしている	行政改革関係事務、広域・民間連携推進事業、行政視察・政務活動事業

1. 子ども、高齢者、障がい者等への虐待やDVなどがない

大施策	子ども、高齢者、障がい者等への虐待やDVを減らす
関連するSDGs	     
主管課	子育て支援課
関係課	秘書広報課、共生社会課、長寿課、地域福祉課、学校教育課



〇まちづくり指標

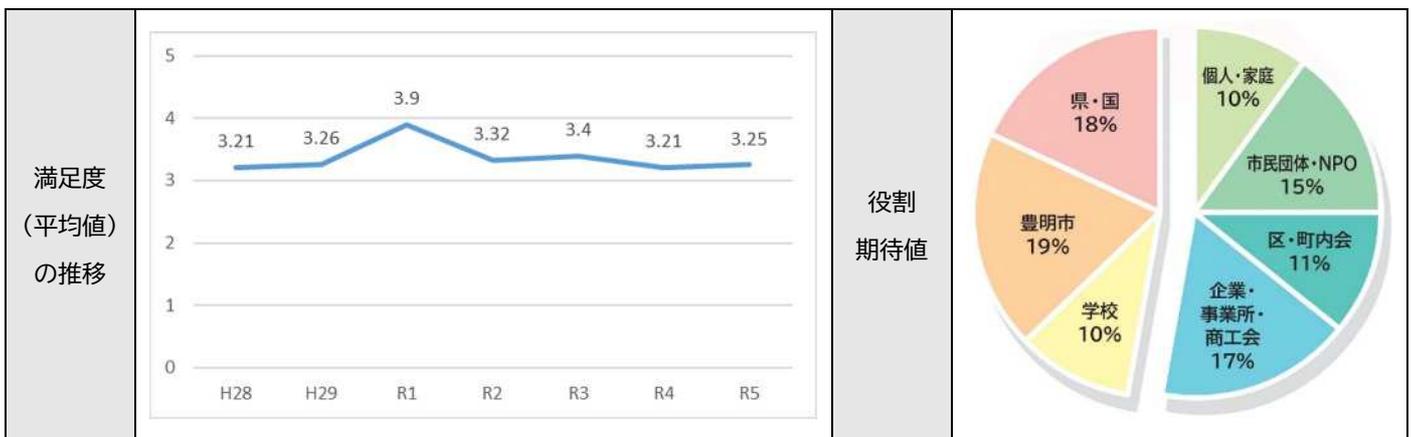
	まちづくり指標	実績値 2014 (H26)	実績値 2016 (H28)	実績値 2017 (H29)	実績値 2018 (H30)	実績値 2019 (R1)	実績値 2020 (R2)	実績値 2021 (R3)	実績値 2022 (R4)	実績値 2023 (R5)	目標値 2025 (R7)	備考	達成度
1	虐待やDVなどが起こらないように見守る地域のネットワークができていると思っている市民の割合(%)	23.1	29.7	25.1	16.2	30.1	27.5	33.1	27.3	30.4	49.5		○
2	虐待、DVの件数(件)	1,685	1,928	2,203	1,833	1,640	1,606	1,951	2,155	1,928	1,909	相談件数	◎
		59	92	61	67	50	65	84	32	39	29	29	認定件数
3	虐待やDVなどに遭遇したときにためらいなく通報できている市民の割合(%)	58.3	57.9	59.2	59.4	58.3	60.4	59.9	62.0	61.9	79.3		○
4	まわりに助けを求めることができる人がいる子ども、高齢者、障がい者等の割合(%)	85.7	83.6	83.4	83.6	85.2	82.4	84.9	83.1	85.4	94.1	子ども	▲
		59.7	73.2	62.4	54.4	62.8	58.3	61.6	60.5	62.2	75.6	高齢者	○
		70.9	69.2	73.0	75.3	74.5	72.6	77.7	73.6	74.1	85.3	障がい者	○

〇めざまちの姿の達成状況や課題(総括)

子ども、高齢者、障がい者の家庭での問題が多様化、複雑化する中、報道される機会も増えたことなどから、虐待やDVに対する問題意識も高まっている。家庭内においては、共働き世帯の増加や介護疲れなど厳しい環境に変化したことや、地域とのつながりの希薄化により地域住民同士で支え合う機会が減少していることも考えられることから、相談件数が増加している。この問題を抱えた世帯を早期に把握し、対応することや孤立を防ぐことが重要であることから、重層的支援体制整備事業の実施やおたがいさまセンター「ちゃっと」の取り組み等相談支援体制の強化や地域のつながりづくりに取り組んできた。ネットワークができていると思う市民の割合や周りに助けを求め市民の割合はめざそう値に届いていないものの上昇傾向にあり、引き続き地域のネットワーク(つながり)づくりに努める。

2. 多様な主体者が連携して、将来を見据えた医療や福祉の戦略を実行しており、市民が安心している

大施策	市民が安心できる医療や福祉の戦略を多様な主体者が連携して実行されるよう整備する
関連する SDGs	 
主管課	長寿課
関係課	共生社会課、地域福祉課、健康推進課、保険医療課、子育て支援課



〇まちづくり指標

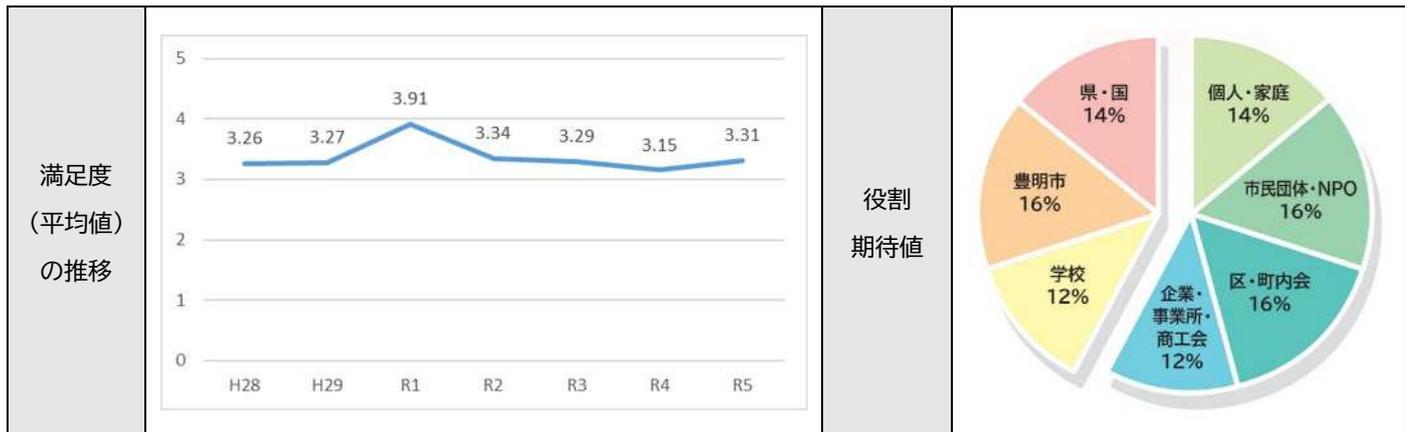
	まちづくり指標	実績値 2014 (H26)	実績値 2016 (H28)	実績値 2017 (H29)	実績値 2018 (H30)	実績値 2019 (R1)	実績値 2020 (R2)	実績値 2021 (R3)	実績値 2022 (R4)	実績値 2023 (R5)	目標値 2025 (R7)	備考	達成度
1	医療や福祉施設、制度の利用者の満足度 (%)	49.6	54.9	56.2	49.1	63.9	64.7	62.5	55.9	60.4	67.7		○
2	利用できる医療施設、福祉施設の数(施設)	143	171	161	155	169	169	176	188	192	173		◎
3	医療や福祉分野における連携プロジェクトの数(事業) (具体的な事業数のため運営協議会等は除く)	2	5	5	2	4	4	6	9	10	11		○

〇めざすまちの姿の達成状況や課題(総括)

本市は高度医療の提供が可能な藤田医科大学病院をはじめとし、医療機関、介護施設を多く有することから、医療、介護を受ける環境について非常に恵まれた地域である。利用できる施設数も増加傾向にある中、利用者の満足度も60%程度まで高まっている。多職種の視点による多職種合同ケアカンファレンスをはじめ地域包括ケアの充実やおたがいさまセンター「ちゃっと」など支援を必要とする市民を市民が支える仕組みやあいさつからはじまる地域の輪を広げるあいさつ運動など様々な活動を通じてサポーターや推進員が増え、安心して暮らすことができる地域づくりに繋がっている。また、専門職で構成される重層支援センターを設置したことにより、誰一人取り残されない地域づくりの実現に向け、関係機関が連携したきめ細かな支援ができる体制となった。

3. まちが明るく、地域の防犯活動が活発で、犯罪が少ない

大施策	明るく、地域の防犯活動が活発で犯罪が少ないまちをつくる
関連する SDGs	  
主管課	防災防犯対策課
関係課	都市計画課



○まちづくり指標

	まちづくり指標	実績値 2014 (H26)	実績値 2016 (H28)	実績値 2017 (H29)	実績値 2018 (H30)	実績値 2019 (R1)	実績値 2020 (R2)	実績値 2021 (R3)	実績値 2022 (R4)	実績値 2023 (R5)	目標値 2025 (R7)	備考	達成度
1	自主防犯ボランティア団体の登録数(団体)	61	64	66	66	66	67	70	69	65	81		○
2	犯罪発生件数(件)	833	660	493	514	360	282	256	275	396	302		○
3	この1年で、市内で怖い思いをしたことのある市民の割合(%)	6.0	7.5	4.7	5.2	5.1	5.0	6.1	6.7	6.0	3.4		-

○めざすまちの姿の達成状況や課題(総括)

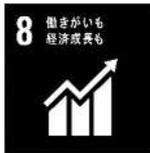
防犯カメラの設置や防犯灯の LED 化が進みハードの防犯環境は一定の整備を図ることができた。一層地域での活用がしやすい補助事業の在り方なども工夫をしていく。

市民の防犯意識は高く犯罪発生件数も目標の達成に向けて推移できている。しかし、報道等にある高齢者を主に狙った特殊詐欺も巧妙化しながら発生し続け、減ることのない状態が続いている。このため関係機関連携のもと啓発を重ねてきた。

高齢化の問題は地域における防犯ボランティアの減少にも表れているとおり、担い手の不足、活動継続の断念という問題を顕在化させており、高齢化が進む中、地域力を維持していくことがこれからの課題である。地域ごとの防犯活動機能の維持への工夫など知恵の共有機会を意識的に設けるなどしてしっかりと備えていきたい。

空き家対策においても啓発活動を展開し、財産の適切な処分等が行われるなど高齢化への備えをしっかりと行うことが地域の資産価値の維持として課題となってきている。

4. いじめや自殺、引きこもりがない

大施策	子どものいじめや自殺、引きこもりを減らす
関連する SDGs	    
主管課	学校教育課
関係課	地域福祉課、共生社会課



〇まちづくり指標

	まちづくり指標	実績値 2014 (H26)	実績値 2016 (H28)	実績値 2017 (H29)	実績値 2018 (H30)	実績値 2019 (R1)	実績値 2020 (R2)	実績値 2021 (R3)	実績値 2022 (R4)	実績値 2023 (R5)	目標値 2025 (R7)	備考	達成度
1	学校以外の習い事やグループで友達ができた子どもの割合(%)	83.2	80.6	80.0	80.0	85.2	77.7	76.9	74.5	79.2	90.1		▲
2	不登校の子どもの数(人)	87	75	75	78	81	95	132	176	203	49		▲
3	学校でのいじめ件数(件)	85	47	90	52	61	59	45	53	77	48		○
4	市内の自殺者数(人)	12	11	11	6	12	8	7	12	16	5		▲

〇めざままの姿の達成状況や課題(総括)

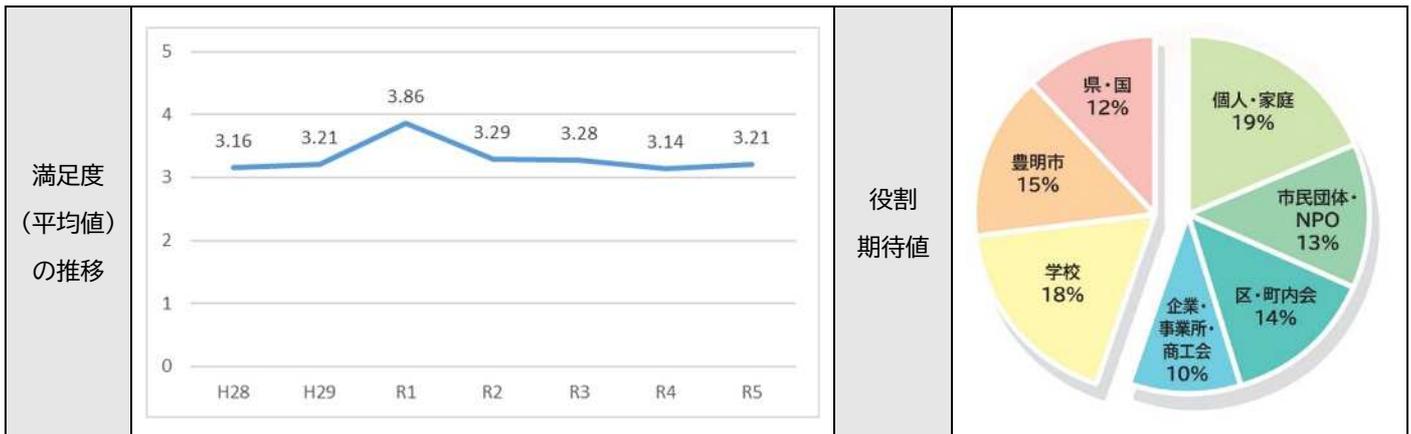
新型コロナ感染症拡大が長く続いたことで、不登校の増加、自殺などは少なからず影響が生じているものと推察され、特に不登校の子どもの数はコロナ後、大きく増加している。

学校においては、フレンドひまわりの活用、SSW(スクールソーシャルワーカー)、SC(スクールカウンセラー)の積極的な配置拡大により対応してきたが、複雑化、多様化、原因不明のケースも多く、増加に対して有効な手立てを見いだせていないのが現状である。校内フリースクールなど新たな取り組みを進めつつも、居場所づくりとして既存のもの以外の様々な多様な居場所作りなど対応、検討が必要と思われる。

さまざまな兆候や SOS を経て最悪の場合には自殺という結果に至ることから、早期に兆候を発見し、対応していくことが必要である。そのためには、ゲートキーパー育成やメンタルヘルスに関する知識の共有などを通し、専門的な見地で多くの目で見守ることや、ケースによっては福祉部門、教育部門にとどまらず、重層的な支援体制の中で横断的に地域や各専門職を様々な見地からの意見を聞きながら対処していくことが望まれる。

5. 子どもが良いことと悪いことの区別ができる

大施策	善悪の区別ができる子どもを育てる
関連する SDGs	  
主管課	生涯学習課
関係課	子育て支援課、学校教育課、図書館



〇まちづくり指標

	まちづくり指標	実績値 2014 (H26)	実績値 2016 (H28)	実績値 2017 (H29)	実績値 2018 (H30)	実績値 2019 (R1)	実績値 2020 (R2)	実績値 2021 (R3)	実績値 2022 (R4)	実績値 2023 (R5)	目標値 2025 (R7)	備考	達成度
1	よその子どもを褒めたり注意したりできる市民の割合 (%)	53.7	52.4	53.6	47.9	49.8	51.6	49.0	45.0	45.9	71.8		▲
2	良いことと悪いことの区別ができていると思う子どもの割合 (%)	79.8	80.1	78.2	81.6	83.0	82.6	81.7	87.9	88.6	89.0		○
3	親子のコミュニケーションがとれていると思う親の割合・子どもの割合 (%)	91.1	93.6	92.3	93.6	92.5	94.9	95.2	96.5	95.3	96.3	保護者	○
		87.9	82.0	80.1	80.6	83.2	82.4	85.3	83.7	86.8	93.8	子ども	▲
4	悪いことをしている友達などを見たときに注意できる子どもの割合 (%)	54.6	59.2	54.9	59.2	62.3	58.7	63.1	68.8	68.4	72.2		○
5	子どもの補導件数 (件)	742	438	270	213	150	193	356	321	381	120		○

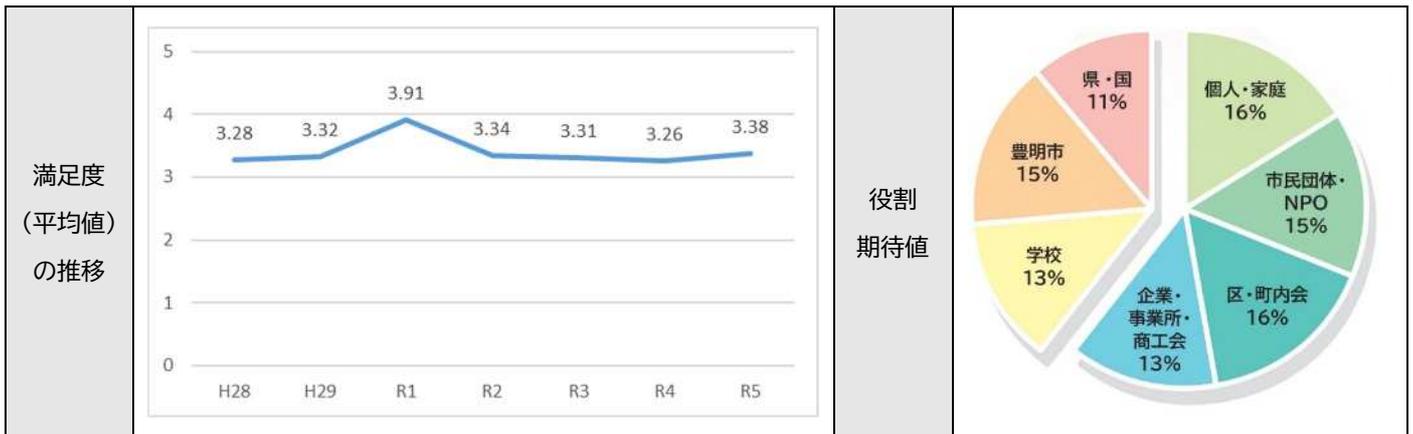
〇めざすまちの姿の達成状況や課題(総括)

期間全体を通して、親子間のコミュニケーションに関するまちづくり指標では、親子間でのコミュニケーションができていることへの意識の差がみられている。親子・家庭の支援、地域も含めた対話の機会の創出などを一層進めていくことが必要であり、教育など諸分野での共通のツールとなっている ICT などの活用も視野に入れて進めていく。

また、よその子どもを褒めたり注意できる割合の指標について、年齢層ごとでは、高齢者のほうが褒めたり注意したりできる割合が高くなっている傾向があることから、かつてからの子育てに関する地域のつながりはやはり希薄化している傾向や、親世代の考え方が変化してきていることも読み取れる結果となっている。保護者や市民に対する講演会などの開催などから、子どものしつけは学校だけではなく、家庭や地域で行うという意識の醸成が望まれる。

6. 人通りが多い場所でもごみが落ちておらず、まちがきれいである

大施策	ごみが落ちていないきれいなまちをつくる
関連する SDGs	     
主管課	共生社会課
関係課	都市計画課、環境課



〇まちづくり指標

	まちづくり指標	実績値 2014 (H26)	実績値 2016 (H28)	実績値 2017 (H29)	実績値 2018 (H30)	実績値 2019 (R1)	実績値 2020 (R2)	実績値 2021 (R3)	実績値 2022 (R4)	実績値 2023 (R5)	目標値 2025 (R7)	備考	達成度
1	まちがきれいだと感じている市民の割合 (%)	59.3	65.6	65.4	64.4	68.7	68.3	67.5	64.1	67.7	75.2		○
2	アダプトプログラム(公園、道路、河川等の清掃美化ボランティア活動)参加者に配布したゴミ袋の枚数/年間(枚)	1,150	1,180	910	510	1,110	1,200	1,570	1,642	1,110	1,560		▲
3	積極的に清掃活動に参加している市民の割合 (%)	43.6	45.2	45.1	40.5	41.2	40.5	37.4	39.6	40.6	62.0		▲

〇めざまちの姿の達成状況や課題(総括)

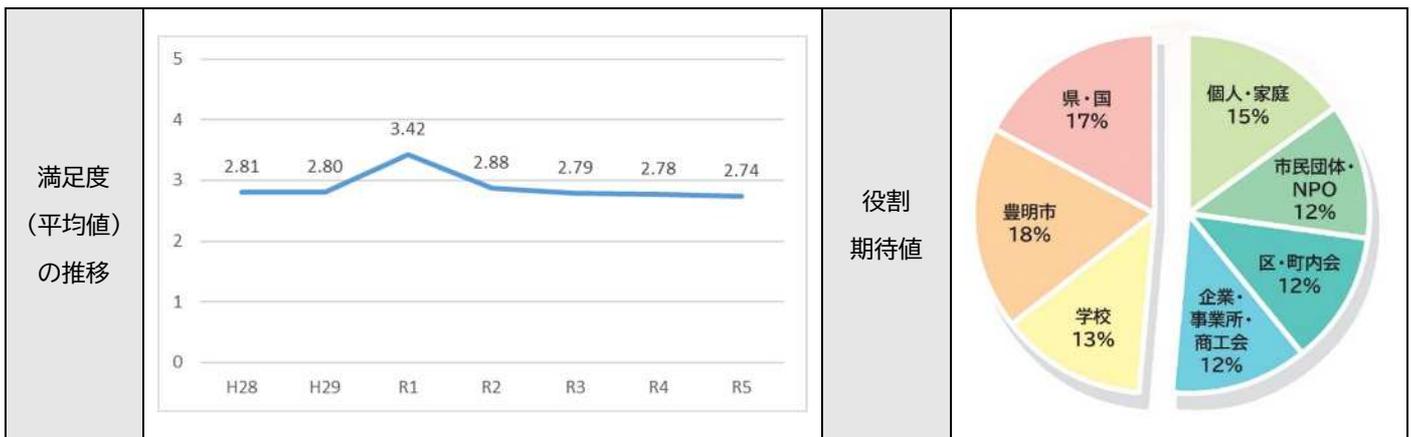
ボランティアやアダプトプログラムなど市民の力を期待しながら本市の公共空間は快適性が維持されてきた。この方向性はこれからも変わることはない。

コロナ禍もあり、活動の抑制などが生じた時期では清掃活動への参加が減少しているという市民の主観指標の実績が見受けられるものの、約 4 割の参加意識を維持できていること自体が本市の市民参加の特性を表しているものと理解できる。このことは、ごみの排出抑制に関わる部分においては一層客観数値として現れており、市民の高い環境意識が損なわれることなく維持されていることを示している。法改正に伴いいち早く導入したプラスチック一括回収も市民の理解はスムーズで可燃ごみ排出抑制にも効果をもたらしている。また他世代に向けた環境意識の醸成のための体験型イベントである環境フェスタも回を重ね多様な担い手による意識啓発が定着した。増加する外国籍住民についてもゴミ出しのルールの多言語化などに適時対応できている。

行政として公共空間の快適性やごみの排出抑制については、これからも市民とともに取り組むという前提で今後も積極策を講じていく。

7. 道路環境がよく、歩行者も自転車も自動車も安全に通行することができる

大施策	利用者が安心して通行できる道路環境をつくる
関連する SDGs	   
主管課	土木課
関係課	防災防犯対策課、都市計画課



〇まちづくり指標

	まちづくり指標	実績値 2014 (H26)	実績値 2016 (H28)	実績値 2017 (H29)	実績値 2018 (H30)	実績値 2019 (R1)	実績値 2020 (R2)	実績値 2021 (R3)	実績値 2022 (R4)	実績値 2023 (R5)	目標値 2025 (R7)	備考	達成度
1	交通マナーが良くなったと思う市民の割合 (%)	39.1	43.0	40.7	41.4	47.8	47.6	47.6	47.2	50.9	58.9		○
2	安全に通行するための適切な交通規制や対策があると思う市民の割合 (%)	39.1	46.1	42.7	46.2	46.9	50.9	49.8	44.7	50.1	57.8		○
3	道路がスムーズに走れると感じる市民の割合 (%)	40.1	41.1	38.0	38.0	43.4	39.9	35.3	40.4	38.6	60.1		▲
4	交通事故発生件数(歩行者・自転車・自動車) (件)	403	358	431	410	274	197	194	160	166	265		◎

〇めざすまちの姿の達成状況や課題(総括)

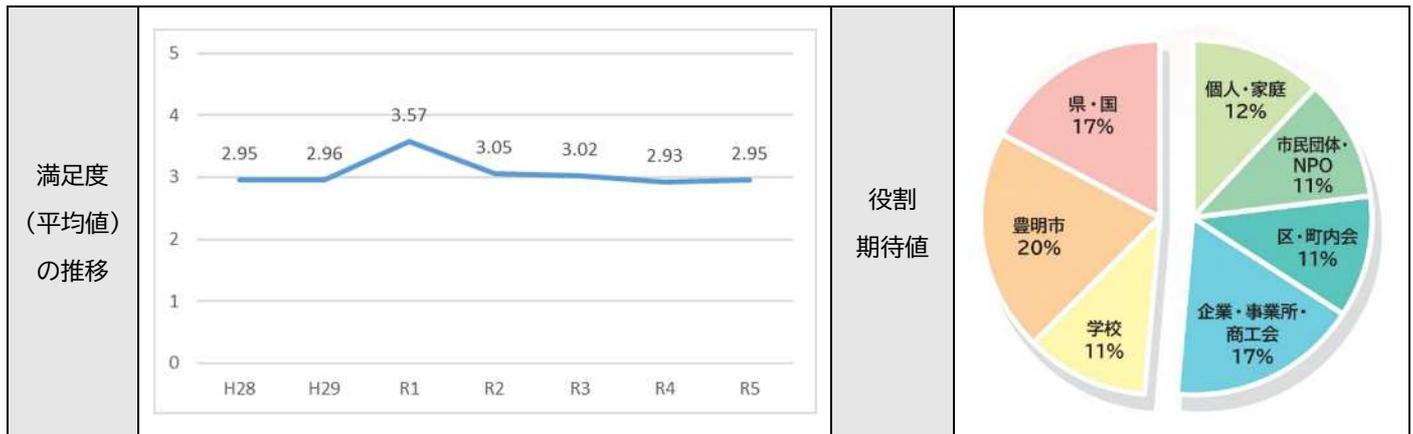
交通ルールの理解と遵守を目的とした交通安全啓発活動により、交通マナーが良くなったと思う市民の割合は順調にめざそう値に向かっていることから、今後も啓発活動を推進する。

交通安全対策として、通学路交通安全プログラムに基づき通学路における関係機関による危険個所の点検を行い、対策が必要な個所において防護柵の設置、区画線の設置等を実施し、児童生徒が安全に通学できるように通学路の安全確保を行うことにより、めざそう値達成に対して着実に推移しており、継続的に実施していくことが重要である。

また、区長要望工事を推進することにより路肩部の側溝を蓋付に改修し、歩行者の安全に通行を可能とする歩行空間を確保が行われている一方、道路がスムーズに走れると感じる市民の割合が低下していることから、効率的な道路舗装の点検を行い、効果的な草刈りの実施を模索する必要がある。

8. 交通の利便性がよく、市外から人が移り住んだり、通勤・通学している

大施策	交通の利便性を高め、移住を促し、通勤・通学しやすくなるようにする
関連する SDGs	  
主管課	都市計画課
関係課	企画政策課、防災防犯対策課



〇まちづくり指標

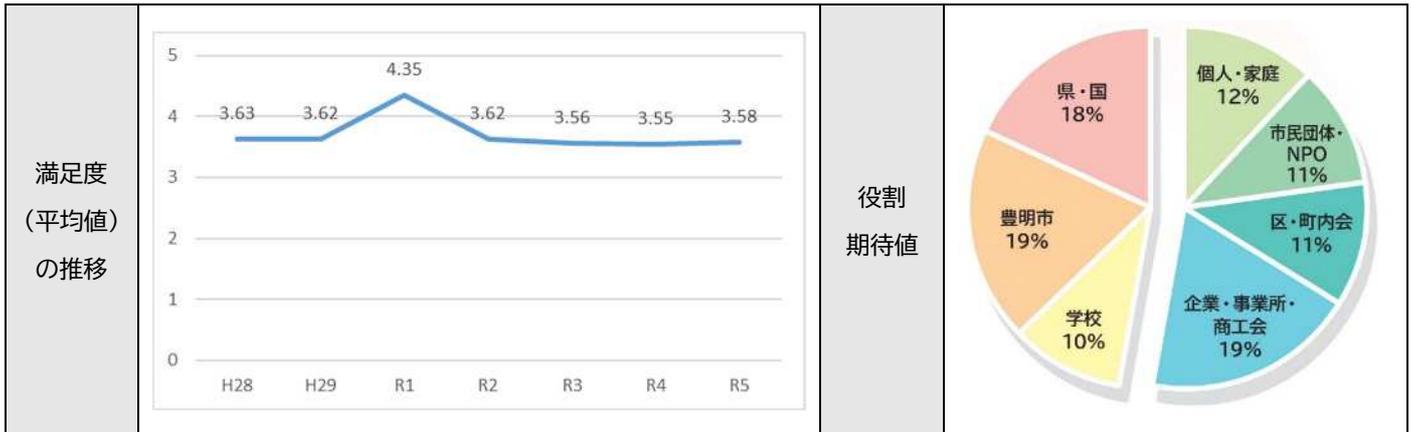
	まちづくり指標	実績値 2014 (H26)	実績値 2016 (H28)	実績値 2017 (H29)	実績値 2018 (H30)	実績値 2019 (R1)	実績値 2020 (R2)	実績値 2021 (R3)	実績値 2022 (R4)	実績値 2023 (R5)	目標値 2025 (R7)	備考	達成度
1	交通アクセスが良くなったと思う市民の割合 (%)	59.3	56.5	58.8	61.7	63.8	63.8	65.1	62.4	62.8	73.2		○
2	豊明3駅の年間利用者数(千人)	11,930	12,444	12,691	13,046	13,268	10,038	10,582	11,283	11,683	14,006		▲
3	転入者数・転出者数/年間(人)	3,327	3,288	3,369	3,443	3,715	3,145	2,929	3,517	3,408	3,959	転入者数	○
		3,281	3,069	3,497	3,302	3,485	3,296	3,351	3,419	3,425	2,793	転出者数	▲

〇めざすまちの姿の達成状況や課題(総括)

平成 31 年にひまわりバスの全面路線改正を実施し、コンパクトな路線にして運行本数を増加した。併せて、交通不便地域では、チョイソコとよあけを導入し、民間企業と連携した交通施策をスタートした。新型コロナウイルス感染症をきっかけとした生活様式の変容による移動需要の低下により豊明 3 駅の年間利用者数は目標値に達していないが、元来多くの利用者数を有する駅を含んでおり、今後の回復傾向と市営駐輪場の開設による駅利用者の利便性の向上から利用者増加が期待されることから今後も利用者数の動向に対して注視していく。道路交通網整備として市道桜ヶ丘沓掛線の内山地区が平成30年度に開通し、名四国道、大府市とのアクセス改善を図った、今後は県事業である主要地方道名古屋岡崎線整備を中心に市道桜ヶ丘沓掛線等の接続による新たな道路交通網の整備促進を図るため設計業務や用地調査業務を実施した。今後は市内から刈谷スマートインターチェンジへの重要なアクセス道路となり名古屋市緑区方面への接続を行い充実した道路ネットワークの形成のため事業推進の協力を強化していく。

9. 空気がきれいである

大施策	きれいな空気を保全する
関連する SDGs	     
主管課	環境課
関係課	企画政策課、土木課、都市計画課



〇まちづくり指標

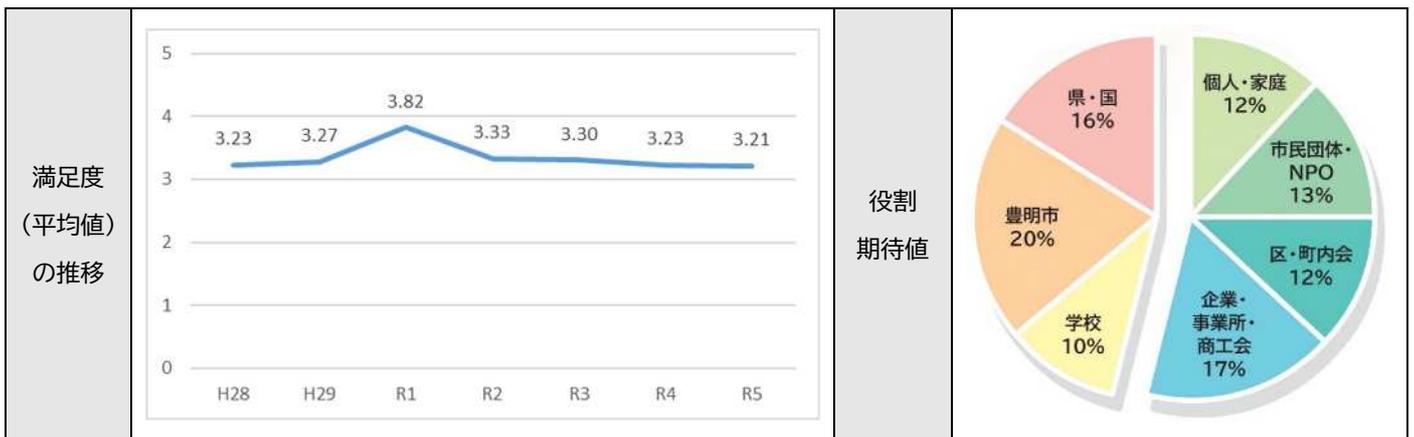
	まちづくり指標	実績値 2014 (H26)	実績値 2016 (H28)	実績値 2017 (H29)	実績値 2018 (H30)	実績値 2019 (R1)	実績値 2020 (R2)	実績値 2021 (R3)	実績値 2022 (R4)	実績値 2023 (R5)	目標値 2025 (R7)	備考	達成度
1	空気がきれいだと感じている市民の割合 (%)	71.8	75.9	74.5	73.4	77.2	73.9	75.7	72.3	72.6	81.3		○
2	一人当たりの公園・緑地面積(m ²)	9.4	9.8	9.8	9.8	9.8	11.1	11.2	11.2	11.2	10.4		◎
3	大気中の汚染物質の基準値に対する豊明市の数値	0.012	0.010	0.010	0.011	0.010	0.009	0.009	0.009	0.008	0.009	二酸化窒素 ppm	◎
		0.020	0.020	0.018	0.018	0.017	0.016	0.015	0.015	0.015	0.015	浮遊粒子状物 mg/m ³	◎
		0.030	0.032	0.033	0.034	0.034	0.034	0.035	0.034	0.030	0.023	光化学オキシダント ppm	○
4	再生可能エネルギーを利用したいと思う市民の割合 (%)	65.9	65.8	67.7	67.3	64.7	67.1	69.8	68.2	66.4	78.8		○

〇めざまちの姿の達成状況や課題(総括)

空気がきれいを表すためのまちづくり指標は概ね順調に推移しているため、引き続き公害対策監視活動を継続しつつ気候変動影響の観点から豊明市環境基本計画、とよあけエコアクションプランにもとづき温暖化対策を一層進めていく。令和5年度には愛知用水の敷地を一部有効活用し、新設公園として館西公園を整備し、公園・緑地面積はめざまちを達成しており、今後の都市公園の管理については指定管理者と十分に協議を重ねながら、目指す市民一人当たりの公園・緑地面積を確保しつつ、各種イベントを通じ、フラワーボランティアの方々とも連携しつつ花の街豊明として、公園の花壇植え替えや各種イベントを実施することにより利用満足度を高め、関連指標に対して良い結果をもたらすよう貢献していく。

10. 日常生活は自然に親しむことができると同時に生活に不自由のないコンパクトシティとなっている

大施策	自然を確保しながら生活に不自由のない街をつくる
関連する SDGs	    
主管課	都市計画課
関係課	企画政策課、公共施設管理課、都市計画課、土木課、環境課



〇まちづくり指標

	まちづくり指標	実績値 2014 (H26)	実績値 2016 (H28)	実績値 2017 (H29)	実績値 2018 (H30)	実績値 2019 (R1)	実績値 2020 (R2)	実績値 2021 (R3)	実績値 2022 (R4)	実績値 2023 (R5)	目標値 2025 (R7)	備考	達成度
1	買い物や窓口行政サービスが便利になったと感じている市民の割合 (%)	57.4	61.2	60.5	61.6	59.1	62.7	61.0	62.4	59.4	72.6		○
2	市内の移動がしやすくなったと思う市民の割合 (%)	59.3	59.8	60.3	60.7	62.1	65.1	64.7	62.0	63.6	73.0		○
3	身近に自然に親しむことができる場所があると思う市民の割合 (%)	62.2	67.7	65.8	68.3	67.4	67.9	68.6	63.6	65.8	74.6		○
4	市街化区域内人口の割合 (%)	74.7	75.1	75.1	75.1	75.3	75.5	76.8	76.8	77.2	78.7		○

〇めざすまちの姿の達成状況や課題(総括)

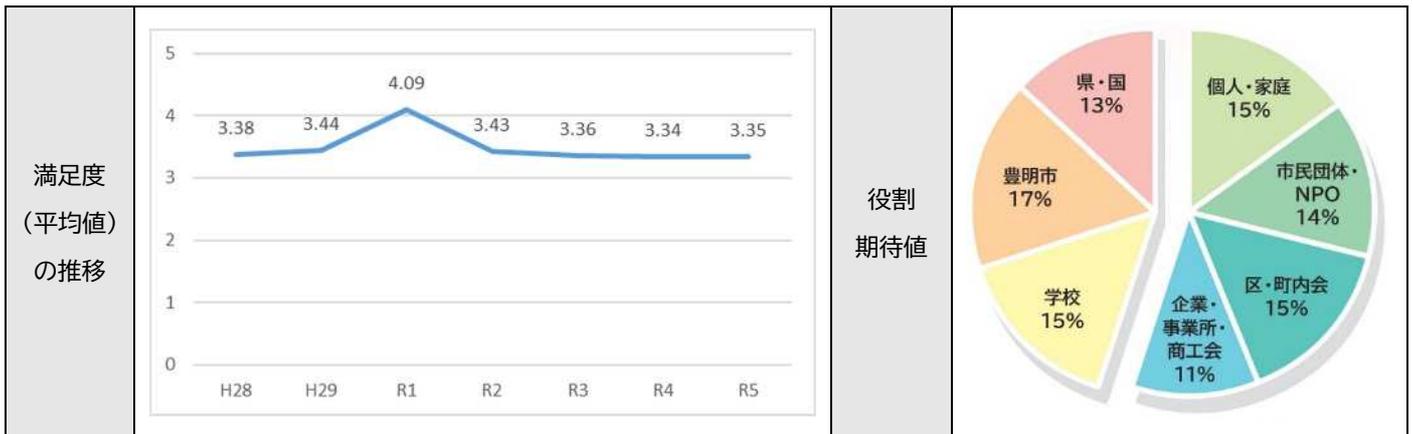
いずれのまちづくり指標も、めざす値には届いていないものの順調に推移している。

「チョイソコ」の導入や「おたがいさまセンターちゃっと」などの取り組みから「買い物や窓口行政サービス便利となっていると感じている市民の割合」が高い水準を維持しており評価に値する。持続可能なまちづくりのための施策のひとつとして、市民及び転入者が住み続けたいと感じるような市街地の整備を行いコンパクトシティの形成を図るため、2地区において土地区画整理事業を実施しており造成工事、換地指定等が計画通り進められ、商業施設の配置、公園、緑地の整備による景観の保全など住民の生活や健康を考慮したまちづくりにより、子育て世代などへの住宅・宅地の供給を図る方向に進んでおりさらに推進していく。

日常生活の中で自然を実感できる環境をつくる取り組みとして、公園緑地、道路の街路樹の適正な管理を目的とした樹木剪定や草刈りの実施を推進していく。

11. 子どもから高齢者まで気軽にスポーツを楽しみ、健康に暮らしている

大施策	誰もが気軽に運動を楽しみ、健康に暮らせるまちをつくる
関連する SDGs	   
主管課	健康推進課
関係課	健康推進課、長寿課、生涯学習課



〇まちづくり指標

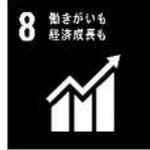
	まちづくり指標	実績値 2014 (H26)	実績値 2016 (H28)	実績値 2017 (H29)	実績値 2018 (H30)	実績値 2019 (R1)	実績値 2020 (R2)	実績値 2021 (R3)	実績値 2022 (R4)	実績値 2023 (R5)	目標値 2025 (R7)	備考	達成度
1	スポーツをするために必要な情報が得られている市民の割合 (%)	30.4	39.1	39.6	37.7	39.8	38.5	37.1	37.0	39.7	58.7		○
2	スポーツを教えてくれる人がいると思う市民の割合 (%)	24.6	29.4	30.4	26.2	31.3	27.6	26.6	26.4	29.3	46.4		○
3	スポーツを楽しむことができている市民の割合 (%)	37.1	39.6	39.2	36.4	36.8	35.7	37.6	37.7	40.0	58.9		○
4	医療機関にかかっていない市民の割合 (%)	15.2	14.1	11.1	16.5	14.5	17.6	16.8	16.3	14.3	29.2		▲

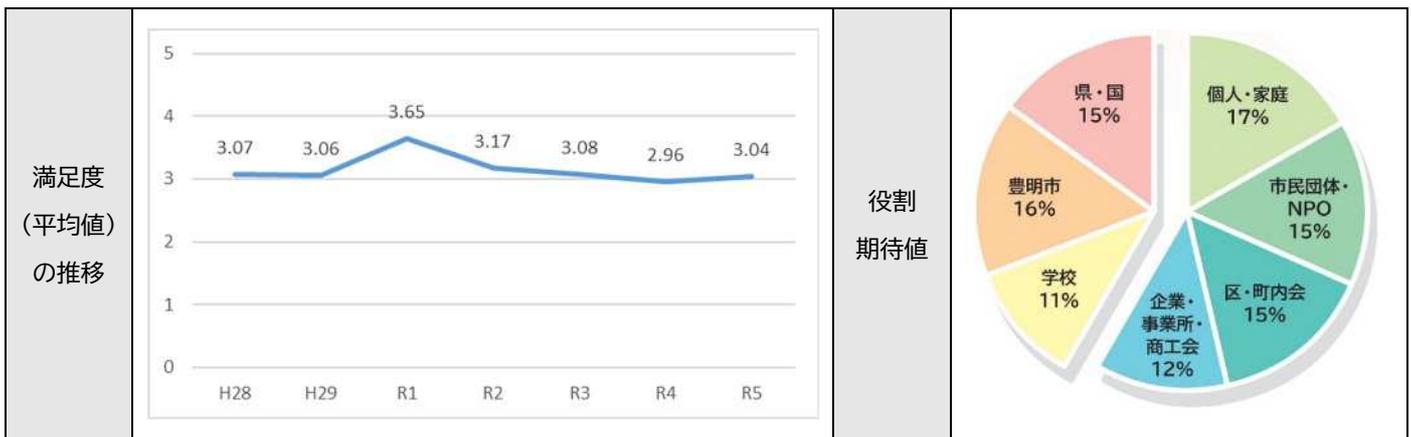
〇めざすまちの姿の達成状況や課題(総括)

食習慣の改善とともに運動習慣を身につけるなどの適切な生活習慣は、生活習慣病予防のほか、身体的機能を維持増進し生活の質の向上を図る上でも重要であることから、「第2次とよあけ健康21計画」において、運動習慣者の割合を増加する目標を掲げて、健康の維持に繋がるような運動習慣の定着に努めています。健康ウォーキングは、参加者数は徐々に増加していますがコロナ禍前の参加数までは戻っていません。

また、まちづくり指標の「スポーツを楽しむことができている市民の割合」や「スポーツをするために必要な情報が得られている市民の割合」も順調に伸びており、引き続きハード面の整備だけでなく、市民一人一人に合わせた身体を動かすきっかけ作りや指導者の育成に努めていくことが重要である。

12. 元気なじいちゃん、ばあちゃんの姿を見て、若い世代が老後の生き方に夢をもつことができる

大施策	元気な高齢者の姿を見て、若い世代が老後に夢を持てるまちをつくる
関連する SDGs	   
主管課	長寿課
関係課	共生社会課、産業支援課、生涯学習課



○まちづくり指標

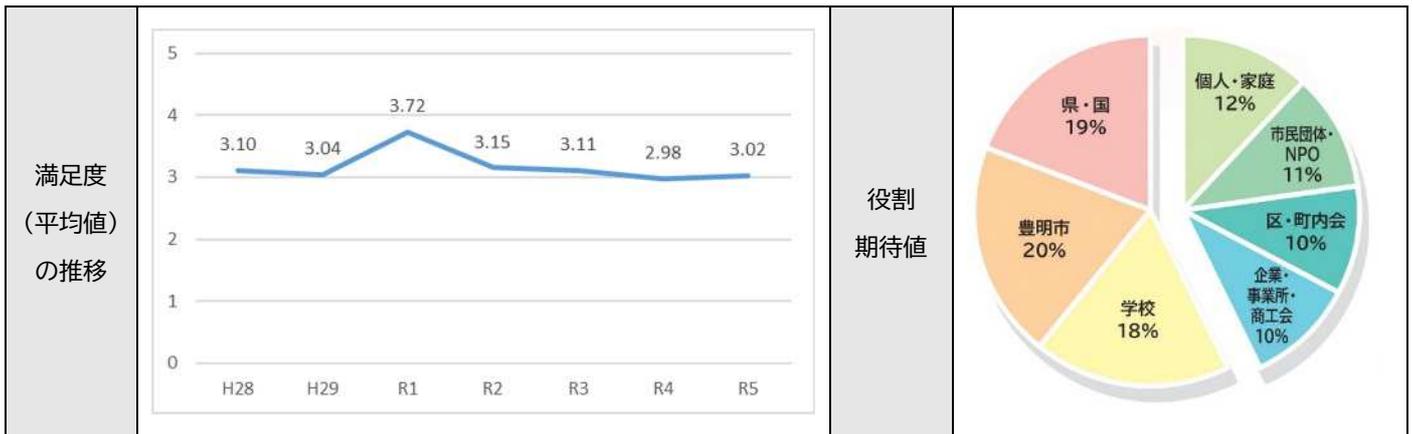
	まちづくり指標	実績値 2014 (H26)	実績値 2016 (H28)	実績値 2017 (H29)	実績値 2018 (H30)	実績値 2019 (R1)	実績値 2020 (R2)	実績値 2021 (R3)	実績値 2022 (R4)	実績値 2023 (R5)	目標値 2025 (R7)	備考	達成度
1	近所の高齢者がいきいきしていると思っている市民の割合 (%)	54.9	60.2	57.6	62.2	63.5	63.3	61.9	54.3	62.8	71.4		○
2	人生が楽しいと感じている高齢者の割合 (%) (65歳以上)	75.2	87.8	78.3	71.5	74.6	72.0	72.0	72.9	76.7	85.7		○
3	老後の生き方に夢があると思っている若者の割合 (%) (50代以下)	18.4	14.8	23.2	19.9	23.1	26.0	27.8	25.1	23.5	40.3		○

○めざすまちの姿の達成状況や課題(総括)

高齢者の老後の過ごし方は健康長寿の観点からも重要であるが、その選択肢も広がり、定年延長により就労を継続される場合やシルバー人材センターに登録して就労される場合など働き方も多様となっている。また、就労ではなく市民大学ひまわり等の講座の受講や運動教室などへの参加、ボランティア活動、地域活動など様々であるが、高齢者が元気に健康で活躍することがまちづくり指標の割合を高め、健康増進だけでなく、孤立を防ぎ、地域のつながり、支え合いが生まれる温かいまちづくりに繋がるものである。本市の要介護認定率は国や県平均と比べ低い状況であり、今後高齢化が進む中、高齢者が外出しやすい環境を整え、多世代と交流できる機会をつくるなど引き続き重度化防止につながる事業を実施していくことが必要である。こうした様々なことに参画する元気な高齢者の姿を若者が見ることで「老後の生き方に夢があると思っている若者の割合」を高めることにつなげていきたい。

13. 教育や子どもに関する予算が確保され、子どもの教育環境がよい

大施策	教育や子どもに関する予算を確保し、教育環境を整える
関連する SDGs	   
主管課	学校教育課
関係課	企画政策課、財政課、公共施設管理課、生涯学習課、図書館



〇まちづくり指標

	まちづくり指標	実績値 2014 (H26)	実績値 2016 (H28)	実績値 2017 (H29)	実績値 2018 (H30)	実績値 2019 (R1)	実績値 2020 (R2)	実績値 2021 (R3)	実績値 2022 (R4)	実績値 2023 (R5)	目標値 2025 (R7)	備考	達成度
1	子どもにとって必要な教育環境が整っていると思う市民の割合 (%)	44.3	53.9	51.2	47.5	55.3	56.9	54.9	53.3	42.4	64.8		▲
2	子どもにとって必要なところに予算配分がされていると思う教育関係者の割合 (%)	13.1	18.0	22.0	33.7	36.2	49.0	49.5	51.7	49.3	38.7		◎
3	歳出の内、教育や子どものための予算の割合	3,479	4,296	4,207	4,140	4,874	5,129	5,272	5,004	5,104		(百万円)	-
		19.5	21.8	21.6	20.7	24.3	25.2	24.0	22.0	22.2	23.2	(%)	○

〇めざすまちの姿の達成状況や課題(総括)

少子高齢化に伴う福祉費増などによる市の予算が増大しつつあるなか、教育費など子どもたちへの予算の割合はソフト、ハードの両面において一定の予算確保、執行ができてきている状況にある。

学校教育におけるソフト面としては、GIGA スクール化などに伴う ICT への対応で大きく増えていることで新たな教育環境の整備が進んでいることや、市費負担教員や外国籍児童などへの対応予算が充実した教育環境確保につながっている。これは教育関係者へのアンケート指標の数値にもほぼ右肩上がりの評価の形で表れている。

一方で、ハード面では教育施設は総じて老朽化、旧態化が進んでおり、市民や子どもたちの利用環境、学習環境、安全安心などを維持していくために優先的に必要な改修を進めてきているが、将来にわたっては、持続的かつ計画的な大規模改修を具体的なビジョンを持って計画していく時期となっている。教育環境や各施設に対する市民のニーズを整理しつつ、今後の財政状況を考慮しながら進めていく必要がある。

14. 子どもが、ずっと育ってきた豊明を大好きでいる

大施策	子どもがずっと育ってきたとよあけを大好きになる環境をつくる
関連する SDGs	   
主管課	生涯学習課
関係課	秘書広報課、企画政策課、共生社会課、産業支援課、学校教育課、図書館



〇まちづくり指標

	まちづくり指標	実績値 2014 (H26)	実績値 2016 (H28)	実績値 2017 (H29)	実績値 2018 (H30)	実績値 2019 (R1)	実績値 2020 (R2)	実績値 2021 (R3)	実績値 2022 (R4)	実績値 2023 (R5)	目標値 2025 (R7)	備考	達成度
1	自然が大切にされている と思っている市民の割合 (%)	64.8	70.9	69.3	64.7	71.3	71.3	73.0	66.7	69.8	76.9		○
2	豊明を自慢できる市民の 割合(%)	39.3	47.1	40.7	44.7	45.4	46.9	48.4	40.8	43.4	59.1		○
3	ふるさと納税の件数と金 額	2	2,663	1,593	1,743	1,383	1,885	1,368	1,467	918	3,000	(件)	○
		12	35,168	21,325	22,599	24,340	24,559	19,668	21,133	16,338	43,000	(千円)	○

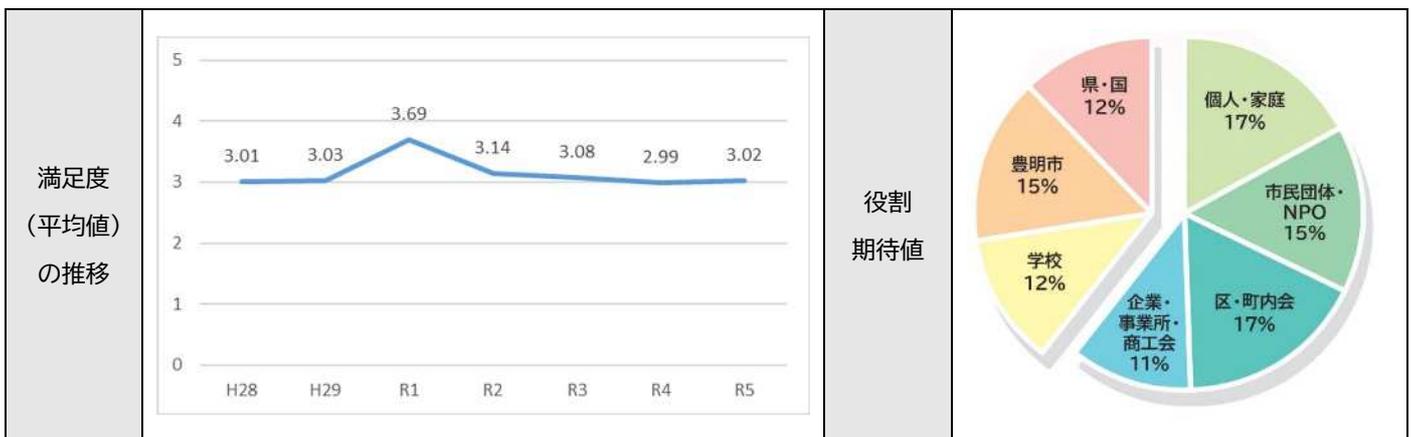
〇めざまちの姿の達成状況や課題(総括)

豊明市を自慢できる市民の割合の指標は、高齢世代が低くなるのと対照的に若い世代で割合が高くなっている傾向が見受けられる。その原因は明確でないものの、学校での地域理解の学習と併せて、成長していく過程で学んだ豊明市の自然や歴史背景、市内施設・文化などが、自ら住んでいる「まち」のよさとしてプラス認識されてきていることが考えられる。

また、コロナ以降、楽しめるイベントや地域活動が復活・活性化してきたことにより、子どもたちなど若い世代が自分たちの住んでいる豊明の魅力に関する情報について共有でき、実際に触れる機会を増えていることも窺われる。今後さらにカラットなどで市民が主体となって行われる行事や子どもたちが楽しい体験ができる場所や機会が増え、自分の住んでいるまちのよさとして認識できる機会が増えることが、さらなる子どもたちの豊明市への愛着につながっていくものと期待する。

15. 誰もが身近に寄り合える場所があり、地域の人と支え合いながら孤立することなく暮らすことができている

大施策	身近に寄り合える場所をつくり、地域で支え合える環境をつくる
関連する SDGs	    
主管課	地域福祉課
関係課	秘書広報課、共生社会課、長寿課、産業支援課、農業政策課 学校教育課、生涯学習課



〇まちづくり指標

	まちづくり指標	実績値 2014 (H26)	実績値 2016 (H28)	実績値 2017 (H29)	実績値 2018 (H30)	実績値 2019 (R1)	実績値 2020 (R2)	実績値 2021 (R3)	実績値 2022 (R4)	実績値 2023 (R5)	目標値 2025 (R7)	備考	達成度
1	1日1回以上家族以外の人と会話をしている市民の割合 (%)	71.3	68.1	67.0	72.8	64.8	62.9	61.9	64.8	65.8	84.9		▲
2	日常の中で困っている人に声掛けができている市民の割合 (%)	44.3	49.5	47.7	43.5	38.5	36.7	42.0	44.6	45.7	63.4		○
3	地域から孤立していないと思っている市民の割合 (%)	75.8	78.7	76.6	81.4	79.7	79.8	79.6	78.6	78.9	87.0		○

〇めざまちの姿の達成状況や課題(総括)

支援を必要とする世帯が増えている中、相談支援体制を強化し適切に対応していくことも重要であるが、地域でのつながりや支え合いが孤立防止や世帯で生じている課題を早期に把握する上では特に重要となる。人間関係が希薄化し、孤立しやすい状況であるが、毎月8日を08(オハ)の日とし、関係機関と連携し、あいさつから始まる地域の輪を広げるあいさつ運動の実施や支援を必要とする市民を市民が支えるおたがいさまセンター「ちゃっと」など誰一人取り残されず、つながり合えるまちづくりの実現に向け、多くの市民や関係者の皆様のご理解のもと取組みを進めることができた。

16. 支援が必要な人の家族の負担が軽減され、日常生活で困っていない

大施策	支援が必要な家族の負担を軽減する
関連する SDGs	      
主管課	地域福祉課
関係課	共生社会課、長寿課、保険医療課、子育て支援課



〇まちづくり指標

	まちづくり指標	実績値 2014 (H26)	実績値 2016 (H28)	実績値 2017 (H29)	実績値 2018 (H30)	実績値 2019 (R1)	実績値 2020 (R2)	実績値 2021 (R3)	実績値 2022 (R4)	実績値 2023 (R5)	目標値 2025 (R7)	備考	達成度
1	介護で困ったときに助けを求められることができる友だちや専門機関があると思う家族の割合 (%)	57.0	62.1	57.7	58	63.6	62.2	61.3	61.8	59.8	74.6		○
2	1 週間のうち 1 回は自分の時間をもっている家族の割合 (%)	69.0	67.5	62.3	72.2	79.5	70.5	73.5	62.3	67.7	83.4		▲
3	支援が必要になったときに活用できるサービスを知っている市民の割合 (%)	40.7	43.6	43.5	37.7	44.3	42.1	42.0	42.3	44.0	69.0		○

〇めざまちの姿の達成状況や課題(総括)

高齢化、核家族化に伴い、家庭内での解決が困難な状況となり支援を必要とする世帯が増えている中、介護や子育てに対する支援策の充実を図るとともに、障がい者、生活困窮者、ひきこもり、包括支援など相談体制の強化を図ってきた。しかしながら、既存の制度だけで解決できない複雑な課題を抱える世帯も増加傾向にあることから、重層的支援体制を整備し、自立に向けた伴走型の支援など地域の関係機関が一体となり取り組む体制とした。また、生活のちょっとした困りごとを市民同士が支え合うおたがいさまセンター「ちゃっと」など地域の支援の輪も広がっている。まちづくり指標にある困りごとが生じた場合の専門機関や活用できるサービスは認知されつつあるが、今後も支援を必要とする世帯が増加することが想定されるため、子育てや介護と仕事・家庭の両立に向けた取組みなど負担の軽減策が必要である。

17. 子どもが地域とつながり、大人になったときにも地域で活動している

大施策	子どもが地域とつながり、大人になったときにも地域で活動できるまちをつくる
関連する SDGs	  
主管課	共生社会課
関係課	子育て支援課、学校教育課、生涯学習課



○まちづくり指標

	まちづくり指標	実績値 2014 (H26)	実績値 2016 (H28)	実績値 2017 (H29)	実績値 2018 (H30)	実績値 2019 (R1)	実績値 2020 (R2)	実績値 2021 (R3)	実績値 2022 (R4)	実績値 2023 (R5)	目標値 2025 (R7)	備考	達成度
1	地域の活動に参加している子どもの割合 (%)	72.1	71.9	69.0	68.4	64.8	62.7	54.6	65.3	68.0	83.5		▲
2	地域に愛着をもち、地域の活動に参加している大人の割合 (%)	63.7	73.7	74.3	74.1	71.6	72.4	74.0	71.7	75.1	77.5		○
3	近所で 5 人以上の大人の名前が言える子どもの割合 (%)	50.4	44.8	45.5	40.9	41.4	36.6	33.8	37.4	37.3	69.5		▲

○めざすまちの姿の達成状況や課題(総括)

地域活動への子どもの参加については、コロナ禍を除いてみると概ね6割の主観指標での子どもの地域活動への参加が維持されている。目標は市民による設定のため期待値を含めて高く設定されているのでそこには到達できていないが、6割もの数値が期間中維持できていること自体は高い評価に値する。

期間の後半で開設となった共生交流プラザカラットは開設二年を経過してなお利用が拡大し続けており、校舎跡施設という親和性からも子どもの利用が多く、おとなの活動利用と子どもたちとの交流も出始めている。自主的に活動を行う大人が特定の子どもたちに支援を行ったり夢中になれるものを提供するなど居場所として有効に機能し始めていることは本市の共生交流の新たな形として大きな期待がもてる。

地域においては高齢化の進展とともに担い手の不足が地域自治の課題となってきたことから、子どもたちの地域での関わりは地域自治の維持継続にとっても重要ともなることから様々な場面で意識した取り組みを進めていく。

18. 災害時に行政と民間、地域、近隣市町村との連携がとれている

大施策	災害時に行政と民間、地域、近隣市町村と連携する
関連する SDGs	  
主管課	防災防犯対策課
関係課	



○まちづくり指標

	まちづくり指標	実績値 2014 (H26)	実績値 2016 (H28)	実績値 2017 (H29)	実績値 2018 (H30)	実績値 2019 (R1)	実績値 2020 (R2)	実績値 2021 (R3)	実績値 2022 (R4)	実績値 2023 (R5)	目標値 2025 (R7)	備考	達成度
1	一年間に防災訓練に参加した団体の数(団体)	30	36	36	36	47	24	27	36	36	58		○
2	他自治体及び民間との災害に関する協定の数(件)	48	55	62	63	64	74	76	77	80	74		◎
3	災害時に備えて行政・民間の情報共有ができていると思う市民の割合(%)	31.5	34.8	32.2	27.3	36.2	35.4	35.2	37.0	30.6	57.1		▲

○めざすまちの姿の達成状況や課題(総括)

本市の災害対策は大きく地震災害と豪雨等による浸水被害を想定して実効性にこだわり訓練の在り方、避難所の在り方、装備資機材の備えの充実を図ってきた。近年頻発する豪雨災害から市民の不安も増しているが、この期間に同報無線を配備し情報伝達訓練を重ねており、ここから得られる課題を改善しながら一層備えを強化していく。

また、計画期間後半においては外水・内水それぞれの総合治水対策についても具体的な対策に着手しており、既存のインフラの活用や新市街地内に形成する調整池の活用、田んぼダムによる補完など総合力としての浸水被害対策を進めることができている。

このような有機的な取り組みを市民に分かりやすく伝えることを意識していきたい。毎年想定を超える形で繰り返される各地の災害を目の当たりにすることは市民の意識調査の数値の変動にもその不安は現れており、市が積極的に進めていること、実効性にこだわっていること、関係機関と多くの連携を構築していることをしっかりと伝達していく。

また、行政の人的資源は災害時に備えているという観点からも各課、各施策事業が平時から発災時に意識をもてるように市全体として様々な取り組みを行っていく。

19. 防災を行政任せにせず、普段から家庭と地域の準備と連携が十分でき ており、災害時には助け合うことができる

大施策	災害に備え、家庭と地域の準備と連携ができ、災害時には自発的に助け合えるよう支援する
関連する SDGs	 
主管課	防災防犯対策課
関係課	土木課、都市計画課



○まちづくり指標

	まちづくり指標	実績値 2014 (H26)	実績値 2016 (H28)	実績値 2017 (H29)	実績値 2018 (H30)	実績値 2019 (R1)	実績値 2020 (R2)	実績値 2021 (R3)	実績値 2022 (R4)	実績値 2023 (R5)	目標値 2025 (R7)	備考	達成度
1	家庭で防災対策をしている市民の割合(備蓄・避難場所の確認など)(%)	57.2	58.1	57.0	52.8	60.8	59.7	59.4	62.5	57.9	77.4		○
2	普段から地域で災害時の対応について話し合っている市民の割合(%)	28.4	30.1	30.3	26.9	28.0	28.0	27.6	25.2	26.7	54.6		▲
3	実体験できる講習の回数(応急手当、初期消火など)/年間(回)	344	371	478	190	132	87	24	112	132	168		-
4	火災に備えて住宅用火災警報器が設置してある割合(%)	71.0	74.7	66.8	66.7	72.3	73.8	74.2	76.1	72.2	89.1		○

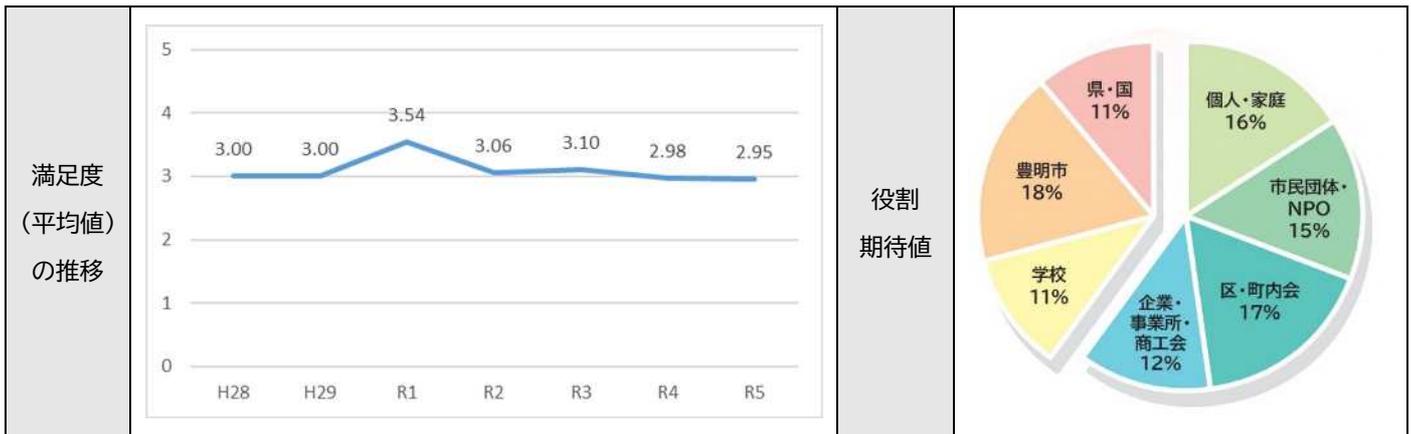
○めざすまちの姿の達成状況や課題(総括)

本市は地域自治が維持継続されており高齢化に伴う担い手不足の中にあっても自主防災組織連合会による地域に根差した防災活動は展開できている。災害から命を守ることが究極の目的であり、防災は現場により近いところで備えを拡充していかねばならない。避難行動要支援者に対しても登録制度を見直し個別避難計画により実行性を持たせるよう検討を始めている。こうした取り組みをとおして地域における共助の実効性への意識を高めていきたい。

近年想定を超える形で頻発する災害を目の当たりにするなかで市民の不安も高まっており主観指標の結果にも影響しているものと推察される。市民の不安を解消できるよう耐震補強等への公的支援が必要な方へはわかりやすく内容を周知して積極活用していただくよう努めていく。また、老朽住宅の耐震対策や火災予防は高齢化とも関連が大きいことから、後期に開始した重層的支援制度でのアウトリーチも結果として発災や火災から命を守ることを意識したアプローチに努める。こうした多面的な備えを理解いただき公助の安心感を高めていくのにあわせて自助・共助の大切さを啓発していかねばならない。

20. 行政や地域が発信する情報を市民が積極的に共有し、活用している

大施策	行政や地域が発信する情報を市民が積極的に共有し、活用できる支援をする
関連する SDGs	  
主管課	共生社会課
関係課	秘書広報課



〇まちづくり指標

	まちづくり指標	実績値 2014 (H26)	実績値 2016 (H28)	実績値 2017 (H29)	実績値 2018 (H30)	実績値 2019 (R1)	実績値 2020 (R2)	実績値 2021 (R3)	実績値 2022 (R4)	実績値 2023 (R5)	目標値 2025 (R7)	備考	達成度
1	必要な情報を得るための手段をわかっている市民の割合 (%)	40.3	48.3	46.2	44.2	45.9	50.1	47.4	51.8	51.0	64.3		○
2	この1年間で、地域の人同士で、まちのことについて意見交換した市民の割合 (%)	19.6	21.6	13.9	14.1	15.3	12.9	9.4	14.0	14.3	39.9		▲
3	市長への手紙・Eメールの件数(件)	111	169	169	178	194	256	223	222	161	227		○
4	行政や地域の情報を得て、イベントや集まりに参加している市民の割合 (%)	45.8	37.9	37.0	34.9	32.1	19.6	17.4	28.7	34.8	63.8		▲

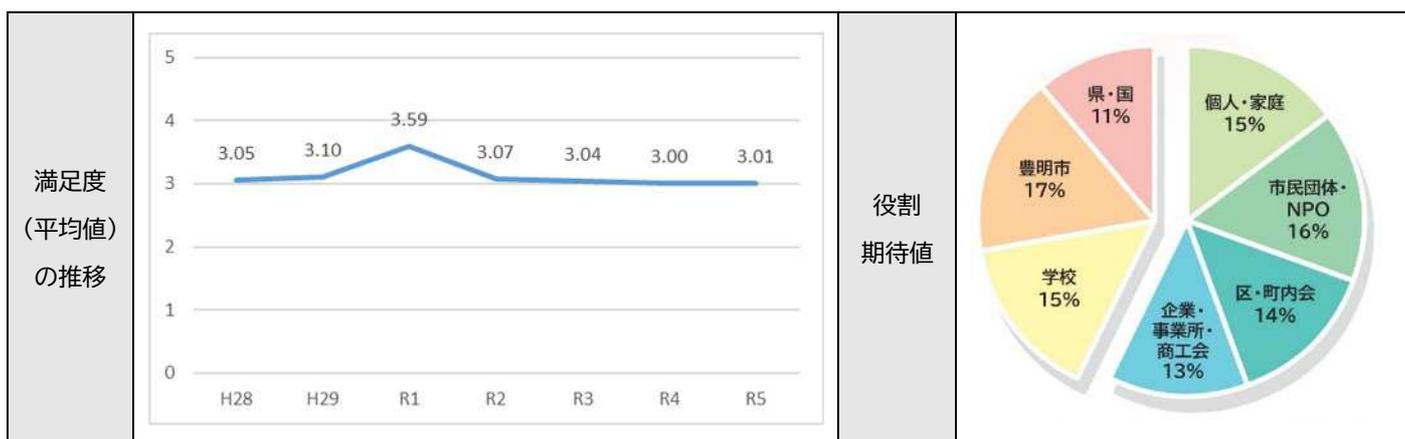
〇めざすまちの姿の達成状況や課題(総括)

コロナ禍でイベントや集まりに参加している市民の割合は一時低減したが回復傾向となっており、共生交流プラザカラットの利用においては開設以降拡大が続いている。さらにカラットでは自主自立型の活動が多数をしめ、受け身ではない主体的な参加と交流が生まれている。このことは行政からの情報を得てイベントに参加をするという市民に対する当初の想定を質的に変化させたともいえることから今後の本市の市民参加の質と量の拡大は大きくなっていくものと推察される。

市政情報は全てのライフステージに影響する情報のため多くの市民から必要な情報として期待されている。ICTの進展が進んでおり、これまでの媒体に加えて SNS による情報発信で一定の期待に応えることができている。情報の受け手としては誤情報から身を守るニーズも生じていることから市が責任をもって情報発信することへの期待も高まっている。今後も正確で的確な情報発信に努めていく。

21. 市民が豊明の歴史・伝統・文化に誇りを持ち、次世代が継承し創造している

大施策	とよあけの歴史・伝統・文化に誇りを持ち、継承・創造できる環境をつくる
関連する SDGs	  
主管課	生涯学習課
関係課	共生社会課、産業支援課、図書館



〇まちづくり指標

	まちづくり指標	実績値 2014 (H26)	実績値 2016 (H28)	実績値 2017 (H29)	実績値 2018 (H30)	実績値 2019 (R1)	実績値 2020 (R2)	実績値 2021 (R3)	実績値 2022 (R4)	実績値 2023 (R5)	目標値 2025 (R7)	備考	達成度
1	(この1年で)市外の人に豊明の歴史・伝統・文化の展示会やイベント等を伝えたことのある市民の割合(%)	20.5	21.6	16.9	13.4	15.7	12.5	11.9	15.6	14.5	41.1		▲
2	高校生・大学生が歴史・伝統・文化を通して人とつながっていると思っている市民の割合(%)	12.9	16.0	12.6	12.4	16.6	16.4	19.0	18.2	16.8	31.6		○
3	自発的に文化を創造できるような環境が豊明にあると思っている市民の割合(%)	16.5	20.0	19.1	13.5	19.5	19.5	20.9	19.3	20.6	33.6		○
4	豊明の歴史・伝統・文化に誇りをもっている市民の割合(%)	45.7	50.8	46.4	47.6	47.7	48.2	49.9	43.3	44.7	64.1		▲

〇めざすまちの姿の達成状況や課題(総括)

豊明の歴史・伝統・文化に誇りをもっている市民の割合は、めざそう値に届いていないものの、4割以上を維持しており市民意識の高さが伺える。歴史民俗資料室のリニューアルや、市域が戦国時代の古戦場や東海道が縦断しているなどのロケーションにあることが昨今のNHKのドラマの題材につながるなど、市の内外における認知度にはプラスに働いていると思われる。市民が豊明の歴史を大事に、誇りに思うこと、また観光、市外PRの観点からも、文化の保護、継承への支援を今後も継続していく必要がある。文化会館は新たな指定管理者による運営となり、今までと異なる新たな文化の発信の起点となるのが期待できるとともに、従来からの公民館事業や文化振興事業については継続しつつも、それらとは異なる視点からの文化振興の展開も模索していく必要がある。

22. 行政は積極的に市民からの意見を吸い上げる工夫や努力をしている

大施策	積極的に市民の意見を吸い上げる
関連する SDGs	 
主管課	企画政策課
関係課	秘書広報課、共生社会課



〇まちづくり指標

	まちづくり指標	実績値 2014 (H26)	実績値 2016 (H28)	実績値 2017 (H29)	実績値 2018 (H30)	実績値 2019 (R1)	実績値 2020 (R2)	実績値 2021 (R3)	実績値 2022 (R4)	実績値 2023 (R5)	目標値 2025 (R7)	備考	達成度
1	偏らず、広く市民の声を聞く努力をして、必要に応じて事業に反映していると思う職員の割合 (%)	63.4	79.7	80.3	91.2	85.6	89.3	90.3	90.1	87.3	92.6		○
2	年1回は、行政に関心をもって積極的に働きかけている市民の割合 (%)	3.7	6.6	4.7	4.6	4.0	3.8	5.1	5.4	7.4	21.3		○
3	市民からの意見を吸い上げる制度の実施回数 (回)	16	24	31	19	25	26	20	22	19	30		○
4	附属機関等の公募委員の応募倍率 (倍)	1.00	1.17	0.92	0.56	0.90	0.97	0.95	0.86	0.91	2.30		▲

〇めざまちの姿の達成状況や課題(総括)

目標に対して指標が大きく乖離していることから、依然として市民の行政に対する関心が高まっていないことが想像できる。周知不足があることは否めないが、政策を理解して提言するためには一定の負担が生じるため、自身への影響度が低い事案に対して関心を高めていただくことは難しい。役割期待値は、市の割合が比較的低く、個人・家庭への割合が他の目標に比べ高いことから、この目標を達成するためには、市民が果たす役割に期待するところが大きい。附属機関等に関心を持ち公募委員として行政運営に参加することが、市民の重要な役割であることをいかに認識していただくかが重要である。

職員自身が広く市民から意見を聞く努力をしている割合は、計画期間中に改善が進み目標値に近くまで上昇した。意見や提言を受け入れるチャンネル数を増やし、説明・周知等を地道かつ丁寧に行うなど、今後も必要な意見を聞く努力を続けていくとともに、公共事業や施策に対し、如何に関心を持っていただくか、研究していく必要がある。

23. 世代、性別などで不公平感のない予算配分や施策となっている

大施策	世代、性別などで不公平感のない予算配分や施策を実施する
関連する SDGs	    
主管課	企画政策課
関係課	財政課



〇まちづくり指標

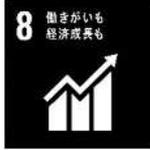
	まちづくり指標	実績値 2014 (H26)	実績値 2016 (H28)	実績値 2017 (H29)	実績値 2018 (H30)	実績値 2019 (R1)	実績値 2020 (R2)	実績値 2021 (R3)	実績値 2022 (R4)	実績値 2023 (R5)	目標値 2025 (R7)	備考	達成度
1	世代で不公平感のない予算配分や施策となっていると思う市民の割合 (%)	17.8	26.7	23.2	22.5	32.7	34.0	31.0	24.0	25.5	37.1		○
2	世代で不公平感のない予算配分や施策となっていると思う職員の割合 (%)	58.4	69.6	69.7	75.1	75.4	82.0	78.6	78.8	75.3	79.7		○
3	性別で不公平感のない予算配分や施策となっていると思う市民の割合 (%)	28.9	39.5	38.9	37.1	44.0	46.2	42.1	40.5	46.5	49.4		○
4	性別で不公平感のない予算配分や施策となっていると思う職員の割合 (%)	79.2	89.2	85.7	91.5	90.1	92.7	94.8	92.6	92.8	93.6		○

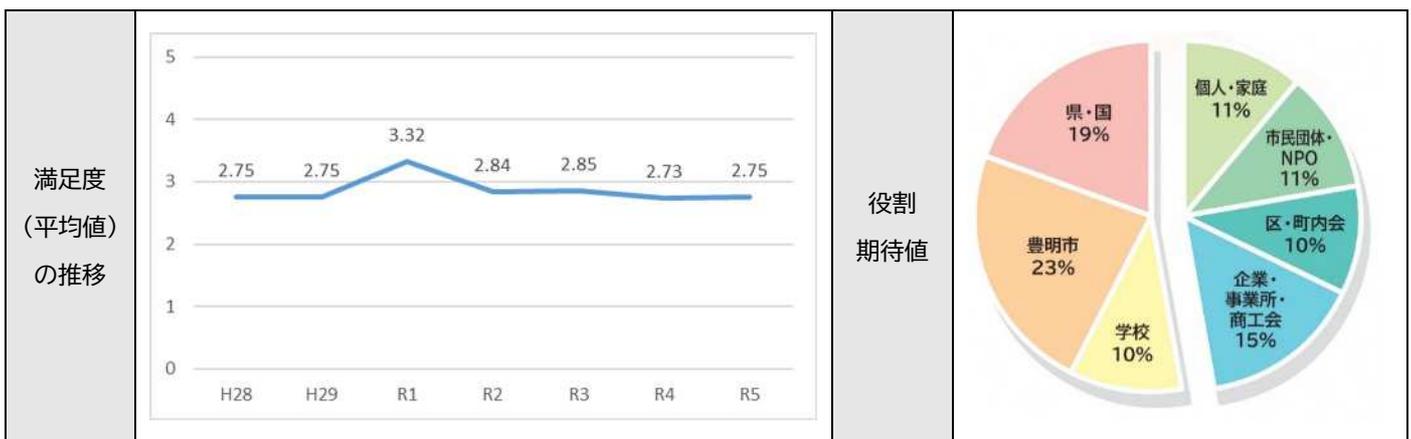
〇めざまちの姿の達成状況や課題(総括)

指標はいずれもスタート時から上昇する結果となったことから、本市の行政運営が一定程度評価されていると考えて良いのではないかと考えられる。ただし、世代や性別の違いによる予算配分の不公平感は、市民と職員とは大きく乖離がある。この特徴は、計画期間当初から続いていて、予算に込めた政策の趣旨や思いを市民に伝えることが、如何に難しいかを表している。行政の果たすべき役割は、民間企業とは違い税を支払った人に直接サービスを行うのではなく、課題や困難を抱えているなど、住民福祉の増進に向けて支援が必要な人たちに対して行政サービスを行っていくことが至上命題であり、地方自治の原則であることをどう説明し、どう理解を得ていくか、予算編成過程の公表などに更なる工夫が求められている。

一方で行政は、市民の主観として不公平感のある予算配分をしていることを受け止めなければならない。今後は少子化対策として子育て世代への投資が多くなり、原資の調達に対し不満を訴える世代も一定程度出てくるのではないかと。特定の世代への傾斜配分が行き過ぎていないか、常に確認しながら予算を編成していく必要がある。

24. 税収が確保され、持続可能な財政運営となっている

大施策	収入を確保し、持続可能な財政運営を行う
関連する SDGs	   
主管課	財政課
関係課	企画政策課、公共施設管理課、情報システム課、総務課、債権管理課 こども保育課、産業支援課、市街地整備課、下水道課、出納室、学校教育課



〇まちづくり指標

	まちづくり指標	実績値 2014 (H26)	実績値 2016 (H28)	実績値 2017 (H29)	実績値 2018 (H30)	実績値 2019 (R1)	実績値 2020 (R2)	実績値 2021 (R3)	実績値 2022 (R4)	実績値 2023 (R5)	目標値 2025 (R7)	備考	達成度
1	行政が税金の使い方について説明責任を果たしていると思う市民の割合 (%)	22.3	33.3	29.7	29.4	36.3	36.0	40.0	30.9	36.6	47.6		○
2	財政力指数	0.89	0.91	0.91	0.91	0.91	0.90	0.88	0.86	0.86	0.91		▲
3	経常収支比率 (%)	85.6	83.0	85.1	87.1	83.1	85.9	81.1	88.3	88.3	83.56		▲
4	実質公債費比率 (%)	2.50	0.10	0.20	0.30	0.09	-0.37	-0.21	0.40	0.40	0.28		○
5	将来負担比率 (%)	-8.1	-21.8	-21.3	-22.4	-29.6	-44.3	-55.8	-66.7	-66.7	-24.3		◎

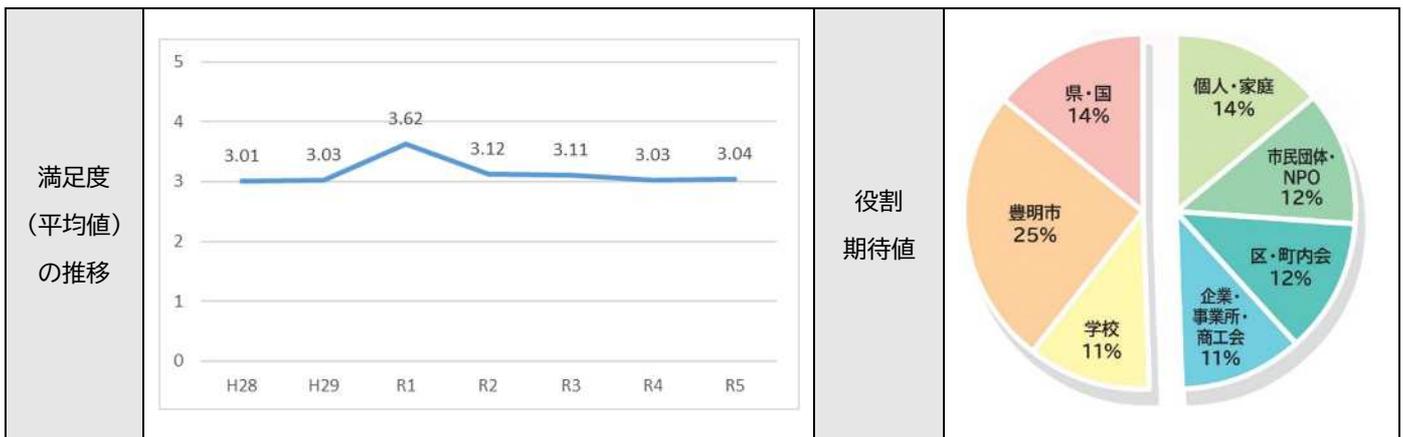
〇めざましの姿の達成状況や課題(総括)

各財務指標は、本市の財政が健全であることを示しており、災害など緊急を要する支出に対応するための基金も一定程度積み立てができています。また、寺池、間米南部の土地区画整理事業による住宅地の開発、柿ノ木工業団地開発による企業誘致は、少子高齢化、生産年齢人口の減少による税収減を緩やかにし、人口減少禍における持続可能な財政運営に向けた施策として動き出している。

今後も扶助費の増加や教育施策への投資、東部知多衛生組合負担金、物価高騰や労務単価上昇の影響を大きく受ける公共施設マネジメントなど、高額な歳出が続いていく。緊急的な歳出に備えつつ、真に行政が担うべき領域と実施方法を見極めながら常に緊張感をもって財政運営を行っていく必要がある。

25. 市職員の顧客サービス向上の意識が高く、市民のほうを見て仕事をしている

大施策	顧客サービス向上の意識を高め、市民本位の仕事を
関連する SDGs	  
主管課	秘書広報課
関係課	企画政策課、情報システム課、市民課



〇まちづくり指標

	まちづくり指標	実績値 2014 (H26)	実績値 2016 (H28)	実績値 2017 (H29)	実績値 2018 (H30)	実績値 2019 (R1)	実績値 2020 (R2)	実績値 2021 (R3)	実績値 2022 (R4)	実績値 2023 (R5)	目標値 2025 (R7)	備考	達成度
1	市職員の顧客サービスが高いと思う市民の割合・職員の割合 (%)	35.8	44.6	45.8	46.7	47.9	49.5	52.9	47.3	52.7	56.7	市民	○
		74.1	77.9	75.8	83.6	80.3	81.7	85.4	84.0	80.9	84.9	職員	○
2	ワンストップサービスができていると思う市民の割合 (%)	66.3	67.4	69.3	72.6	72.9	73.5	78.2	71.1	78.5	80.3		○
3	窓口対応についての市民の苦情件数 (件)	10	3	5	15	4	7	14	15	7	5		○
4	市民からの要望・苦情に対して行政が改善を行っていると感じる市民の割合 (%)	35.5	43.2	44.5	42.8	48.0	48.5	52.6	45.5	50.1	59.4		○

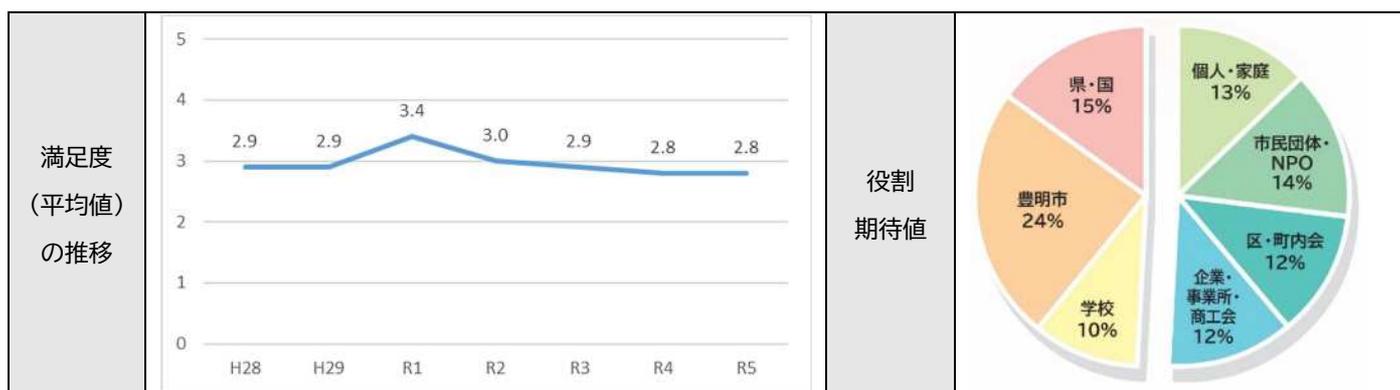
〇めざまちの姿の達成状況や課題(総括)

指標はいずれも良好であり、窓口対応の苦情件数も減っている。市民が求める顧客サービスレベルと職員が考える顧客サービスレベルとでは一定の乖離はあるものの、コロナ禍にあっても開催方法を工夫して継続してきた接客研修や、全市で取り組む「あいさつ運動」の成果が一定程度出ているものと推測する。

一方、理不尽な要求や長時間にわたって居座るカスタマーハラスメントが目立つようになり、適正な窓口サービスの提供に影響が出たり、職員が萎縮し精神的なダメージを負ってしまったりするケースが増えている。顧客サービス向上のためには、各職員の接客レベルの向上と併せて、これまで遠慮しがちだったカスタマーハラスメント対策を積極的に進めるなど、職員が働きやすい職場を作っていくことも重要である。

26. 市民にとって必要な情報が提供され、行政が取り組んでいることが市民に分かりやすい

大施策	市民にとって必要な情報や行政の取り組みを市民に分かりやすく提供する
関連する SDGs	 
主管課	秘書広報課
関係課	企画政策課、情報システム課、議事課



〇まちづくり指標

	まちづくり指標	実績値 2014 (H26)	実績値 2016 (H28)	実績値 2017 (H29)	実績値 2018 (H30)	実績値 2019 (R1)	実績値 2020 (R2)	実績値 2021 (R3)	実績値 2022 (R4)	実績値 2023 (R5)	目標値 2025 (R7)	備考	達成度
1	市のホームページが見やすいと思う市民の割合 (%)	31.5	36.6	42.0	41.1	42.3	41.9	46.1	38.1	41.9	57.9		○
2	窓口のレスポンスが的確だと思う市民の割合 (%)	51.0	56.9	63.0	62.8	61.0	67.5	69.9	65.0	68.1	71.5		○
3	市のホームページの情報が役に立ったと思う市民の割合 (%)	-	-	-	-	57.0	56.0	57.9	52.1	52.8	63.9		▲
4	行政が取り組んでいることが分かりやすいと思う市民の割合	-	-	-	-	-	26.0	33.0	25.3	27.9	36.9		○
5	議会改革度調査の情報共有の順位 (位)	-	-	-	-	402	318	337	337	513	225		▲
6	議会の情報が十分に得られていると思う市民の割合 (%)	-	-	-	-	-	24.0	28.3	22.7	25.7	34.8		○

〇めざすまちの姿の達成状況や課題(総括)

情報発信のチャンネルが広報紙やホームページが中心だったものから、X や Instagram などの SNS が加わり、新たなノードに対応しながら適切に対応してきた。計画期間の後半では、新型コロナウイルスの感染拡大があり、行政情報への期待の大きさから、ホームページに係る指標は一時的に下がったものと分析する。SNS が普及した今も、紙の広報紙は市の情報を手に入れる重要な手段であり続けている。同時に広報紙の配送問題も、地域力の低下も相まって課題としてあり続けている。

上記のような課題を解決するためには、ビッグデータ、AI を活用しパーソナライズされた情報提供が、行政分野においても有効な手段の一つだと思われる。これまで申請主義だった各行政サービス提供の入り口が、対象者には予め行政サービスを提供するプッシュ型に変わりつつある。市民にとって必要な情報をわかりやすく適切なタイミングで提供していくためには、自治体 DX の推進が、これまで以上に重要になってくる。

27. 行政は明確な成果目標を持ち、定期的に達成度を確認し、絶えず改善している

大施策	成果志向型の行政経営を実践する
関連する SDGs	 
主管課	企画政策課
関係課	秘書広報課、財政課



〇まちづくり指標

	まちづくり指標	実績値 2014 (H26)	実績値 2016 (H28)	実績値 2017 (H29)	実績値 2018 (H30)	実績値 2019 (R1)	実績値 2020 (R2)	実績値 2021 (R3)	実績値 2022 (R4)	実績値 2023 (R5)	目標値 2025 (R7)	備考	達成度
1	目標の達成度評価を重視して仕事をしている職員の割合 (%)	61.7	69.4	70.9	81.6	81.0	85.6	82.8	84.0	82.5	84.8		○
2	事業改善、新規事業の提案数 (件)	94	73	74	141	127	64	64	129	88	160		▲
3	成果指標の年度別達成率 (%)	32.0	32.0	54.0	49.4	85.2	19.8	34.2	27.2	29.5	100		○

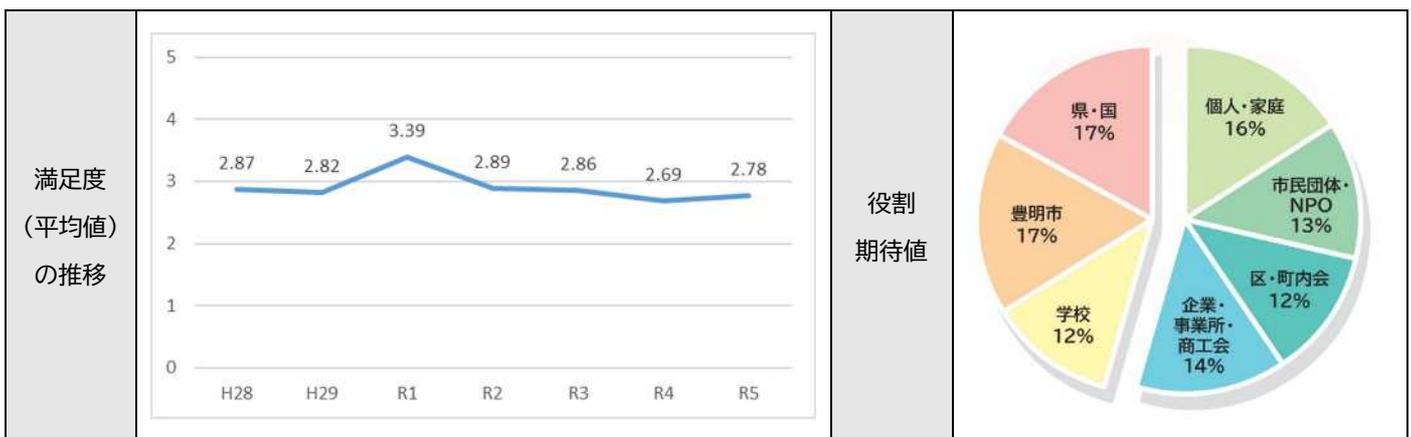
〇めざまちの姿の達成状況や課題(総括)

総合計画マネジメントとして、めざまちの姿に相当する大施策の評価から、各職員が作成する事務事業レベルの目標を定めるステップアップシートまで、各階層の職員がそれぞれの立場、役割を持って行政評価を実施している。

社会情勢の変化や市民ニーズを捉え、まちづくり指標の趨勢を見ながら作成する経営方針は、行政評価の結果を参考にしながら各事業レベルにおける目標の方向性を定め、新規事業の立案や改善に向けた事業の実施に結びつけている。ただ、成果指標の全体の達成率は、めざそう値に届いておらず、行政だけで目標を達成することが難しい部分もあるが、市としてPDCAサイクルが空回りしていないかを考えるべき課題のある目標が一部あることも否めない。また、目標と評価指標、事業の関連性が分かりにくく評価作業に対する負担が大きいといった指摘もある。今後は評価自体が目的化することがないように注意しながら、成果の見えやすさと評価のし易さを併せ持った総合計画マネジメントを構築する必要がある。

28. 子どもを産み育てやすいまちになっており、子どもの数が増えている

大施策	子どもを安心して産み育てられるまちをつくる
関連する SDGs	    
主管課	子育て支援課
関係課	共生社会課、健康推進課、こども保育課、保険医療課、産業支援課 都市計画課、学校教育課



〇まちづくり指標

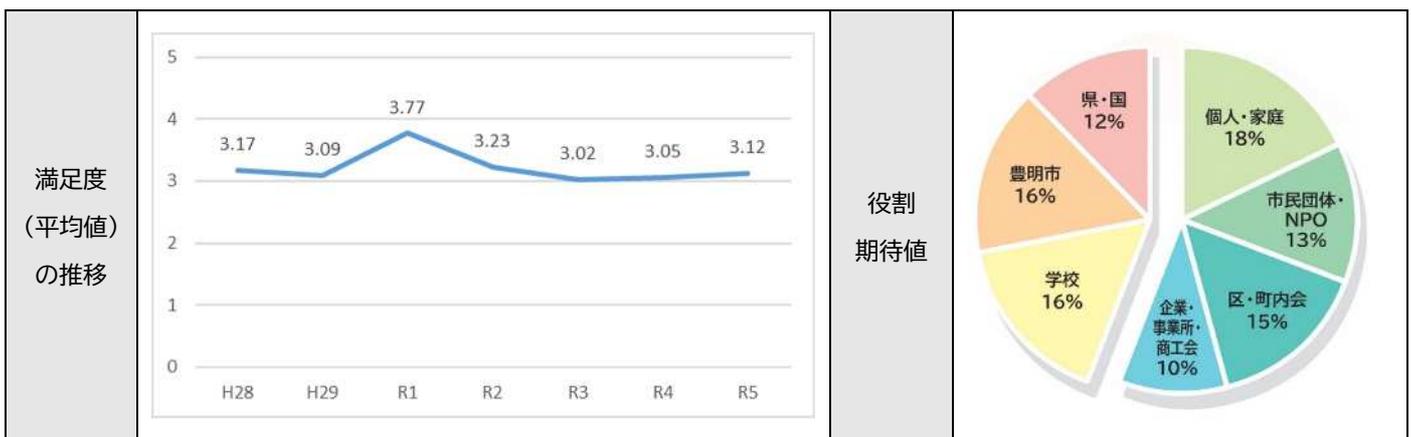
	まちづくり指標	実績値 2014 (H26)	実績値 2016 (H28)	実績値 2017 (H29)	実績値 2018 (H30)	実績値 2019 (R1)	実績値 2020 (R2)	実績値 2021 (R3)	実績値 2022 (R4)	実績値 2023 (R5)	目標値 2025 (R7)	備考	達成度
1	子育てが楽しいと思っている市民の割合 (%)	84.5	73.2	84.5	81.6	83.4	76.3	90.2	82.3	85.9	92.3		○
2	0~14 歳の子ども数 (人)	9,749	9,052	8,964	8,789	8,732	8,659	8,548	8,469	8,366	10,445		▲
3	豊明市の出生率 (人)	8.1	8.0	7.7	8.0	7.1	7.6	7.7	7.0	7.0	10.1		▲
4	市内にある小児科、産婦人科の数の数 (施設)	3	4	7	5	5	5	5	5	5	6		○

〇めざまちの姿の達成状況や課題(総括)

子どもの数の減少や出生率の低下は全国的な傾向であり、大きな社会問題である。市では、産後ケア事業の拡充、子育てアプリの充実、新入学祝い金の交付、学校給食の補助、多世代同居・近居世帯への補助、全小学校区での児童クラブの実施と放課後子ども教室との一元管理など核家族化に伴う子育てに対する不安感の軽減や子育てと仕事・家庭との両立に向けた取り組みの充実を図ってきた。また、地域塾事業費補助金の開始や子連れ出勤(ワチャ)普及啓発事業など地域の人材や事業所と子育てに理解のある温かいまちづくりに向けて意識の醸成を図っている。共生交流プラザ「カラット」に開設した児童発達支援センターや子育て支援センター、子ども遊び場には、子育て世代が集うことで気軽に相談できる場となっており、また、多世代との交流を通じて、地域ぐるみで子育てを後押しする新たな拠点としていきたい。

29. 子どもが元気に外で遊んでいる

大施策	子どもが元気に外で遊べるまちをつくる
関連する SDGs	    
主管課	共生社会課
関係課	防災防犯対策課、健康推進課、こども保育課、子育て支援課、都市計画課 学校教育課、生涯学習課



〇まちづくり指標

	まちづくり指標	実績値 2014 (H26)	実績値 2016 (H28)	実績値 2017 (H29)	実績値 2018 (H30)	実績値 2019 (R1)	実績値 2020 (R2)	実績値 2021 (R3)	実績値 2022 (R4)	実績値 2023 (R5)	目標値 2025 (R7)	備考	達成度
1	自由に楽しく体を動かしていると思う子どもの割合 (%)	56.2	54.4	54.4	50.7	55.9	50.8	51.6	59.2	61.2	74.6		○
2	子どもが外で元気に安全に遊べると感じている保護者の割合 (%)	35.1	43.1	40.9	43.0	43.3	44.0	45.9	48.9	53.1	57.9		○
3	子どもが元気に外で遊んでいると思う市民の割合 (%)	39.0	48.2	42.6	43.6	46.2	49.9	51.3	41.6	47.7	60.2		○

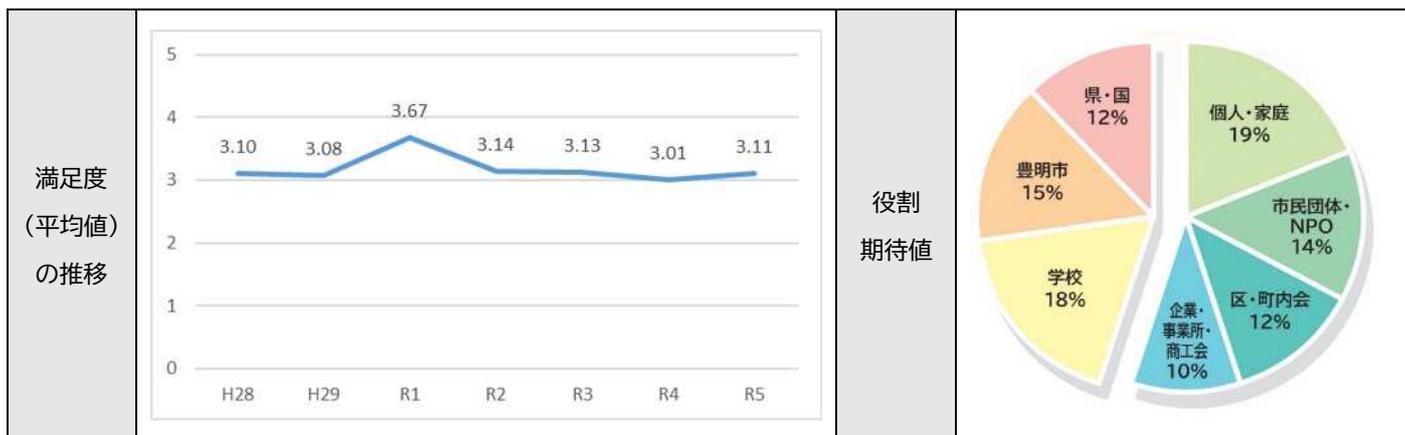
〇めざすまちの姿の達成状況や課題(総括)

本市は「とよあけ こどもまんなか まちづくり」を標榜しており、多くの施策がこどもを育むことを強く意識して展開されている。後期においては市が率先行動として行った全国初の子連れ出勤ワチャを実施し、内外から大きな注目を集めた。こうした市の姿勢やこれまでのソフト・ハード事業それぞれの取り組みによって多くの市民の理解や共感をいただくことができている。各指標において目標値には到達していないものの実績値が増加傾向にあることからこうした肯定的な受け止めに推察することができる。

後期においては共生交流プラザカラットを開設することができ、ここでの多様な活動や居場所がたくさんの子どもたちを育んでいる。誰ひとり取りこぼさないことを政策として掲げる本市は重層的支援制度を開始しており、よりひとりの子どもの人生に寄り添う取り組みを始めている。子どもたちが元気であるという理想に向けてこれまで同様に支援や環境整備を図っていく。

30. 子どもの個性や感性を尊重し、伸ばしている

大施策	子どもの個性や感性を尊重し、伸ばす環境をつくる
関連する SDGs	   
主管課	生涯学習課
関係課	子育て支援課、学校教育課、地域福祉課



〇まちづくり指標

	まちづくり指標	実績値 2014 (H26)	実績値 2016 (H28)	実績値 2017 (H29)	実績値 2018 (H30)	実績値 2019 (R1)	実績値 2020 (R2)	実績値 2021 (R3)	実績値 2022 (R4)	実績値 2023 (R5)	目標値 2025 (R7)	備考	達成度
1	一人ひとりの個性や違いを受け入れていると思う市民の割合 (%)	84.4	87.2	85.5	86.3	87.3	87.0	88.5	88.8	88.8	90.3		○
2	子どもが参加できる教室やサークルの数 (個)	33	30	30	35	34	30	56	55	66	53		◎
3	積極的に自分の好きなことを見つけて取り組んでいる子どもの割合 (%)	84.9	84.8	84.6	85.1	86.2	84.0	86.3	89.4	90.6	90.9		○
4	子どもの行動に対して親の価値観でコントロールしていない親の割合 (%)	35.4	36.1	36.5	37.2	37.6	39.3	43.9	40.2	40.4	53.9		○

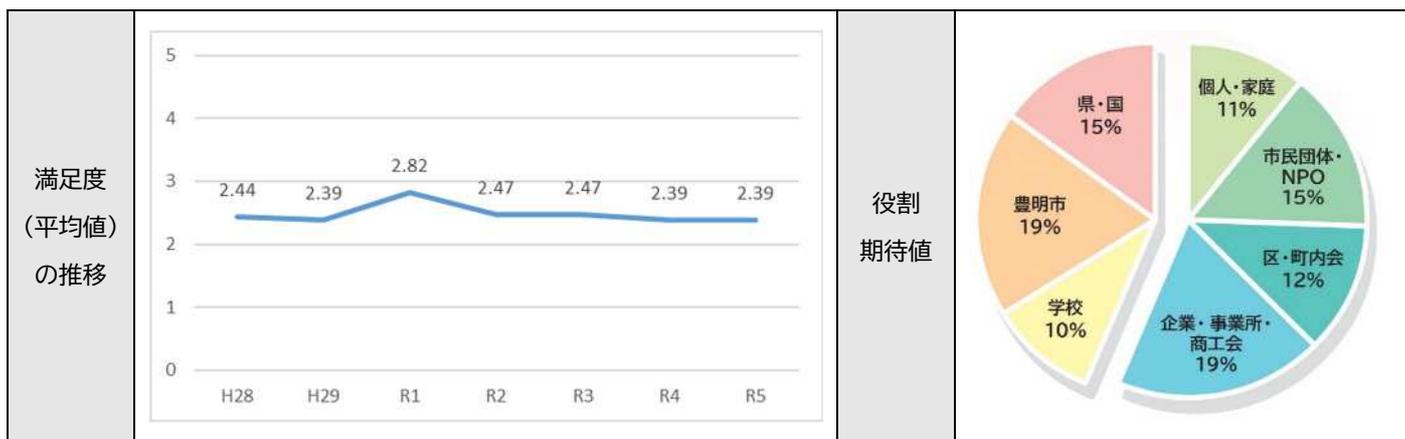
〇めざすまちの姿の達成状況や課題(総括)

社会全体として新たな習い事やサークルなどが増え、その情報を様々な機会・方法で得ることができるようになってきている。子どもたちはそれらにより、多彩な選択や体験が可能な時代となっており、子ども達の個性や感性を育む機会や機運は社会全体として醸成されてきているものと思われる。一方で学校の部活動の地域移行は、課題も多く、過去から続く部活動の意味合いを変えていくこととなりうるが、影響を少なくともとめると同時に、今後の新たな考え方へ切り替えていくことへの契機としていくべきものでもある。

小学校においては少人数学級化を進め、子どもの様々な特性に対し、よりきめ細かな対応が可能となっているほか、特別支援教育支援員の増員配置や児童発達支援センターの開設などにより、子どもが育っていく環境整備を実施してきている。行政としては、子どもがそれぞれの特性や興味などを伸ばせるよう、国籍や家計の状況、障がいの有無などに左右されず子ども達が育っていく環境を確保しつつも、それぞれの個性を生かしていくための基盤整備に引き続き取り組んでいく必要がある。

31. 豊明市に魅力があふれ、「通過するまち」から、「足を運んでいただけるまち」になっている

大施策	とよあけの魅力を高め、訪れる人を増やす
関連する SDGs	    
主管課	産業支援課
関係課	秘書広報課、企画政策課、情報システム課、共生社会課、生涯学習課



○まちづくり指標

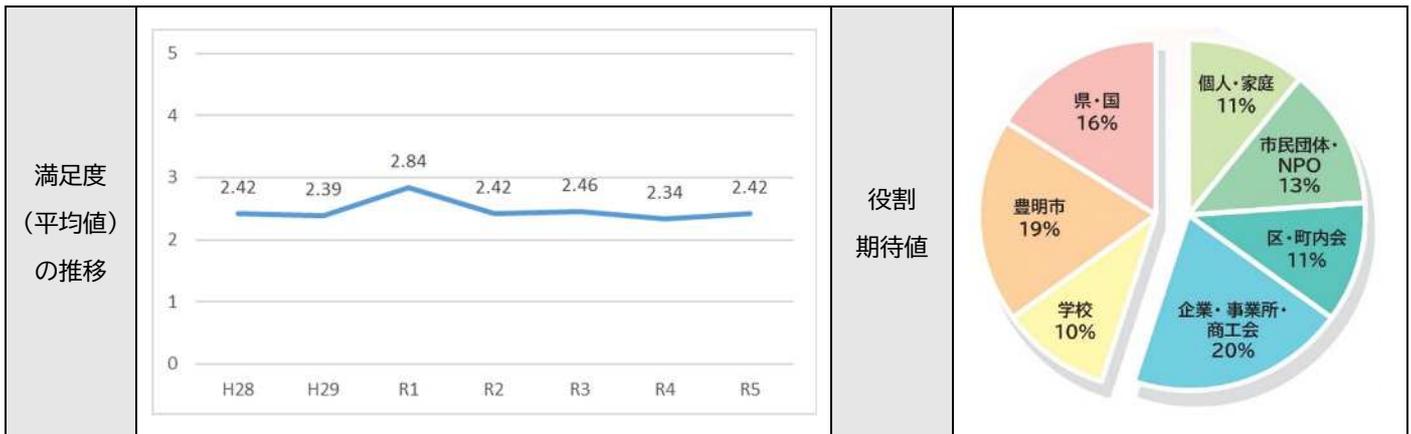
	まちづくり指標	実績値 2014 (H26)	実績値 2016 (H28)	実績値 2017 (H29)	実績値 2018 (H30)	実績値 2019 (R1)	実績値 2020 (R2)	実績値 2021 (R3)	実績値 2022 (R4)	実績値 2023 (R5)	目標値 2025 (R7)	備考	達成度
1	メディアで紹介された市内のイベント、お店、施設の件数 (件)	123	240	260	418	302	381	355	309	335	350		○
2	市外から人を呼べるような場やイベントなどがあると思う市民の割合 (%)	21.2	19.2	19.1	16.6	20.3	15.6	14.2	17.6	15.9	40.1		▲
3	豊明インターを利用した自動車数 (台/日)	33,700	33,100	34,061	35,114	35,229	30,144	31,178	32,040	32,418	37,916		▲

○めざすまちの姿の達成状況や課題(総括)

まちづくり指標はめざそう値に達していないものの、令和5年度での桶狭間古戦場まつりは来場者数約 30,000 人、国指定史跡である桶狭間古戦場伝説地のガイド実績は約 11,000 人となり、コロナ禍前の水準に戻りつつある。本市への来訪の魅力を高める工夫として、桶狭間ガイドボランティアのガイドはもちろんのこと、御城印等の関連グッズの開発や「大金星のまち」豊明を SNS により発信を行っていく。花マルシェプロジェクトとして、花に親しむ暮らしを提案する商品や花のイメージやエディブルフラワーを使った菓子等の開発、花に関連するイベントを実施して“とよあけ花マルシェ”を発信し、街の賑わい創出や地域経済の活性化につなげる活動を行った。「行きたい」場所としての豊明夏まつり、秋まつりは、コロナ禍後のまつり継続に向けて、実行委員会に対し引き続き支援を行う。

32. 市内に遊ぶ場所や働く場所があり、豊明市が潤っている

大施策	地域の経済活動が盛んなまちをつくる
関連する SDGs	
主管課	産業支援課
関係課	農業政策課、土木課、市街地整備課



〇まちづくり指標

	まちづくり指標	実績値 2014 (H26)	実績値 2016 (H28)	実績値 2017 (H29)	実績値 2018 (H30)	実績値 2019 (R1)	実績値 2020 (R2)	実績値 2021 (R3)	実績値 2022 (R4)	実績値 2023 (R5)	目標値 2025 (R7)	備考	達成度
1	市外から豊明市に働きに 来ている人の数 (人)	3,593	3,656	3,702	4,470	5,307	4,714	3,288	3,068	3,168	5,838		▲
2	法人市民税額 (千円)	687,361	584,111	621,426	598,023	589,317	420,038	471,108	386,064	437,936	589,317		▲
3	農業産出量	553,770	681,900	1,000,000	808,616	980,440	766,956	1,038,352	991,159	958,204	830,000	米(kg)	◎
		14,093	41,320	41,320	62,940	106,096	120,181	114,786	103,725	133,432	90,000	麦(kg)	◎
		11,107	18,633	27,858	10,039	14,850	13,711	17,268	14,589	11,601	12,442	大豆 (kg)	○
4	市外から豊明市に遊びに 来ている人が多いと思う 市民の割合 (%)	43.0	37.8	34.3	33.3	33.8	39.6	37.1	46.5	42.5	56.4		▲

〇めざまちの姿の達成状況や課題(総括)

法人市民税額の推移については、令和元年の税制改正、その後に発生したコロナ禍の影響により減少傾向となった。

地域における雇用対策と人材確保を重点的に取り組む施策としている愛知労働局との雇用対策協定により、地域産業を支える人材の確保と求職者の就労を支援するための事業として「就職フェア in とよあけ」などの開催を着実に実施し労働環境の整備を推進していくことができた。

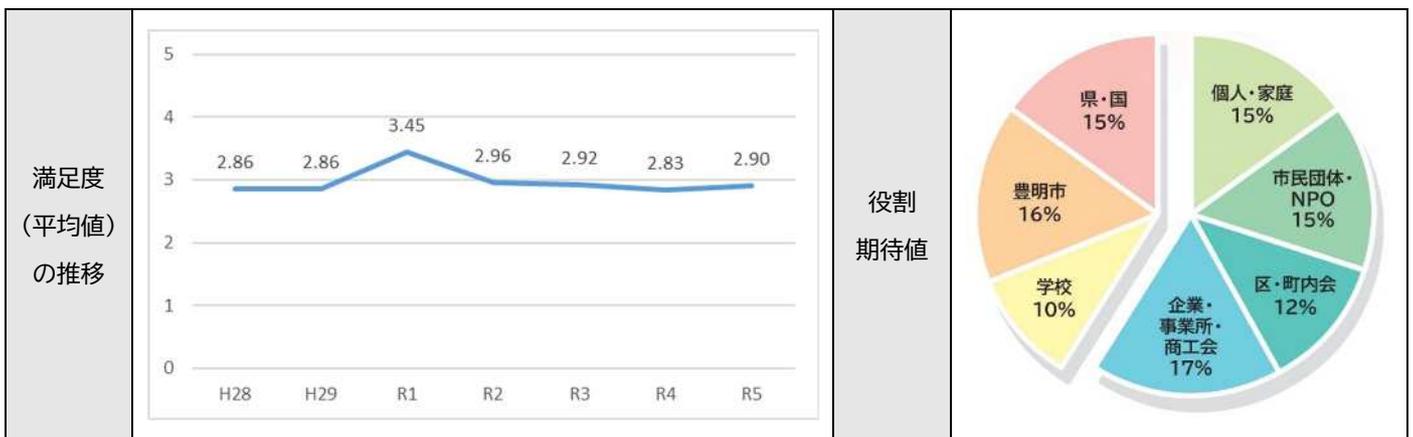
農業生産量の指標についてのめざまち達成度が高水準で推移している。豊明産農産物シールの作成により今後も安定的な推移を目指す。

市内で働ける場の確保と法人市民税の増額を目的として工業団地の整備については、新左山工業団地に次ぐ整備として、愛知県企業庁と連携した柿ノ木工業団地の整備を進めた。

柿ノ木工業団地は、2次分譲が終了し着々と進出企業も決まってきた。引き続き県企業庁と連携しながら市内の雇用の場の確保に向け取り組んでいく。

33. 高齢者、障がい者など誰でも居場所と出番があり、経験や知識を活かして働き、収入と生きがいを得ている

大施策	高齢者、障がい者の活躍の機会や場を増やし、収入と生きがいを得ることができる環境をつくる
関連する SDGs	
主管課	長寿課
関係課	地域福祉課、産業支援課



〇まちづくり指標

	まちづくり指標	実績値 2014 (H26)	実績値 2016 (H28)	実績値 2017 (H29)	実績値 2018 (H30)	実績値 2019 (R1)	実績値 2020 (R2)	実績値 2021 (R3)	実績値 2022 (R4)	実績値 2023 (R5)	目標値 2025 (R7)	備考	達成度
1	自分の働き方に満足している高齢者、障がい者の割合 (%)	87.7	81.9	85.9	88.3	89.1	61.8	82.4	77.9	89.1	92.6	高齢者	○
		64.2	75.5	72.7	73.6	74.8	79.0	71.3	69.7	68.1	75.9	障がい者	○
2	高齢者、障がい者を雇用している企業・事業所数 (力所)	49	46	46	46	47	46	46	50	44	71		▲
3	働く意欲をもっている高齢者、障がい者の割合 (%)	55.4	41.3	62.6	55.0	52.3	56.0	47.7	55.6	51.3	69.8	高齢者	▲
		70.3	56.3	56.4	68.4	65.2	65.2	68.6	70.3	68.3	81.4	障がい者	▲
4	自分の経験や知識を活かすことができていると思う高齢者、障がい者の割合 (%)	86.3	81.0	79.8	78.4	82.2	54.5	75.8	75.0	88.2	91.9	高齢者	○
		63.5	72.3	71.9	69.6	70.9	66.7	74.8	64.4	62.4	73.3	障がい者	▲

〇めざまちの姿の達成状況や課題(総括)

定年延長や障がい者雇用率の引き上げなどにより高齢者、障がい者の雇用機会は増加しており、働き方など選択肢も多様化していることが、まちづくり指標にある「働き方に満足している割合」や「知識や経験を活かすことができていると思う割合」が計画策定時と比べ上昇した要因の一つである。一部、自分の経験や知識を活かすことができていると思う障がい者の割合が策定時と比べ若干減少しているが、障がいをお持ちの方が従事できる職種も多様化しているので、マッチングできるような取り組みを強化していくことで改善したい。またその一方で、高齢者や障がい者が活躍し、生きがいを得ることができる機会や場が働くことで収入を得ることだけでなく、趣味やおたがいさまセンター「ちゃっと」などボランティア活動、地域活動など多様化している。70歳を迎える方に地域デビューを促すパンフレットを送付することやポツチャ大会など障がい者との交流機会を増やすことは、高齢者や障がい者が活躍する活気のあるまちづくりに繋がるものとする。

34. 若い世代も地域で活動し、地域の自治力が高まっている

大施策	若い世代が地域活動で活躍し、地域の自治力を高める
関連する SDGs	  
主管課	共生社会課
関係課	企画政策課、防災防犯対策課、学校教育課、生涯学習課



〇まちづくり指標

	まちづくり指標	実績値 2014 (H26)	実績値 2016 (H28)	実績値 2017 (H29)	実績値 2018 (H30)	実績値 2019 (R1)	実績値 2020 (R2)	実績値 2021 (R3)	実績値 2022 (R4)	実績値 2023 (R5)	目標値 2025 (R7)	備考	達成度
1	地域の活動に参加している若者の割合 (%)	67.8	34.5	60.3	55.3	54.8	50.8	56.8	52.8	53.8	79.4		▲
2	自分たちの考えが地域の活動に取り入れられていると思う若者の割合 (%)	11.1	17.7	13.4	12.5	16.1	15.0	15.0	13.7	14.8	34.0		○
3	若い世代の地域での活動を尊重し、応援している 65 歳以上の人の割合 (%)	57.0	73.2	62.9	55.9	60.7	56.3	58.7	59.5	64.6	73.2		○
4	町内会の加入率 (%)	78.0	76.2	75.2	73.8	72.5	72.2	74.7	74.7	72.4	72.5		◎

〇めざすまちの姿の達成状況や課題(総括)

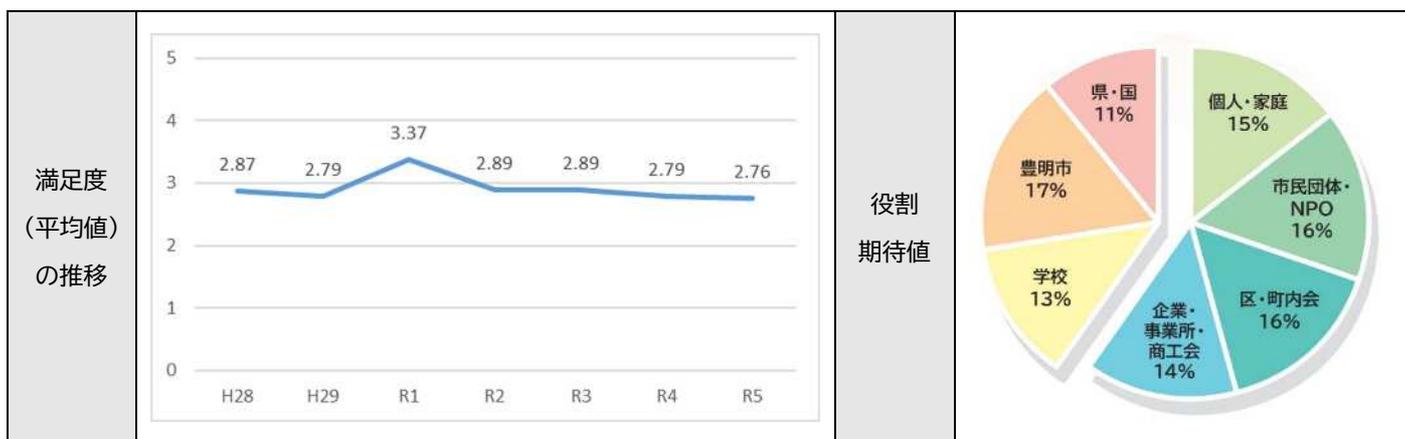
本市は地域一括交付金制度を立ち上げ地域の自治力にこだわった行政運営を行ってきた。高い町内会加入率の維持や家庭ごみの排出抑制など様々な点でそれを客観的に証明している。また、公共空間の快適性を維持するボランティア活動などの歴史も重ねてきている。地域においては高齢化を主な要因とする担い手不足への懸念が生じ始めており、地域ごとの工夫や合理化など良い事例の共有や横展開に市は積極的な支援をしていかねばならない。

地域活動に参加している若者の割合という指標については高い目標値には到達していないが5割以上を維持して推移しており本市の特性を物語っているといえる。

若者世代が地域自治に関わることは次の地域自治にとって欠かせない課題であることから市は地域の声を聴きとめ若者の参加に向けた取り組みに地域とともに挑戦していく。

35. 若い人が豊明市を自分たちのまちとして愛着をもち、新しい感性を活かし、まちづくりが進められている

大施策	若い人の豊明市への愛着を深め、新しい感性を生かしたまちづくりを推進する
関連する SDGs	  
主管課	共生社会課
関係課	企画政策課、防災防犯対策課、産業支援課



○まちづくり指標

	まちづくり指標	実績値 2014 (H26)	実績値 2016 (H28)	実績値 2017 (H29)	実績値 2018 (H30)	実績値 2019 (R1)	実績値 2020 (R2)	実績値 2021 (R3)	実績値 2022 (R4)	実績値 2023 (R5)	目標値 2025 (R7)	備考	達成度
1	豊明が大好きな若者の割合 (%)	74.0	62.5	72.1	64.4	66.6	67.7	79.6	71.0	72.3	85.4		▲
2	まちづくりに参加できていると感じている若者の割合 (%)	16.2	19.8	11.9	13.6	10.7	10.8	14.3	12.6	15.6	36.7		▲
3	市民提案型まちづくり事業交付金の交付団体数 (団体)	11	10	9	8	10	11	9	9	13	21		○

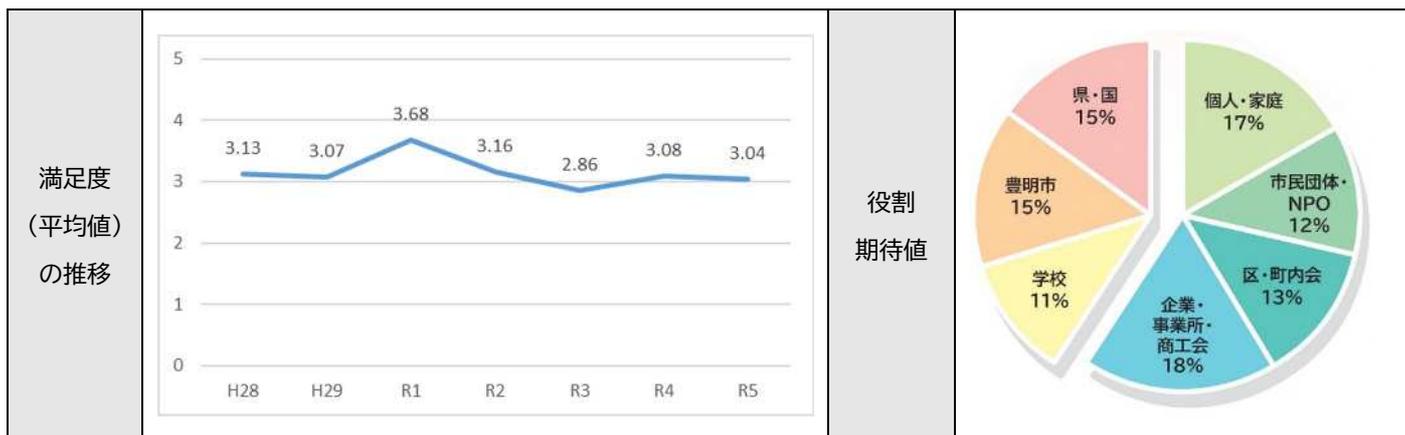
○めざすまちの姿の達成状況や課題(総括)

若者のまちへの愛着については高い目標値には到達していないものの、非常に高い位置で推移しており、成長の過程で多くの地域活動やイベント、祭りに触れ愛着を抱いていただいているものと推察できる。まちづくりとしても市街地開発など引き続き成長していくことから若者の愛着への期待に応えていく。

若者自身がまちづくりに参加できていると感じることは実際のところ難しい面があり指標実績としても低位での推移となっている。目標の設定自体が高い期待の表れではあると思われるが、市長と3中学校の生徒との意見交換会を毎年実施して多くの意見を行政の中に入れ、様々な検討を行い、事業として要望などを実現してきている。このことは若者のまちづくりへの参加そのものでもあることから、実現に至ったことなどまた経過なども広く生徒の皆さんに伝達することも課題となる。

36. 女性が職場や地域で活躍し続けている

大施策	女性が職場や地域で活躍し続けられる環境をつくる
関連する SDGs	    
主管課	共生社会課
関係課	長寿課、こども保育課、子育て支援課、産業支援課、都市計画課、学校教育課



〇まちづくり指標

	まちづくり指標	実績値 2014 (H26)	実績値 2016 (H28)	実績値 2017 (H29)	実績値 2018 (H30)	実績値 2019 (R1)	実績値 2020 (R2)	実績値 2021 (R3)	実績値 2022 (R4)	実績値 2023 (R5)	目標値 2025 (R7)	備考	達成度
1	職場で働きやすいと感じている女性の割合 (%)	35.4	35.5	38.9	42.6	50.0	46.2	40.2	42.2	44.7	56.7		○
2	育児休暇後に継続して働いている女性の割合 (%)	70.9	68.5	75.2	74.3	72.3	77.9	78.1	63.8	73.4	82.3		○
3	市内企業における女性管理職の割合 (%)	10.2	10.1	14.5	8.0	11.9	7.8	9.6	12.1	9.9	24.4		▲
4	町内会長・区長に占める女性の割合 (%)	6.0	10.3	12.6	16.1	16.1	10.3	11.1	10.8	16.8	18.8		○
5	男性の育児(介護)休暇取得者数 (人)	1	6	18	9	11	28	23	27	28	18		◎
6	男性一人あたりの平均 1 日家事時間 (分)	70.6	85.9	84.9	49.3	90.5	86.1	50.0	56.6	52.3	110.1		▲

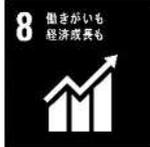
〇めざまちの姿の達成状況や課題(総括)

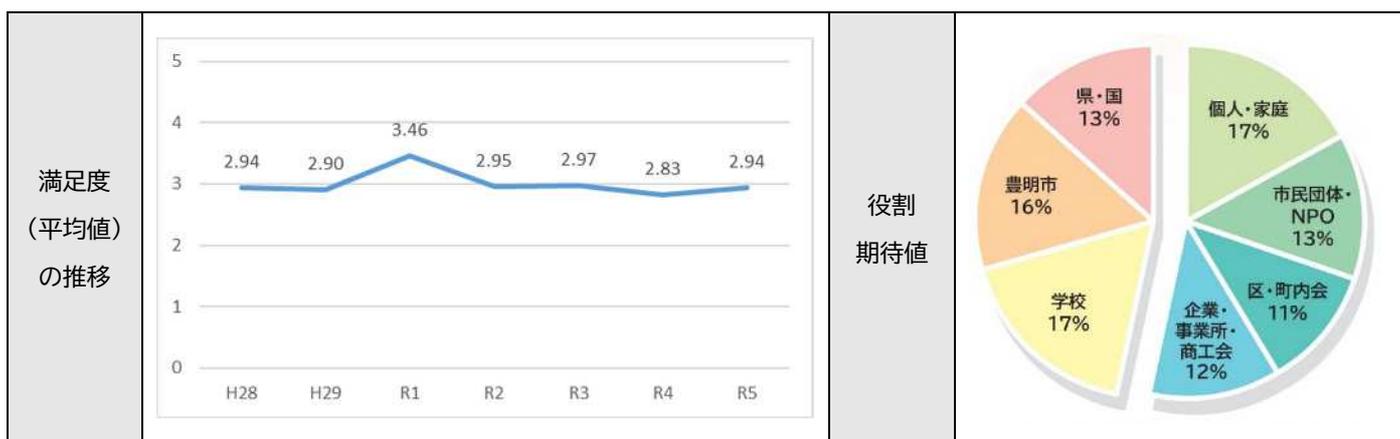
男女共同参画の取り組みについては様々な工夫を行い啓発事業としては継続的に行ってきた。本市では LGBT ともに生きる宣言を行っており個を尊重することを広く表明している。社会的にもジェンダーの心理的障壁は低くなっているが依然として女性活躍に対する環境としては課題解決が進んでいない面も多い。

本市は「こども まんなか まちづくり」を標榜しており、ソフト・ハード事業両面からの支援を進めている。こどもを育む支援を進めることで女性の活躍、暮らしやすさを進めていく。

男性の意識改善も大きな課題であり、市内の事業所への意識啓発にも努めていかねばならない。本市では率先行動として全国で初めての子連れ出勤ワチャを後期に導入した。大きな反響もあり市内事業所においても改善の取り組みを進める事例が生じている。市役所の職場においても子連れ出勤の事例が多くの職場で行われたことは意識改革の実践となった。

37. 子どもが夢を持ち、将来グローバル(グローバル+ローカル)に活躍できる人材に育っている

大施策	将来グローバルに活躍できる子どもを育てる
関連する SDGs	   
主管課	学校教育課
関係課	共生社会課、生涯学習課



〇まちづくり指標

	まちづくり指標	実績値 2014 (H26)	実績値 2016 (H28)	実績値 2017 (H29)	実績値 2018 (H30)	実績値 2019 (R1)	実績値 2020 (R2)	実績値 2021 (R3)	実績値 2022 (R4)	実績値 2023 (R5)	目標値 2025 (R7)	備考	達成度
1	将来に夢をもっている子どもの割合 (%)	68.9	68.1	64.4	62.7	62.7	61.7	60.9	65.2	59.6	82.2		▲
2	自分の地域や国のことに誇りを持っている市民の割合 (%)	55.9	64.9	58.5	60.7	61.7	62.6	64.4	60.5	63.4	73.2		○
3	いろいろな国の人々とコミュニケーションをとろうとしている市民の割合 (%)	30.4	36.0	34.1	31.9	35.8	37.5	36.8	41.4	40.2	51.2		○
4	豊明市で育った人が活躍していると思う市民の割合 (%)	22.2	29.5	26.5	21.7	27.4	27.0	28.7	28.4	24.7	40.2		○

〇めざままの姿の達成状況や課題(総括)

指標上は将来に夢を持っている子どもの割合の指標が低下しており、これは全国学力学習状況調査の結果でも同様で全国的傾向として低下傾向にある。継続して子どもたちが将来に夢や目標をもって主体的に取り組める校内環境の整備や、人と人とのつながりを確保する機会の創出に努めていく必要がある。

外国籍の住民が今後も増加していくことが見込まれ、学校においては日本語の初期指導を充実化して進めているものの、義務教育卒業後の就職等のシーンで壁に直面する話も聞く。市内全体で外国の文化などへの理解を深め、外国人雇用や地域生活において「当たり前」となる機運が醸成されていくことが「グローバル」な活躍人材の育成の背景となりうると考えられる。教育側としても外国籍の児童生徒が多い本市の特性のもとで、英語検定受験料補助などの支援と併せ、より多角的な視点と能力を持った児童生徒の育成に努めていきたい。

38. すべての子どもが質の高い学びに参加し、生きるための学力が向上している

大施策	子どもが質の高い学びに参加し、生きるための学力が向上する環境をつくる
関連する SDGs	   
主管課	学校教育課
関係課	秘書広報課、生涯学習課



〇まちづくり指標

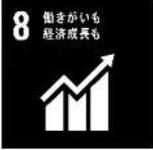
	まちづくり指標	実績値 2014 (H26)	実績値 2016 (H28)	実績値 2017 (H29)	実績値 2018 (H30)	実績値 2019 (R1)	実績値 2020 (R2)	実績値 2021 (R3)	実績値 2022 (R4)	実績値 2023 (R5)	目標値 2025 (R7)	備考	達成度
1	学校で学ぶことが楽しいと思う子どもの割合 (%)	66.6	68.4	69.4	61.9	72.1	67.2	68.9	76.6	77.2	81.7		○
2	悪いことを正されたり、いいところを褒められたりして自分の行動が変わったと感じる子どもの割合 (%)	76.6	77.4	79.7	78.3	82.9	81.3	79.8	86.4	86.4	86.2		◎
3	学習と日常生活につながりを感じている子どもの割合 (%)	77.1	78.0	76.9	74.9	77.1	77.2	79.5	84.4	82.9	86.1		○
4	授業から置いてけぼりになっていない子どもの割合 (%)	57.4	59.7	59.6	55.4	63.2	55.3	57.0	57.8	59.8	75.1		○
5	前よりも勉強や運動ができるようになったと思う子どもの割合 (%)	79.7	83.4	79.8	80.7	82.9	81.4	80.1	86.2	83.0	88.3		○
6	学校生活に満足している子どもの割合 (%)	53	50	53	52	57	57	61	59	59	72.7	小学校	○
		53	57	53	52	52	52	49	53	53	72.7	中学校	-

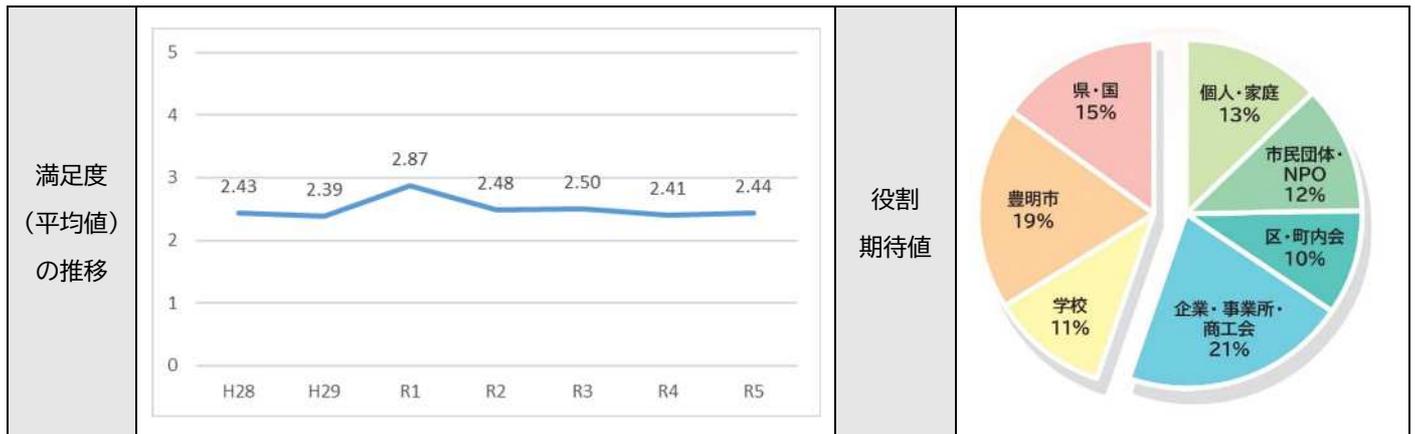
〇めざすまちの姿の達成状況や課題(総括)

指標として、学ぶことが楽しいと思う子どもの割合、授業から置いてけぼりになっていない子どもの割合の数値は増加しており、少人数学級の導入や ICT 環境の充実などがプラスの要因として考えられる。ここには現場の教育関係者の努力による要素も大きいと思われるが、一方で多忙化解消など教員の働き方改革による負担軽減が進められていくこともあり、質の維持を前提とした効率化や補助スタッフの動員などが望まれる。

すべての子どもに対して総じて質の高い学びに参加できることを実現するためには、単に学校における教育環境の整備、指導力の向上にとどまらず、運動面における水泳委託事業を先進的に始めていることや、各種の就学補助や地域塾の振興といった教育機会や学力向上を補完する施策や、定住外国人、特別な支援が必要な子どもたちへの支援など、幅広く複合的な要素ひとつひとつを高めていくよう努めていく必要がある。

39. 若い人たちが地元で働ける

大施策	若い人たちの地元での就労を促進する
関連する SDGs	    
主管課	産業支援課
関係課	農業政策課、学校教育課



〇まちづくり指標

	まちづくり指標	実績値 2014 (H26)	実績値 2016 (H28)	実績値 2017 (H29)	実績値 2018 (H30)	実績値 2019 (R1)	実績値 2020 (R2)	実績値 2021 (R3)	実績値 2022 (R4)	実績値 2023 (R5)	目標値 2025 (R7)	備考	達成度
1	有効求人倍率 (倍)	1.16	1.53	1.68	1.92	1.68	1.09	1.28	1.40	1.20	1.44		○
2	市内在住者の市内就業者数 (人)	1,529	1,341	1,486	1,647	1,098	1,400	1,742	1,748	1,594	2,014		○
3	新規起業者数 (50 代以下) (人)	80	54	14	28	38	46	37	41	26	124		▲
4	市内で働くための情報が得やすいと思っている若者の割合 (%) (50 代以下)	7.8	16.3	14.6	16.2	15.3	18.1	16.1	14.5	14.8	30.8		○
5	市内在住者で市内で働きたいと思っている若者の割合 (%)	48.3	58.7	53.1	53.4	46.5	52.6	54.6	44.8	46.0	62.8		▲

〇めざまちの姿の達成状況や課題(総括)

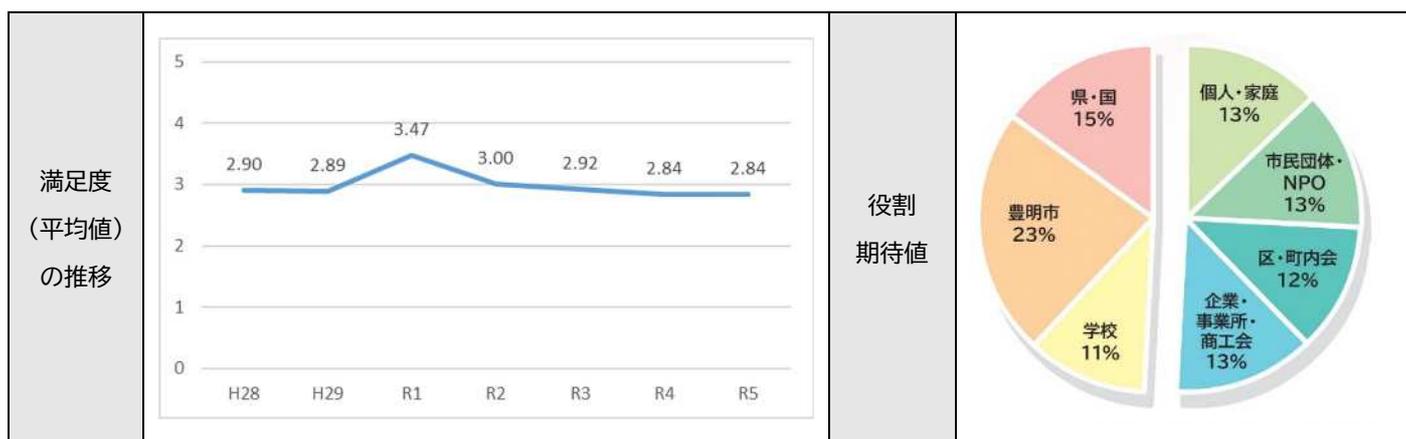
近隣自治体と合同での就職ガイダンス及び愛知労働局との共催による地元企業就職フェアの開催により、就労希望者と事業者が接する機会を提供できている。参加企業からの聞き取りでは、毎年ではないものの雇用に繋がるケースもあり対面式を重んじる企業には好評である。

創業支援事業計画に基づく創業支援セミナーは、参加者が例年の約2倍となり女性の割合も半数近くを占めた。新規起業者数(50代以下)の令和5年度実績は26人と少なかったが、起業に対する意識が高まっていると思われることから、引き続き商工会や近隣自治体と連携しPRを行い、図書館での特設コーナー設置やSNS等で情報発信を行っていく。

愛知県企業庁による柿ノ木地区での工業団地整備により市内の雇用創出を図る。

40. 市長や議会、行政は、まちを良くしていくために外からの知識を吸収し、失敗を恐れず果敢にチャレンジしている

大施策	まちを良くしていくために情報を収集し、失敗を恐れずチャレンジする
関連する SDGs	   
主管課	秘書広報課
関係課	企画政策課、情報システム課、議事課



○まちづくり指標

	まちづくり指標	実績値 2014 (H26)	実績値 2016 (H28)	実績値 2017 (H29)	実績値 2018 (H30)	実績値 2019 (R1)	実績値 2020 (R2)	実績値 2021 (R3)	実績値 2022 (R4)	実績値 2023 (R5)	目標値 2025 (R7)	備考	達成度
1	先を見据えた仕事ができている職員の割合 (%)	49.4	66.2	65.7	71.9	72.9	77.3	80.9	78.0	78.7	83.0		○
2	他団体からの視察を受け入れた回数 (回)	28	63	57	128	134	39	216	261	227	134		◎
3	議員の政策立案能力が高まっていると思う市民の割合 (%)	11.0	21.3	19.3	21.2	25.3	24.9	28.4	21.8	28.0	37.5		○
4	市長・市職員の政策立案能力が高まっていると思う市民の割合 (%)	21.9	39.6	36.1	39.3	43.6	39.4	40.0	36.7	37.5	47.8		○

○めざまちの姿の達成状況や課題(総括)

地域包括ケアやチョイソコなど先進的な取り組みは全国的に注目されており、他団体からの視察の受け入れ件数は多い状況が続いている。また、重層支援センターの開設やPFIによる新給食センター整備事業、包括管理業務委託、文書管理・電子決裁システムの稼働など、新たな取り組みとして動き出した事業もいくつかある。

一方、栄小学校から着手する予定だった長寿命化改修は、物価高騰や労務単価上昇等の影響を受けて工事費が大きく上振れすることが判明したため、一旦立ち止まり再検討することとした。詳細設計まで進んだ事業を止めたケースはこれまでになく、止めることができたことに安堵するとともに、大型改修事業の難しさを実感させられた。今後も、前例やこれまでの知見、経験が参考になりにくいケースが増えていくことが予想される。どのような選択肢が適切なのかを考えながら、正解のない事案に対し発想豊かに思考を深めて果敢にチャレンジしていく必要がある。

第 6 次豊明市総合計画の策定経過報告について

1. 実施項目

第 5 次総合計画で進めてきたまちづくり及び今後のまちづくりに対する市民みなさまの意識や思いを把握し、多くの意見を計画策定に反映していくため、これまでに以下の取り組みを実施してきました。

項目	期間	対象者	資料		
市民意識調査	5月31日(金)～6月21日(金)	満16歳以上の市内在住者のうち 無作為抽出した3,000人を対象に実施	資料2-2		
総合計画に対する ご意見・ご提言募集	6月3日(月)～6月21日(金)	上記調査の対象でない方からも計画に対するご意見などを 広く募集 市内在住・在学・在勤の方、市内に事務所を有する個人及び 法人、その他の団体	資料2-3		
転出者アンケート	6月10日(月)～6月28日(金)	令和5年度に転出した18歳以上のうち 無作為抽出した2,000人を対象に実施	資料2-4		
子育て世代インタビュー	5月8日(水) カラット交換市 5月19日(日) 環境フェスタとよあけ 6月3日(月)、4日(火) 乳幼児健診	29名 11名 } 合計 62名 22名 }	資料2-5		
市民活動団体インタビュー	5月13日(月)～5月20日(月)	市内で活動している23団体	資料2-6		
若者インタビュー	豊明中学校	6月18日(火)	生徒会6名	第3回総計審 にて報告予定	
	栄中学校	6月27日(木)	生徒会5名		
	沓掛中学校	7月19日(金)	生徒会数名		
	豊明高校	5月31日(金)	ワークショップ 7月13日(土)		各校でのガイダンス、カラットでワークショップを実施 両校あわせて18名
	星城高校	6月6日(木)			
	名古屋短期大学	6月17日(月)	20名		
	藤田医科大学	日程調整中			

2. 実施予定

項目	期間		内容
市民ワークショップ	第1回	9月14日(土)	オリエンテーション、市の現状課題
	第2回	10月19日(土)	施策のアイデア出し
	第3回	11月9日(土)	めざすまちの姿の設定
策定部会全体会	8月9日(金)		第5次総合計画のめざすまちの姿の整理
若手職員ワークショップ	9月4日(水)		市民意識調査及びグループインタビュー等から出てきた市民課題の整理及び豊明市の強み・弱みを分析
職員ワークショップ	9月27日(金)		各種調査・分析結果から出た課題と、総計審委員 WS、若手職員 WS、市民 WS から出た課題と、行政側の課題とを整理

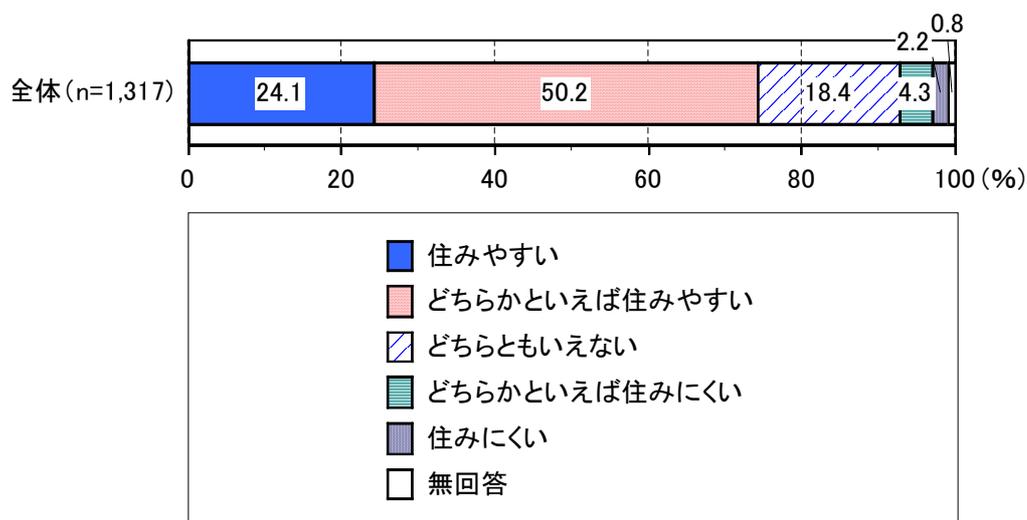
1. 調査概要

第6次豊明市総合計画策定にあたり、市内にお住まいの16歳以上の方の中から、無作為に3,000人を対象に、現在のまちづくりの課題やまちづくりを進めていく上での意見をお伺いし、計画策定に役立てるためのアンケート調査を実施しました。

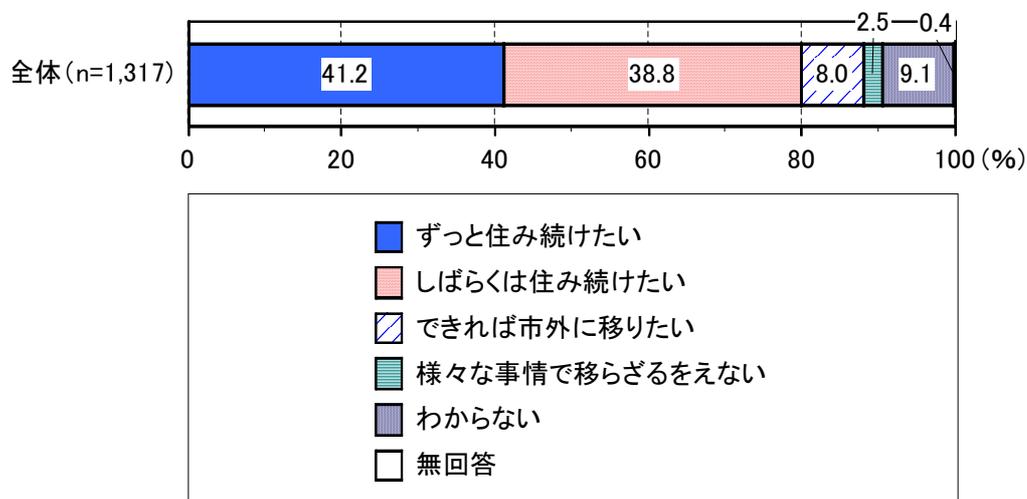
調査方法	郵送による調査票の配布 郵送による回収またはインターネットによる回答
調査期間	令和6年5月28日に配布し、6月21日を回答期限として回収
回収状況	・配布数 3,000票 ・有効回収数 1,317票 うち、郵送:957票 インターネット:360票 ・有効回収率 43.9%

2. 調査結果のポイント【抜粋】

問1 豊明市は住みやすいまちだと思いますか。【単数回答】

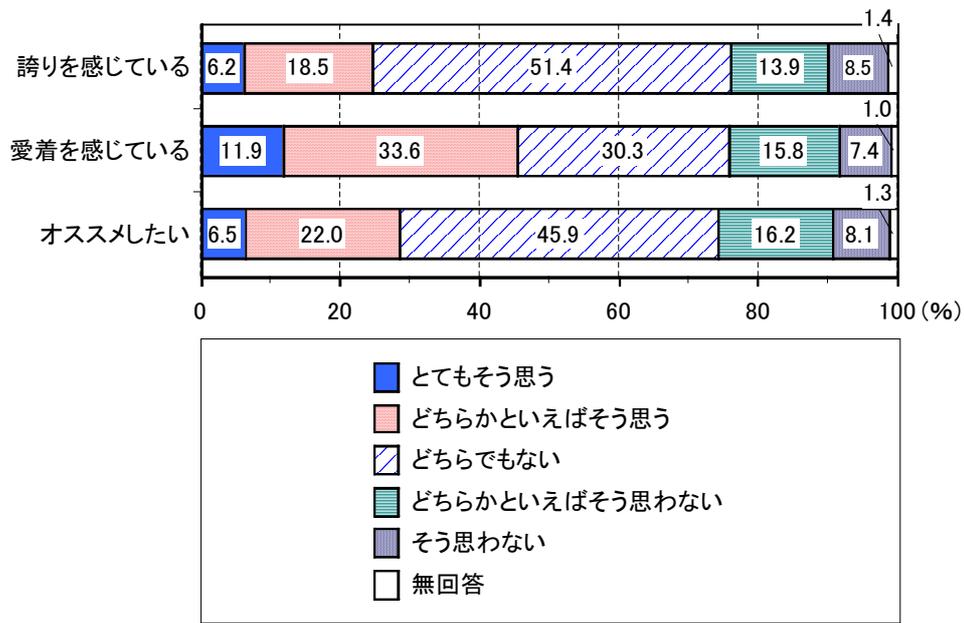


問2 あなたはこれからも豊明市に住み続けたいと思いますか。【単数回答】

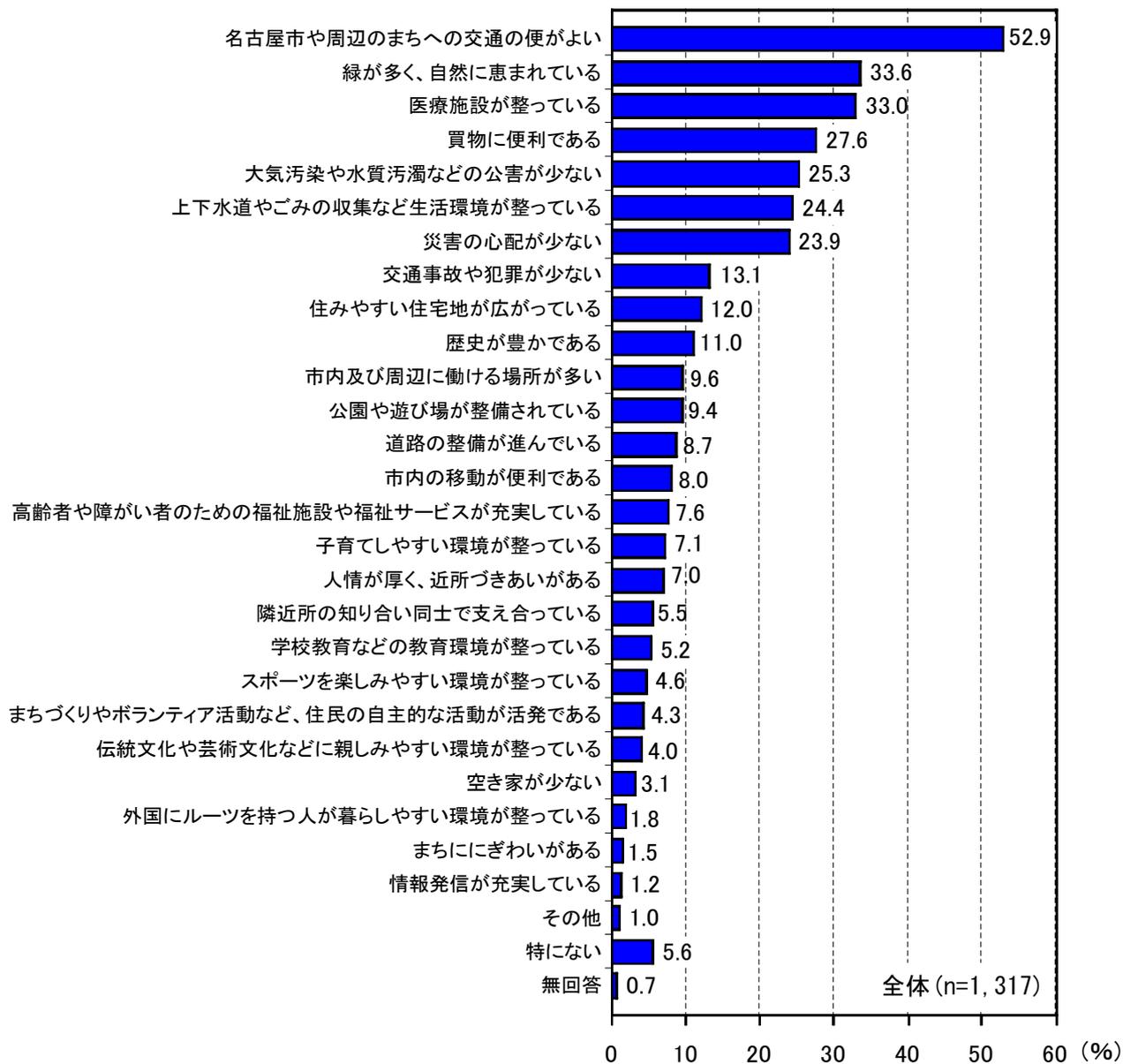


問3 あなたは豊明市に対して、誇りや愛着を感じていますか。

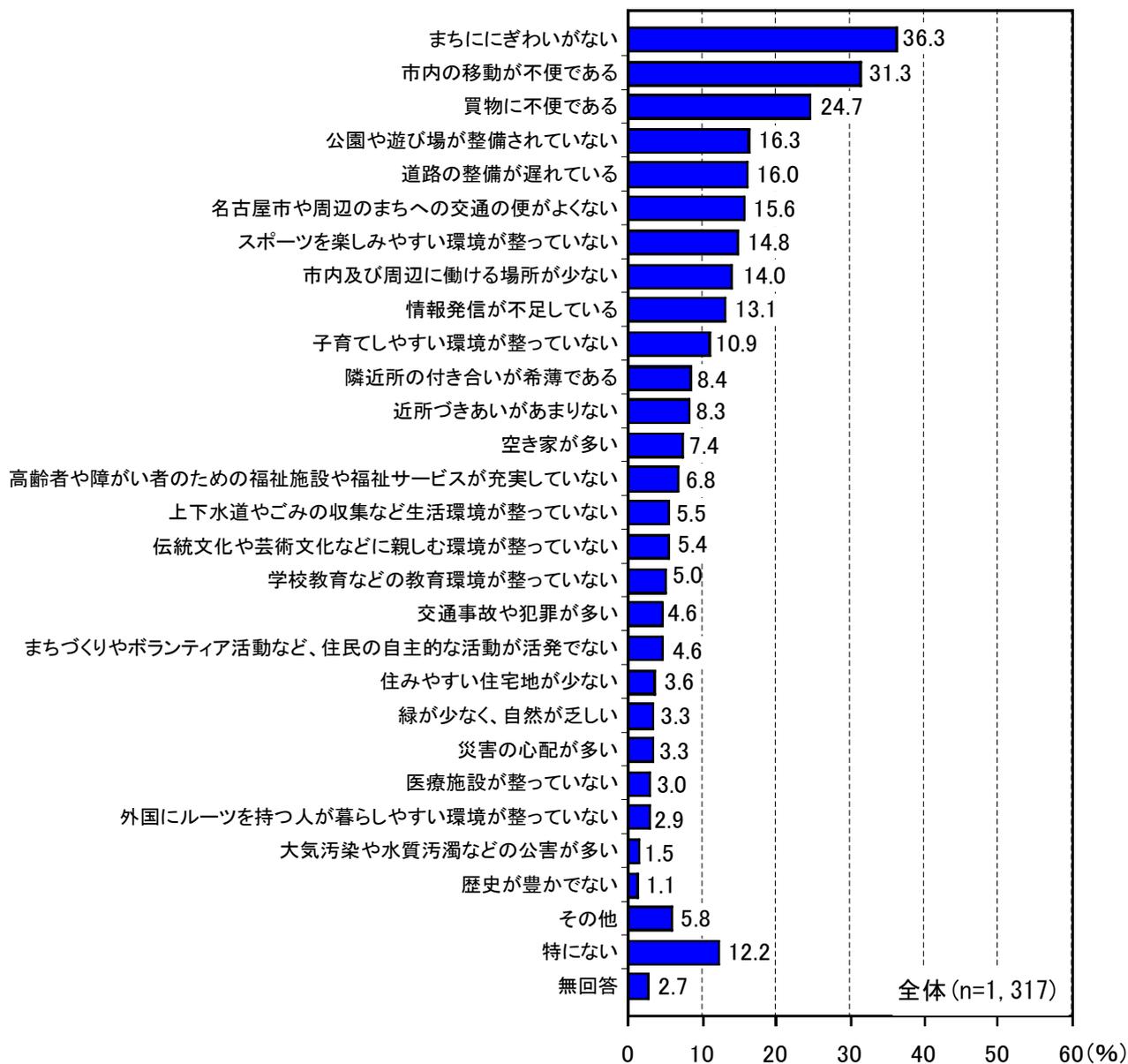
また、友人・知人に対して、豊明市をオススメしたいと思えますか。



問5 あなたがお考えになる、豊明市の魅力・良い点はどういうところですか。

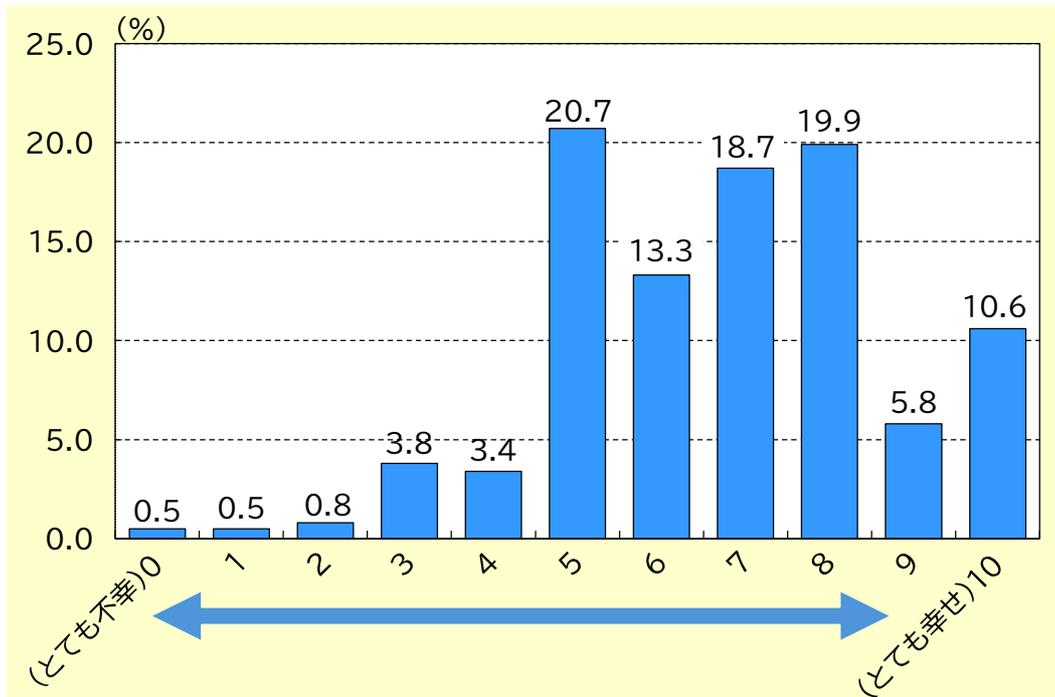


問6 あなたがお考えになる、豊明市の欠点・悪い点はどこですか。

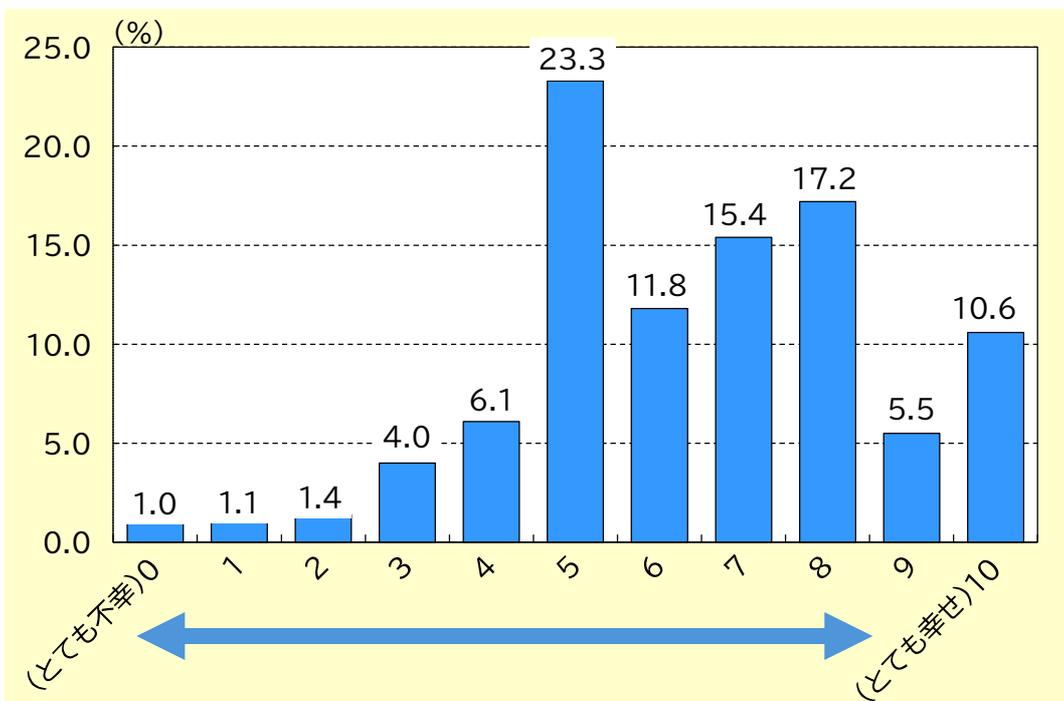


問7 あなたはどの程度幸せですか。現在と今から5年後の予測をそれぞれ 10 段階で評価してください。

(1)現在

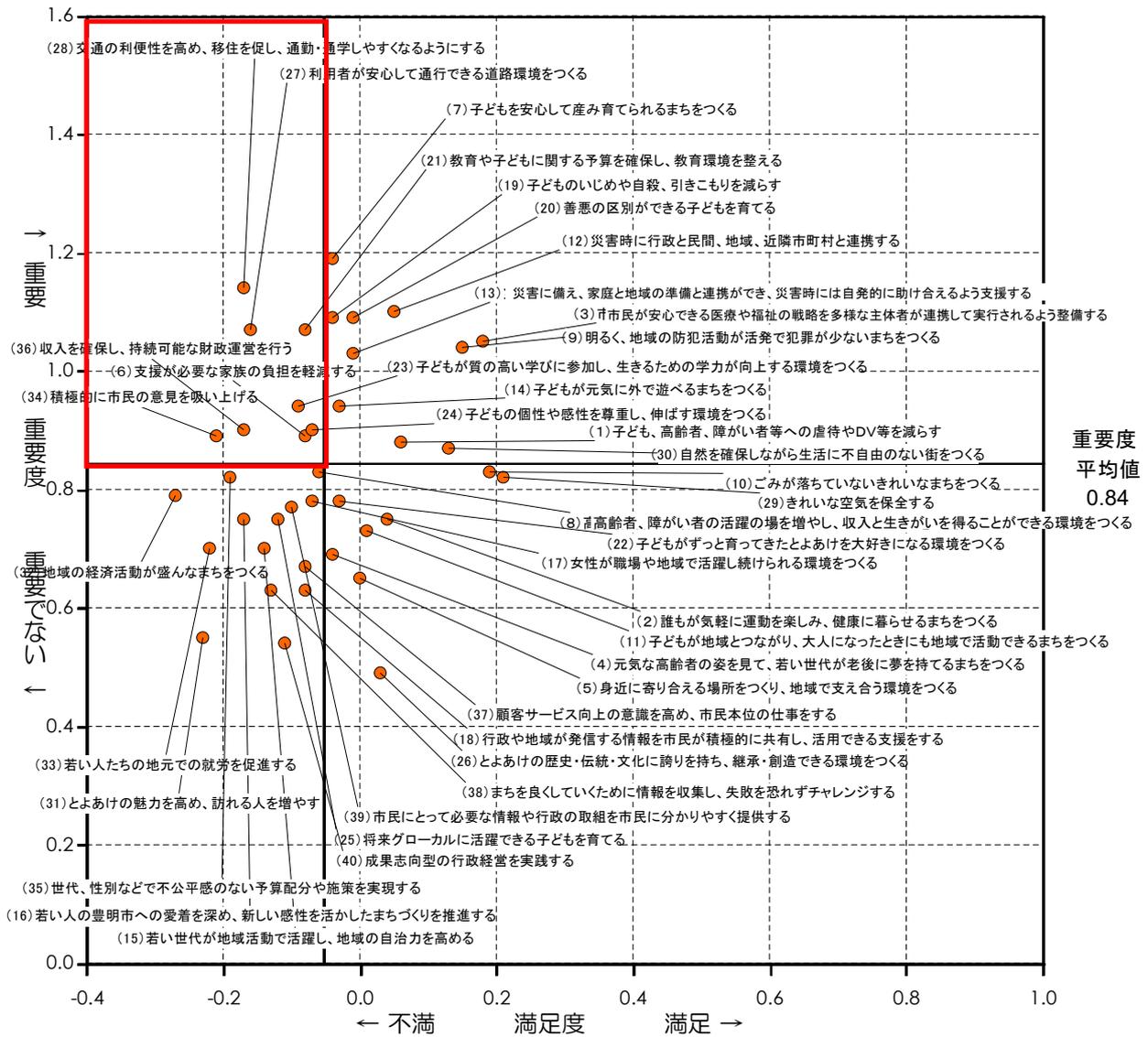


(2)今から10年後

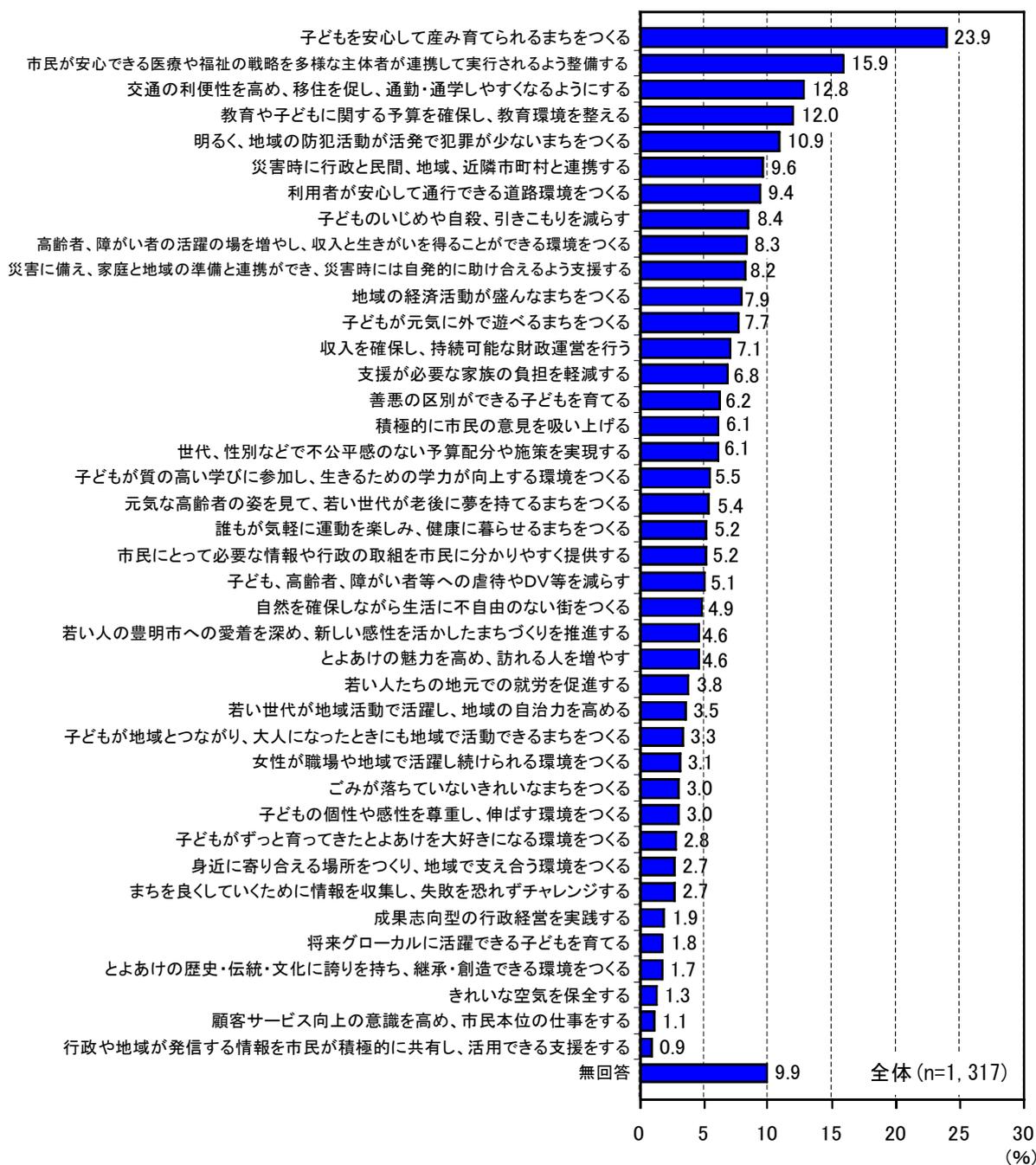


問8 現在、豊明市が推進している施策について、それぞれの満足度・今後の重要度をお答えください。

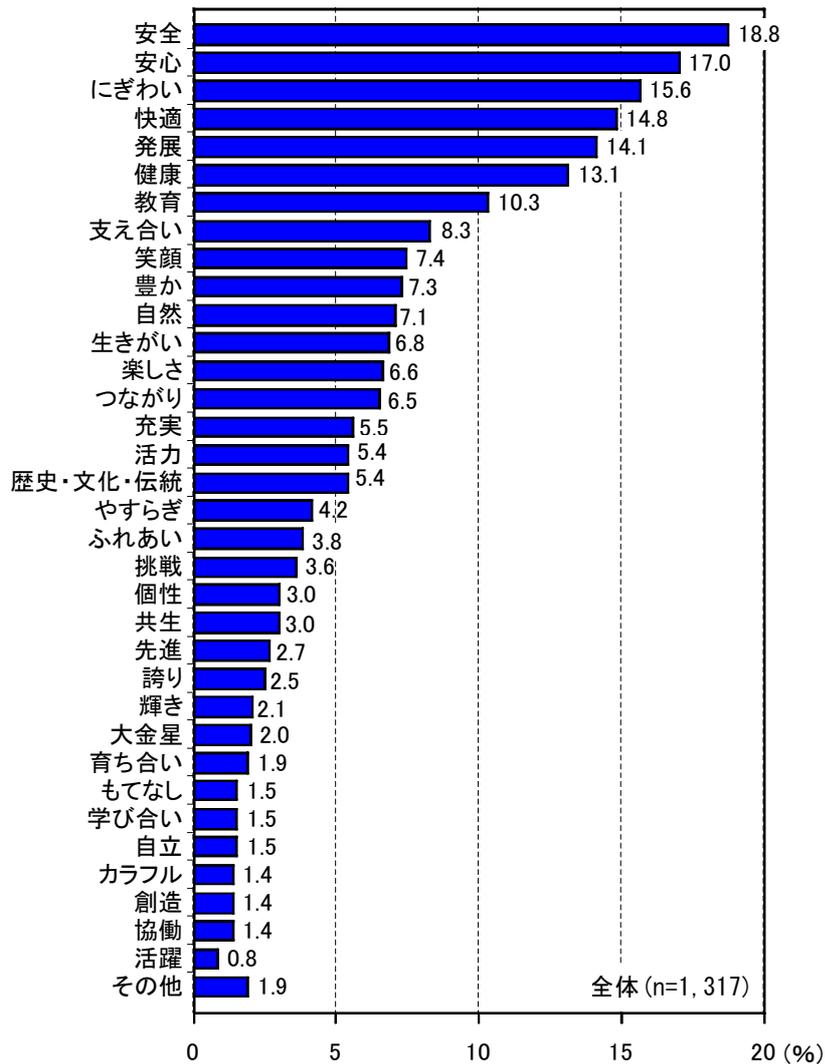
満足度平均値 -0.05



問8-1 問8の(1)～(40)項目の中から、特に重要と思われる項目を3つ選んで、下の回答欄に数字をご記入下さい。



問17 あなたは、今後、豊明市が目指していくべき将来像として、どのような「言葉(キーワード)」がふさわしいと思いますか。あてはまるものを、以下の1～35 の言葉の中から3つまで選んで、下の回答欄に番号とその理由を記入してください。



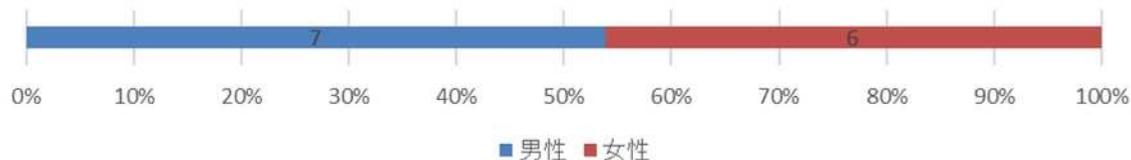
1. 概要

目的	同時期に実施した市民意識調査の対象とならなかった方からも、今後の豊明市について幅広く意見を募集するため。		
対象者	市内在住・在学・在勤の方、市内に事務所を有する個人及び法人、その他の団体		
募集期間	6月3日～6月21日（19日間）	募集方法	WEB、持参、郵送、E-mail、FAX
周知方法	広報、ホームページ、Instagram、チラシ掲示（公共施設）	意見数	13件（全てWEB回答）

2. 回答者の属性

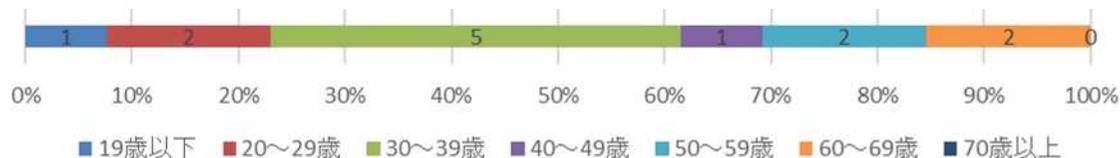
(1) 性別

男性	7	53.8%
女性	6	46.2%



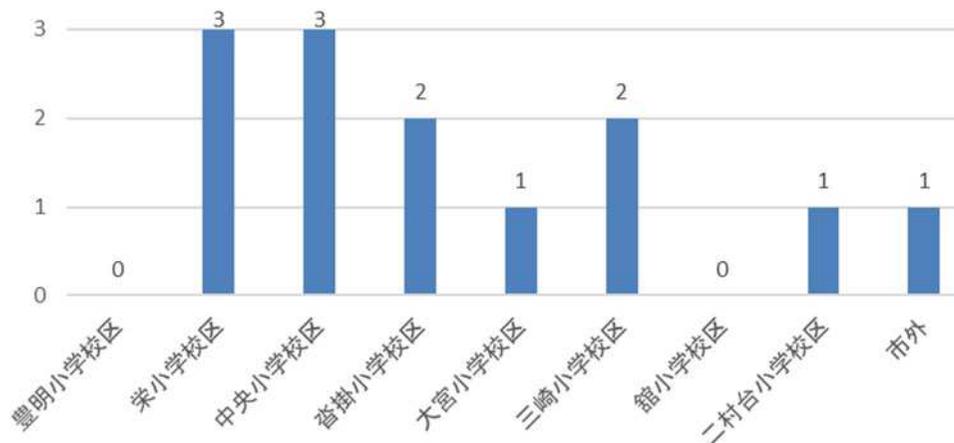
(2) 年代

19歳以下	1	7.7%
20～29歳	2	15.4%
30～39歳	5	38.5%
40～49歳	1	7.7%
50～59歳	2	15.4%
60～69歳	2	15.4%
70歳以上	0	0%



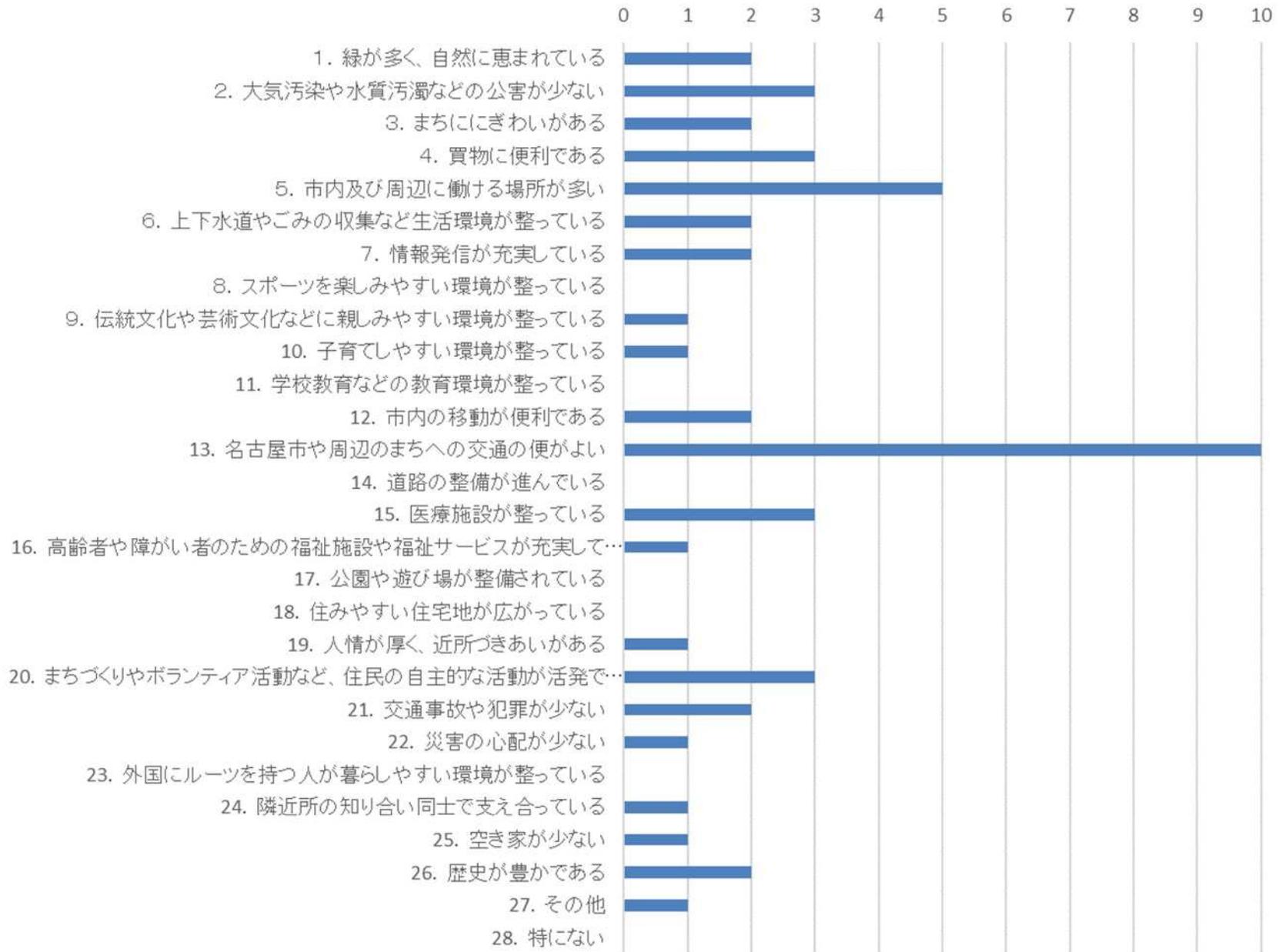
(3) 小学校区

豊明	0	0%
栄	3	23.1%
中央	3	23.1%
沓掛	2	15.4%
大宮	1	7.7%
三崎	2	15.4%
館	0	0%
二村台	1	7.7%
市外	1	7.7%

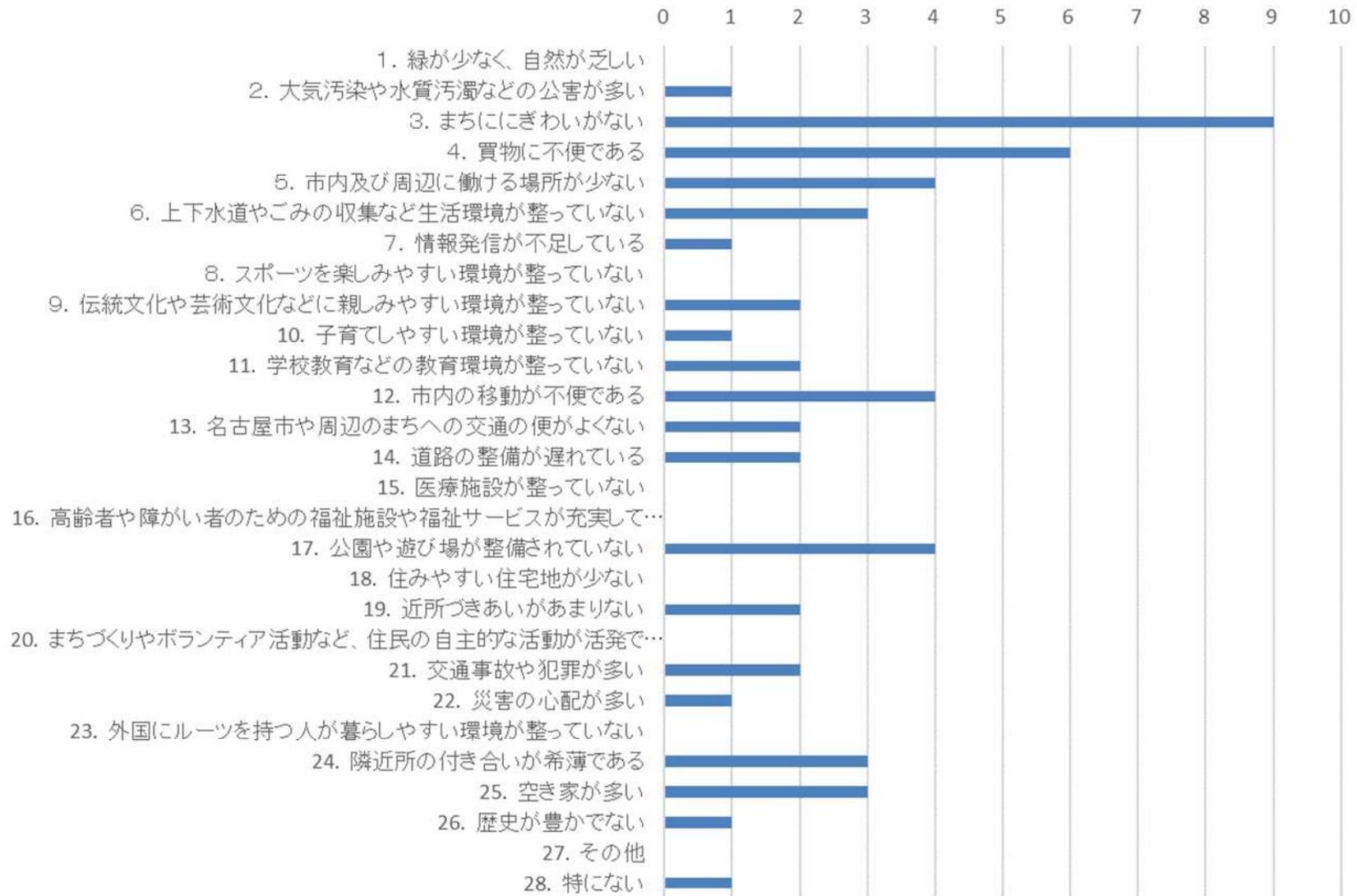


3. 豊明市のイメージについて

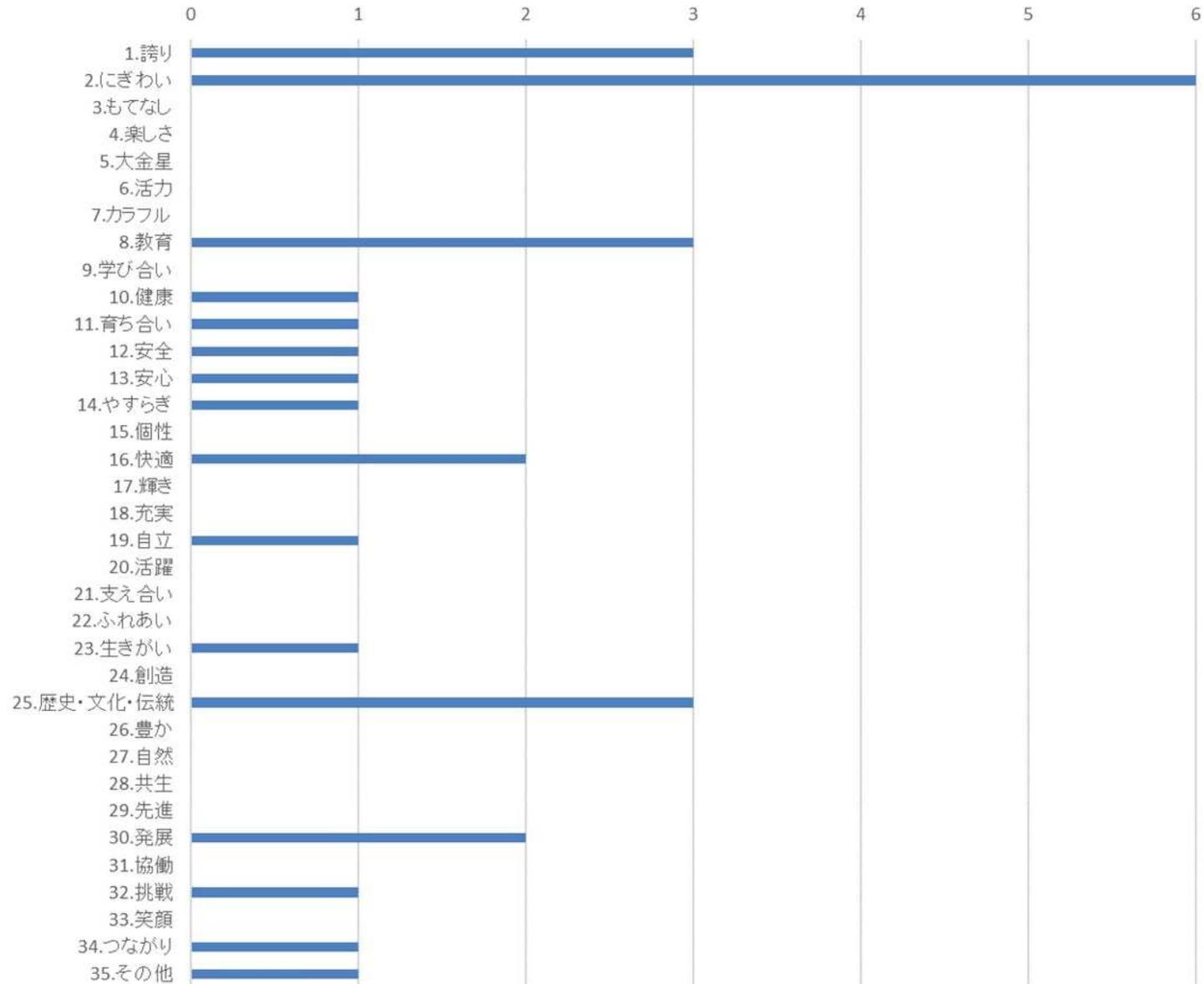
問1 あなたがお考えになる、豊明市の魅力・良い点はどういうところですか。(当てはまるもの全てに○)



問2 あなたがお考えになる、豊明市の欠点・悪い点はどういうところですか。(当てはまるもの全てに○)



問3 あなたは、今後、豊明市が目指していくべき将来像として、どのような「言葉(キーワード)」がふさわしいと思いますか。あてはまるものを、以下の1～35の言葉の中から3つまで選んで、下の回答欄に番号とその理由を記入してください。(回答は最大3つまで)



言葉（キーワード）	理由
にぎわい (6件)	町に他市の人が遊びに来るなど、にぎわいが無い。
	若い人が住みたいと思える町にしてほしい
	沓掛地区が田んぼや畑などが多く、せっかく広い土地を持っているため商業施設や水遊びなどでもできる大きな公園などを立てて活気あふれる街を作ったほうがいい。近隣の東郷町や日進市などに活気さでは劣っていると思う。
	人と人が繋がる豊かな街にして欲しい
	地域イベントで観光客で賑わい、地域の人たち賑わえると良いのではと思います！
	生まれも育ちも豊明市だが、昭和の時代から比べるとあまりにも活気が無くなっている！死んでる町と化している！
誇り (3件)	豊明市に何がある？何が有名？と言われても誇れるものがあまりないように思う。
	みんなに自慢できる街にして欲しい
	名古屋市と豊田市のベッタタウンにも関わらず、農地を保護しすぎて居住性の向上を阻害している。
教育 (3件)	名古屋市や東郷町ではトワイライトという無償で短時間預けられるシステムがある。子育て世代で今働かなければならない親たちにはありがたいシステムであり、豊明市も見直してほしい。市職員が子供を連れて出社ができる制度よりも、こちらに目を向けて欲しい。
	子育てしやすい街にして欲しい！そうすれば人口も増えそう
	コメントなし
歴史・文化・伝統 (3件)	桶狭間古戦場など外国人が観光として訪れるようにしてほしい
	地元愛に帰する伝統の創造。
	コメントなし
快適 (2件)	少々交通の便が悪い気がします
	コメントなし
発展 (2件)	豊明を人に話すと、活気の無い発展しない町と言われている！ららぽーとの豊明進出を断ったのが大きい！これ以上ダメな町と思われたくない！沓掛からのバスが無いと、子供や孫達は豊明から出ていってしまう！調整区域も多すぎる！コンビニが潰れる町はあり得ない！市街から沢山の人が日々集まってこそ経済が回るのに、高齢者が多いこの街で経済を回すのはあまりにも危険！都会からでも皆が来たい町に早急にするべき！それには交通の便が必須！経済を回したいので有れば、徳重駅までのバスを早急に早急に開始するべき！！
	コメントなし
健康 (1件)	やはりフジタの存在は大きい

言葉（キーワード）	理由
育ち合い（1件）	老若男女交わりたい
安全（1件）	オーム騒ぎ
安心（1件）	心の豊さを持ち続けたい。
やすらぎ（1件）	安全、安心、生きがい、を感じた時に安らぎを思う
自立（1件）	市街に出ずとも完結するような町にしてほしい（買い物など）
生きがい（1件）	何が幸せかを自身に問うため
挑戦（1件）	昔の古い考えがずっと続いており、全く新たな事に挑戦しなさすぎる！他の街には無い誇れるモノが無さすぎる！
つながり（1件）	心のつながりは維持したい。
その他（1件）	あてはまるものがないため

転出者アンケート

資料2-4

1. 調査概要

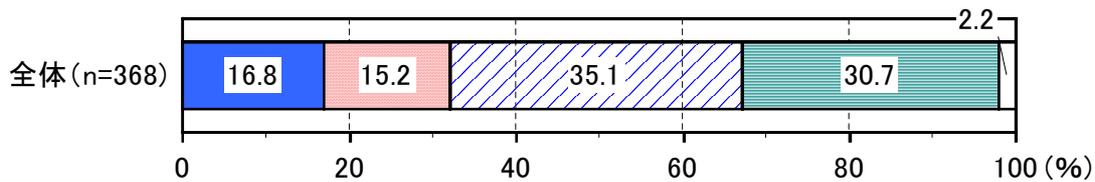
第6次豊明市総合計画策定にあたり、令和5年度の一年間に本市から転出された方のうち、無作為に抽出した 2,000 人対象に実施し、転出のきっかけや理由などをうかがう、計画策定に役立てるためのアンケートを実施しました。

調査方法	郵送による調査票の配布 インターネットによる回答
調査期間	令和6年 6 月 7 日に配布し、7 月 1 日を回答期限として回収
回収状況	・配布数 2,000 票 ・有効回収数 368 票 ・有効回収率 18.4%

2. 調査結果のポイント【抜粋】

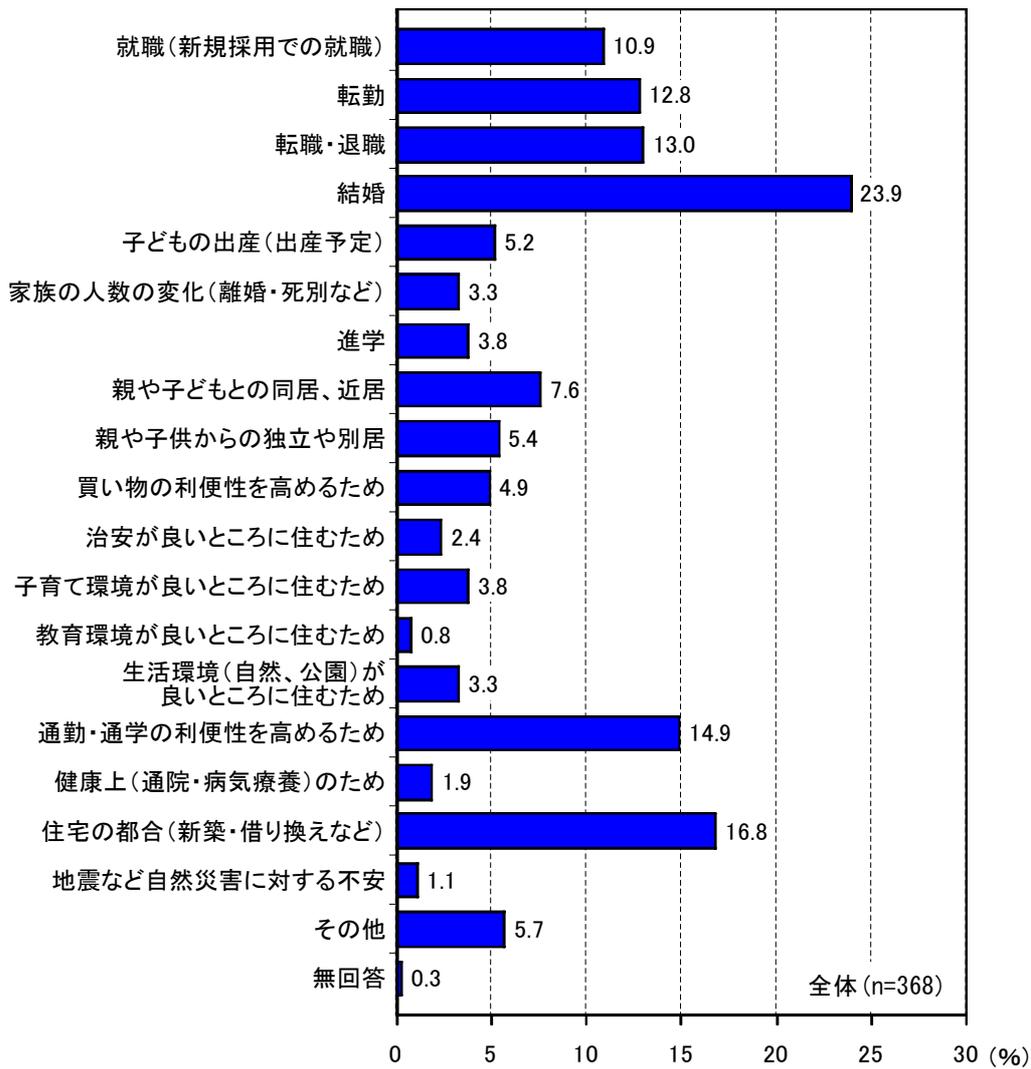
問9 転出を考える時にどのようなことを希望したか教えてください。

【単数回答】



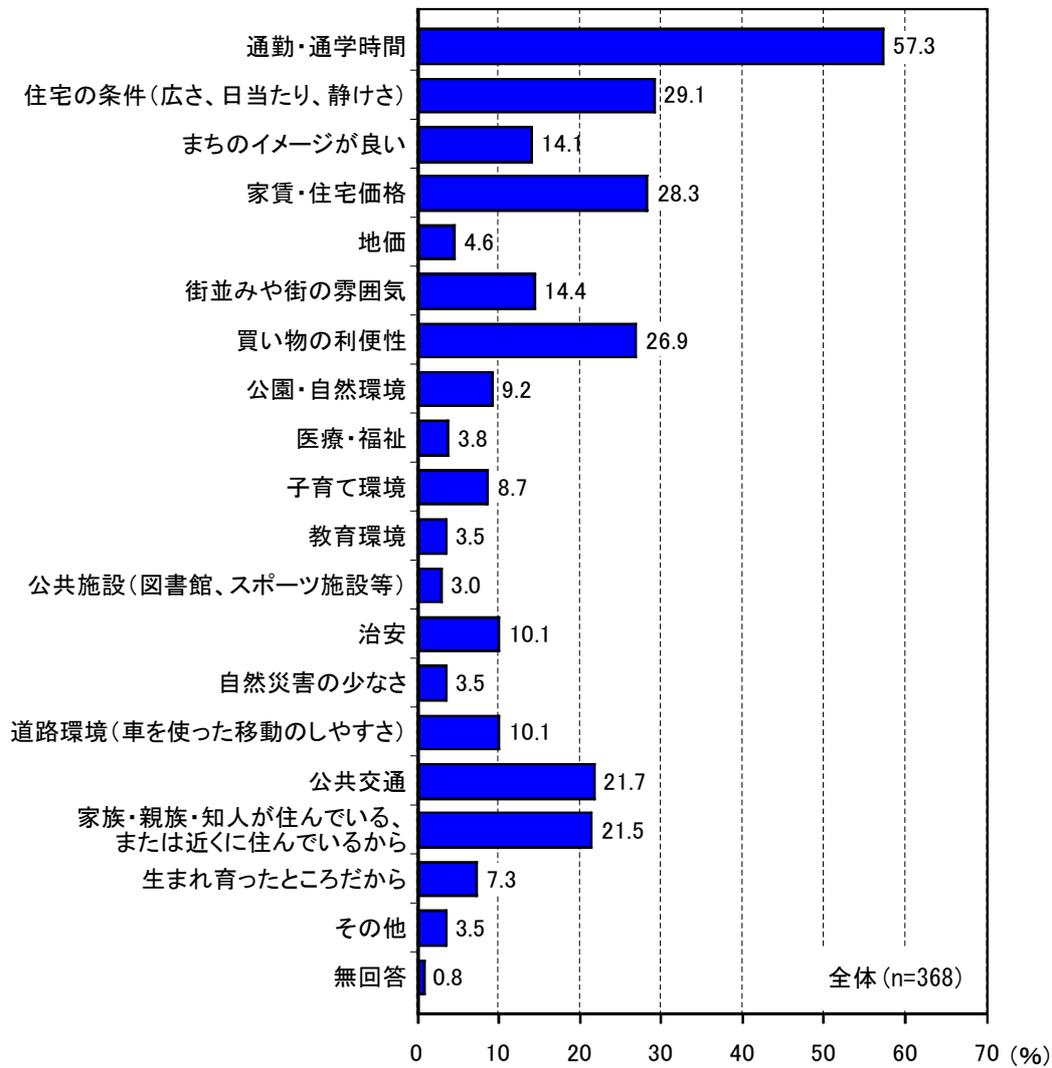
- 豊明市内に住み続けたかった
- 豊明市外に住みたかった
- 条件にあう住まいがあれば、場所はどこでもよかった
- 親との同居や転職・転勤等の事情により場所が選べなかった
- 無回答

問10 豊明市から転出された理由を教えてください。【複数回答】

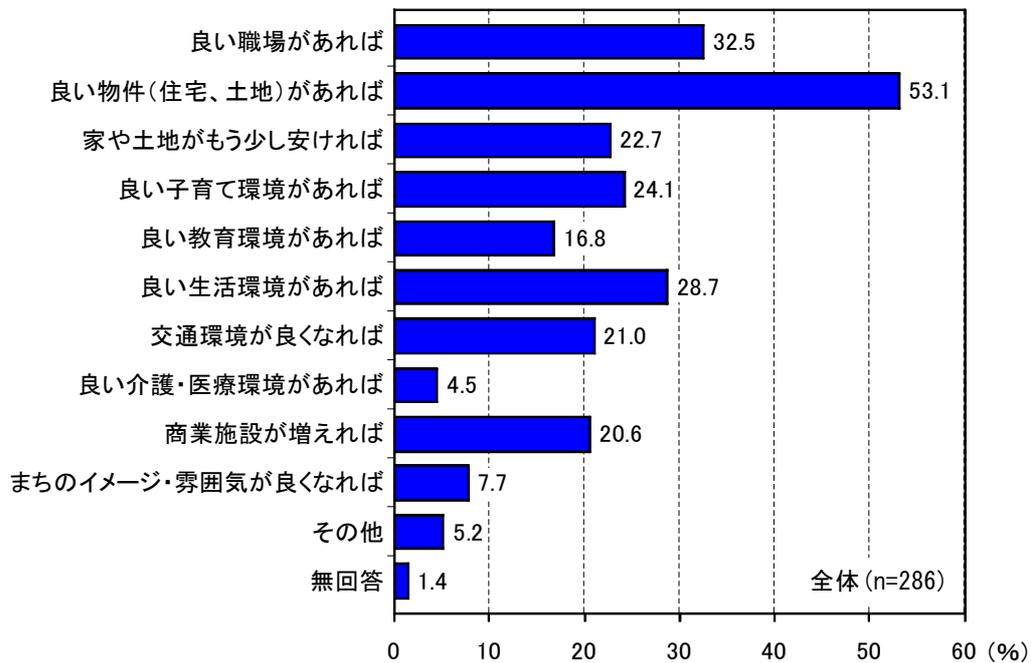


問13 転出先(現在)の市区町村に引っ越した決め手を教えてください。

【複数回答】



問15-1 問15で「1)住みたい」または「2)条件があれば住みたい」と答えた方に伺います。
豊明市でもう一度住むとしたら、どのような条件が必要になりますか。【複数回答】



1. 調査概要

第6次豊明市総合計画策定にあたり、子育て世代の移住・定住等の促進に向けた施策等を検討し、計画に反映するためグループインタビューを実施しました。

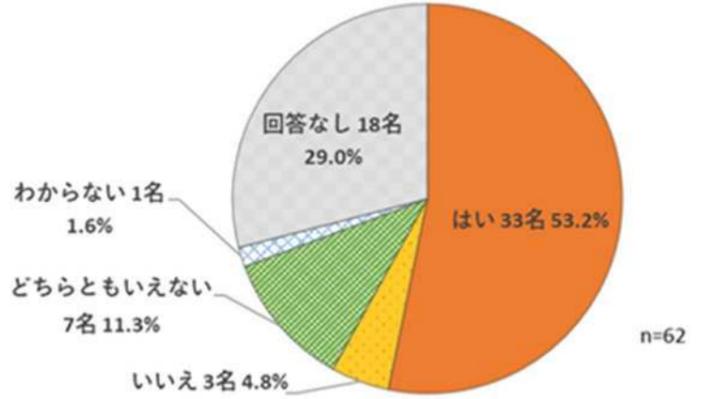
調査日等は右記の通りで、カラット交換市の際には、市若手職員も参加し、市民の皆さんの生の声を直接聞き取りました。

調査日時	調査場所	調査対象	回答数
5/8(水)	豊明市共生交流	カラット交換市	29名
5/19(日)	プラザ「カラット」	環境フェスタとよあけ	11名
6/3(月)4(火)	保健センター	乳幼児健診	22名
合計			62名

2. 調査結果のポイント

項目	主な意見(抜粋)	
① カラットに訪れたきっかけ、利用状況	交換市	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 交換市は予約なしで来れる。緑区より広くてきれい。 ◆ 初めて来たときは知人の紹介。その時交換市があることを知った。
	講座	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ひまわりの講座で、フォトレッスンが子連れOKだったから参加した。 ◆ 3カ月検診のときにぴよぴよ広場のことを知り、子どもが生まれてから来るようになった。 ◆ ひまわりのリトミックもやっており、習い事兼ねてカラットで全部済ませている。
	子育て支援センターたけのこ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ たけのこをきっかけとして週1、2回利用している。 ◆ 空いている日はたけのこにくる。おしゃべりするくらいの友達ができる。 ◆ 困っていることがあるとアドバイスがもらえるが、電話で予約しなければいけないのが残念。
	広報・メディア	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 新しくできたことを市の広報で知り、来てみたら良いところだったので通っている。 ◆ テレビで見た。年齢別で遊べる遊具があって良い。初めて利用。
	SNS	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 月1~2回来る。SNS やインスタをみている。 ◆ SNS で前から知っていたが初めて来た。
	家から近い	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 近くに、夏でも屋内で遊べる場所がないか探したら出てきたので、それ以来、週2回程度通っている。
	カラットの評判	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 名古屋市には大高緑地など大きい公園はあるが、暑い時期に室内で遊べる場所があまりないので重宝している。 ◆ 子どもあそび場が良い。絵本とおもちゃがあり、話しても良い。図書館は静かにしないとだめ。
	② 豊明市のイメージ、印象	子ども向け施設
公共施設・公園		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 福祉体育館、図書館の使い勝手が良い。緑区は30分無料だが駐車代がかかる。 ◆ 公共施設が充実している。 ◆ 公園が少なく、遊具や日陰が少ないので、よくみどり公園に行っている。
商業施設		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 隣のまちまでちょっと足を運べば、大きな商業施設がある。良くも悪くも、豊明にはないというイメージ。 ◆ 近くに色々ある。スーパー、薬局、イオンも近い。 ◆ スーパーはあるが大きい商業施設がない。
医療施設		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 藤田医大がある。 ◆ 病院が多い。
利便性・交通		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 駅が近くて住みやすい。 ◆ 地理的、行政サイズ的にコンパクト。 ◆ 名古屋へのアクセスが良い。
自然・居住環境		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 住みやすいし緑も多い。 ◆ 学校が近く緑も多い。 ◆ 田んぼが多くスペースがある。 ◆ 程よい田舎というイメージ。



③ 豊明市は子育てがしやすいまちだと思いますか？	項目	「はい」の主な理由(抜粋)	「いいえ」の主な理由(抜粋)	「どちらともいえない」等の主な理由(抜粋)
 <p>わからない1名 1.6%</p> <p>どちらともいえない 7名 11.3%</p> <p>はい 33名 53.2%</p> <p>いいえ 3名 4.8%</p> <p>回答なし 18名 29.0%</p> <p>n=62</p>	保育サービス 子育て支援策	<ul style="list-style-type: none"> ◆ カラットができてよく行った。たけのこはお父さんが連れてきているところも多い。噴水など外でも遊べる。 ◆ 検診もしてもらえる。成長を知るきっかけになる。 ◆ 公立保育園は集団保育だからか、子どもの主体性を育ててほしい。 ◆ 保育園、公園が多い。 ◆ 行きたい保育園に2人とも入れた。 ◆ 保健師さんが頑張ってくれている印象がある。 ◆ 困っていることを相談できる。 ◆ 子育てしにくいとは感じにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 以前住んでいた春日井市は公園などの遊ぶ施設がたくさんあった。子どもの一時預かりも、豊明では事前の申し込みがないとダメだが、春日井では直前でも(急なお願いでも)対応してもらえた。 ◆ 希望する保育園に入れなかった。 ◆ 以前住んでいた豊田市には、妊娠中の支援策があった。豊明市は他に比べて子育ての支援がまだちょっと少ないという印象。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ リフレッシュ保育について、週1、月1で預けられると思っていたが、優先順位があり、働いている人優先で枠が埋まってしまう。 ◆ 子どもがそれほど多くないので、検診の順番が早く回ってくるのは良い。 ◆ 学校に行かないという選択肢を認めてほしい。 ◆ 子育て支援策、独自の施策が少ない。
	生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 近くに親も住んでいるので、たまに子どもをみてくれる。 ◆ 実家の近くに住んでおり、毎日おばあちゃんが来てくれる。カラットで知り合いもできた。 ◆ 市内に小児科の病院がある。 ◆ 子育て施設が充実している。 ◆ 駅が近くて移動が便利。市と行政が近く、市民の思いを行政に届けることができる。 ◆ ほどほどご近所づきあいがある。 ◆ 自然が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 両親が近くにいるので、子育てを手伝ってもらえるが、高齢なので頻繁には難しい。 ◆ 子育て世代同士の交流もそれほどあるわけではない。 ◆ 自分の両親の力を借りないと、とても子育てはできない。 ◆ ただ、多世代同居・近居に係る固定資産税相当額一部補助事業はありがたかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 市がコンパクトで、検診や他のところに行くにもアクセスが良い。 ◆ 様々な国籍の人が多く、学校転入・編入が多く、友達が変わることもあり、子どもも嫌に感じている。

項目	主な意見(抜粋)	
④ 子育てをして、感じる事、気になること	保育園・幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 保育園の待機児童がなかなか解消されない。自分が最も仕事復帰したいと思うタイミングで復帰できない。 ◆ 保育園の決定通知書が他市より1カ月ほど遅く、入園までの準備が大変だった。 ◆ 仕事に復帰した際、職場が遠いため、保育園に7時から預けられると助かる。
	子育て支援サービス等	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 一時保育は使ったことがない。仕組みがわからない。 ◆ 0歳児(ファミサポ)は良いことだが利用するのに敷居が高い。母親が気軽にリフレッシュできるといい。 ◆ 子どもを預ける場所が少ない。子どもが熱を出していてもすぐに他の子を預けることができないので不便。ファミサポは料金が高くて利用できない。 ◆ 子どもの体調が悪いときは何とかするが、親の体調が悪いときに子どもをみてもらいたい。2人いるとどちらかはみないといけないので大変だった。 ◆ カラットは遊び場、学習、子どもたちの集合場所にもなっている。 ◆ 産後ケアについて大府などは手軽に使えるイメージだが、豊明は調べてもなかなか見つからない。うつになってからでないといけない条件が厳しく、それでは遅いのもっと使いやすいと良い。 ◆ 2人目がほしいが、金銭的に大変だからどうしようか考えている。
	交流・相談の機会	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ひまわり大学の講座に託児があると嬉しい。 ◆ 母親向けイベントがあるが、平日なので土日の枠もほしい。働いていると行けない。 ◆ 困ったときにすぐ頼れる人がいる、カラットの遊び場みたいなどころがあると助かる。 ◆ 交流する場所がほしい。検診の前後など、同じ子どもの年齢同士で集まれる場所・機会があると良い。 ◆ もっと身近で話しやすい、おばあちゃんのような人(ママ世代より上の人で育児のベテランの人)に相談したい。
	情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 市外の広報はみない。インスタで流れてくることで知ることができる。 ◆ 子どもが小さくあまり動き回らないから時間がある。この時期に子どもと一緒にできるボランティアがあると良い。
	子育て家庭の暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 仕事と両立するのが大変。土日にしか子育てできていないが、自分の時間がない。 ◆ 育児の負担が大きい。心理的にも肉体的にもきつい。もっと余裕がほしい。 ◆ 少し買い物に行く時間のみ子どもを預けられる場所があると良い。 ◆ 子どもと一緒に入れるお店がない。市内で外食できない。

⑤ この先も豊明市に住みたいと思いますか？	項目	「はい」の主な理由(抜粋)	「いいえ」の主な理由(抜粋)	「どちらともいえない」等の主な理由(抜粋)
	<p>回答なし 21名 33.9%</p> <p>はい 38名 61.3%</p> <p>わからない 1名 1.6%</p> <p>いいえ 2名 3.2%</p> <p>n=62</p>	子育て環境	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 不便はない。3人目からの補助が大きい、1人から2人の壁がかなりある。補助があると2人目も考えられる。 ◆ 子連れ出勤などを実現できたように、必要と思う施策を実現できる可能性がある市だから。 ◆ 子どもが大きくなったときの金銭面の負担が不安だが、今の家に住み続けると思う。 ◆ 小学生以上の子どもが体を動かして遊べる場所がほしい。 	
生活環境		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 今更引越しができないということもあるが、とりわけ大きな不便を感じているわけではないから。 ◆ 駅から近くて住みやすいので、今のところ移動する気はない。 ◆ どこに行くにもそんなに混んでいないので住みやすい。 ◆ なんとなくちょうど良い。自然が豊かで近隣にも行きやすい。スーパーもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 家を買ったが、いつでも売れるように前後駅近く買った。 ◆ 引っ越しを検討中。市営住宅がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 結婚し続けていけばいるだろうし、離婚すれば引っ越しだろう。

項目	主な意見(抜粋)	
⑥ どのような子育て支援があれば良いか？	保育園・幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 子どもが1歳になったタイミングで職場復帰できるように、受け入れ皿を増やしてほしい。 ◆ 3歳以上の保育料は無償になっているが、0～2歳の保育料も無償にしてほしい。
	子育て支援サービス等	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ファミサポは高くて利用できないので、もっと安く手軽で安全な預け先が欲しい。 ◆ 病児保育を使いやすくしてほしい。
	交流・相談の機会	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 気軽に相談できる場所があれば良い。仕事に復帰したら相談をする暇がない。 ◆ 保育園・学校のことを入園・入学前に先輩パパママに聞ける場が欲しい。平日だけでなく、土日も必要(就業中でも参加できる)。
	教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 教育環境が良い、授業内容や英語など学校の充実。 ◆ 多様な場が必要。学校に行けなくなった子の居場所が豊明市にもあると良い。一つの場所だけでなく、家以外の居場所があると良い。
	行政へのリクエスト	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 市役所も子どもの手続きを1カ所のできるのが良い。 ◆ お母さんが元気になれるような施策。言葉だけでなく子育てにおける「多様性」を実現させるための施策。
⑦ 子育てがしやすい環境をつくるため、市や地域に期待すること	保育園	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 保育園の卒園アルバムのパージ数(クオリティ)が、以前と比べて大分低くなったように感じた。PTAでとりまとめて陳情したが、「豊明市ではこうなので」と言われてしまった。名古屋の幼稚園では、買う買わないの選択を聞かれるので、豊明もそのようにしてもよいのではないかと思う。
	子どもの遊び環境	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 公園をもっと魅力的にするなど、子どもが遊びやすい環境をつくってほしい。いつもゲームばかりしている。 ◆ カラットに來れば色々なメニューが用意されていて便利な反面、バスや車がなくてカラットに來れない人もいる。ある程度地区ごとのサポート体制が欲しい。 ◆ 子どもを連れて、家族で遊べる場所を増やしてほしい。農業体験なんかをできる場所もつくってほしい。
	教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 子どもも歴史に触れながら育つと良い。せっかく良い歴史があるのに知らないのはもったいない。
	障がい児支援	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 発達障がい、グレーゾーンへの支援、相談事業の充実。
	まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 道路と歩道間に段差があるところがほとんどで、ベビーカーの時には少し大変な思いをすることが多い。 ◆ 家を探していたがなかなか見つからなかったため、土地や物件の紹介ができれば良い。
⑧ どんなまちだったら豊明市に住みたいか？【市外在住者】	土地・住宅	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 家や土地が刈谷より安かったらすぐにでも引っ越したい。 ◆ 家賃がそんなに安くないので、もっと住みやすい物件がほしい。
	利便性	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 車があればとても便利で、車移動がスムーズにできる。しいて言えば地下鉄があれば… ◆ 交通が便利で、年をとってから車がなくても生活できると良い。 ◆ 大型商業施設などがあると住みやすい、来たいと思う。
	都市イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ イメージがあまりなく、良いところが思いつかない。
	子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 習い事の送迎サービスが多くあったら引っ越したいと思う。 ◆ 子どもと一緒に遊べる場所がたくさんあると良い。カラットは良いがそれ以外も必要。

1. 調査概要

第6次豊明市総合計画の策定に際し、計画推進の一翼を担っていただいている子育て・福祉、多文化共生、産業・観光、環境、食・農など各分野の団体・グループを対象にインタビュー調査を実施しました。

調査からは、現在の活動状況及び今後の活動意向、活動上の課題などを把握し、ニーズに沿った計画づくりをするための貴重な資料とします。



調査期間	
5月13日～5月20日	
調査対象	
スポーツ推進委員会	ベトナム TOYOAKE
豊明市スポーツ協会	パステル
豊明エコキッズ	区長連合会
歴史民俗資料館調査研究会	藤田医科大学防災教育センター
農業委員会	桶狭間ガイドボランティア
認定 NPO 法人 プラス・エデュケート	豊明団地自治会
JAあいち尾東豊明たすけあい けやきの会	豊明市手をつなぐ育成会
ママコアラ	傾聴ボランティア「とよあけ」
豊明市国際交流協会	NPO おたがいさまの家いっぴく
豊明市文化協会	豊明市商工会 青年部
豊明市肢体不自由児者父母兄弟の会 スマイルクラブ	主任児童委員
自主保育サークル まんまる	合計 23 団体

2. 調査結果のポイント

項目	主な意見(抜粋)			
① 活動で上手いって いること	・コロナ禍に合わせて地域分散型の活動に切り替え、サロンや憩いの家に出張して、ポッチャやノルディックウォークなどを指導した。	スポーツ推進委員会	・お母さんが孤立せず、週に1度メンバーに会うことで子育てのリフレッシュになっている。	自主保育サークル まんまる
	・協会として引継ぎが上手いき、大会が滞りなく運営できている。	豊明市スポーツ協会	・イベントに日本人が参加し、国籍・世代を超えた交流ができた。	ベトナム TOYOAKE
	・他団体に協力してもらいながら活動をしている。子どもたちは喜んでくれて、協力してくれた団体も楽しんでくれている。	豊明エコキッズ	・発達障害や、学校になじみにくく不登校になりがちな子どもの親のため、相談や親向けの進路説明会、おしゃべり会などを展開している。	パステル
	・豊明高校イラストレーション部とともに、オリジナル缶バッジを作成して来館者に配布し、新聞にも取り上げられた。	歴史民俗資料館調査研究会	・「ようこそセット」を用意し、声かけしやすくし、ごみの分別や各会の連絡先など、地区への転入者に情報提供と加入促進をする取組をしている。	区長連合会(落合区)
	・カラットに活動拠点を移した際、展示を一新して見やすくなったと来館者に好評だった。	歴史民俗資料館調査研究会	・民間企業からの協賛を集め、綱引き大会の実施予定、避難誘導訓練を兼ねて来訪してもらい、もち投げも行う。	区長連合会(西沓掛区)
	・平地で農地もまとまって残っており、自立したオペレーター(農業法人)に委託がしやすい。	農業委員会	・災害に備え、防災士の養成などの教育を行っている。地域と連携し、学生がAED講習の講師や子ども食堂で大量調理の練習を行っている。	藤田医科大学防災教育センター
	・豊明市に転入する外国人に、義務教育年齢の子どもがいた場合、市のコーディネーターが日本語教育の必要性を確認し、指導対象になった場合は私たちにつながるような仕組みができている。	プラス・エデュケート	・観光協会の依頼を受け、桶狭間古戦場伝説地周辺のガイドを行っており、来訪者から礼状をもらうなど、満足度の高いガイドができている。	桶狭間ガイドボランティア
	・ボランティアでの活動が生きがいになっている会員もいる。	けやきの会	・役員としての仕事が楽しく、長く続けてくれる人が多い。	豊明団地自治会
	・ママたちの学びのサークルで、2年前に拠点をカラットに移した。集まりやすくなり、イベントや講座への参加率も良い。	ママコアラ	・強度行動障害等をもつ子と親のための活動の一環で、スポーツイベントの機会がない20～30歳代が体を動かす機会を提供している。	豊明市手をつなぐ育成会
	・市職員によるごみの出し方を学ぶ機会を外国人向けに提供した。様々なイベントで、楽しみながら日本のことを知ることができればいい。	豊明市国際交流協会	・傾聴ボランティアもグリーンケアカフェもニーズが高い。参加者も多く、会話をすることや心のケアの重要性を再認識している。	傾聴ボランティア「とよあけ」
	・文化会館の予約が取れないくらい、多くの団体で活動は活況である。	豊明市文化協会	・新栄町の空き家を改装し、スタッフ常駐型サロンを開設し、お茶会や講座が繁盛している。	NPO おたがいさまの家いっぴく
	・福祉サービスやリハビリ、学校のことなど情報交換や、上の年代から下に情報を伝えることで、下の世代の選択肢を広げることができた。	豊明市肢体不自由児者父母兄弟の会 スマイルクラブ	・豊明夏まつりに参加している実績から、地域の祭りにも参加しやすい。	豊明市商工会 青年部
	・子ども同士もコロナ禍で触れ合う機会が少なかったが、活動を通して交流することで、発達に良い影響が出ていると感じる。	自主保育サークル まんまる	・気になる事象や問題があった場合には、市役所かスクールソーシャルワーカーに情報を共有し、ほとんどのケースで必要な支援先につながる。	主任児童委員

項目	主な意見(抜粋)			
② 活動での課題	・ボランティアではないため公的に活動をしなければならないが、活動内容があまり知られていない。	スポーツ推進委員会	・子どもの年齢が上がるにつれ、ケアの方法や関心も変化するため、活動から離れてしまう方がいる。	パステル
	・現役世代は働いているため、なかなか活動に参加できない。	スポーツ推進委員会	・家庭内で抱えこんでしまいがちになることから、親の心のケアのための受け皿を整えることが重要である。	パステル
	・活動場所の確保が難しい。各団体が活動していく上で体育館やグラウンドがなかなか予約できない。駐車場の確保も苦労している。	豊明市スポーツ協会	・町内会への加入率は低下しており、未入会者、脱会者のなかには役員の仕事が嫌、精神的・時間的苦痛が大きいといった理由もある。	区長連合会(落合区)
	・親子参加の基本を崩したくないが、共働きの親も増え、親のスケジュールの問題で参加のハードルが高くなっている。	豊明エコキッズ	・区の大小の差が大きく、活動イメージがわきづらい。また、役員から提案があれば変わるが、従来通りの思考・活動が多い。	区長連合会
	・数か月に1回のペースでワークショップやミニ講座を開催しているものの、参加者が少ない。情報発信力が弱いと感じている。	歴史民俗資料館調査研究会	・地域の自主防災組織や災害ボランティアネットワークの高齢化が進んでいる。	藤田医科大学防災教育センター
	・高齢化による後継者不足。	農業委員会	・ガイドの高齢化に伴い、ガイドの育成研修が必要である。	桶狭間ガイドボランティア
	・売却できず、投資しても米が売れないため、農地が負の遺産となってしまっている。	農業委員会	・高齢化。若い人は働いていて忙しく、役員をやりたがらないため加入しない。そもそも近所づきあいを避けて団地に住んでいる方もいる。	豊明団地自治会
	・義務教育を終えた15歳以上の子どもが来日した時の支援の受け皿がないことが課題。	プラス・エデュケート	・団地の住民の入れ替わりが激しく、近所づきあいも希薄なため、お互いの顔を知らない。	豊明団地自治会
	・78%が75歳以上と、会員の高齢化が問題になっている。若い人が加入しないと継続できない。	けやきの会	・外国人住民(主にベトナム人)とのルールやマナーに関するトラブルや苦情が多い。	豊明団地自治会
	・SNSだけでのやり取りが増えてきており、会員同士で面と向かってコミュニケーションを取る機会が少なくなっている。	ママコアラ	・時代とともに情報交換ツールとしての会のニーズは減少し、新規の参加者、特に地域の方の新規参加が少ない。	豊明市手をつなぐ育成会
	・日本語教室以外で、外国人と日常的につながる場は少なく、町内会・自治会に入っているという話もあまり聞かない。	豊明市国際交流協会	・ボランティアの高齢化が進み、ボランティア自身やその家族の健康や介護の問題もあり、活動が難しくなっている。	傾聴ボランティア「とよあけ」
	・高齢化が進み、各部会で減少傾向にある。指導者の後継者や新規の会員がいない。	豊明市文化協会	・元気で活動的な高齢者の利用が固定化しつつある。元気がない高齢者にも出てきてもらいたいが1人で出て来られない方は拾いきれない。	NPO おたがいさまの家 いっぱく
	・外遊びが中心になっているため、活動が天候に左右される。	自主保育サークル まんまる	・会員は24人いるが、実働として動いているのは10人程度。	豊明市商工会 青年部
	・活動費用がないが、有料のイベントに参加してくれる人は少ない。	ベトナム TOYOAKE	・子どもが親の世話をしているヤングケアラーがいるという話も聞く。	主任児童委員
③ 今後の活動意向、協働・共創について	・人材確保のシステムや手段をつくりたい。メンバーの循環のためにも、育成の仕組みをつくり、ベテラン層も抜けやすいようにしたい。	スポーツ推進委員会	・子どもたちのための活動を中心に行いたい。また、日本人との交流イベントや日本の生活ルール・マナーについて学ぶ機会を提供したい。	ベトナム TOYOAKE
	・第1次、第2次スポーツ推進計画との関わりが薄かった。計画と連動した活動ができなかった。	スポーツ推進委員会 豊明市スポーツ協会	・他団体との横のつながりができるスペシャルおしゃべり会を継続したい。	パステル
	・個人の教室なども含め、市内の大会やイベントを一元化し、市民が気軽に参加できるよう、スポーツカレンダーをつくりたい。	豊明市スポーツ協会	・老人クラブ、子ども会ともに加入者が減少しており、子ども会については区レベルでの活動に移行するように調整が必要である。	区長連合会
	・豊明の魅力を再発見し、自然について知ってもらい、環境について考えてもらえるようになりたい。	豊明エコキッズ	・自主防災、災害ボランティアの若返りのために、小学生から大学生までの若い世代などが防災リーダーを担うよう働きかけをしたい。	藤田医科大学防災教育センター
	・市内に着任した教員の研修にカラット見学を組み込んでもらい、歴史民俗資料室の存在を知ってもらいたい。	歴史民俗資料館調査研究会	・市役所にトイレカーを導入すれば、防災に対する周知や啓発、災害時だけでなくイベントや地域への貸し出しとしても活用できる。	藤田医科大学防災教育センター
	・産直で野菜が売れるというイメージができ、若い方(60代)が退職後のお小遣い稼ぎ感覚で畑作を始められるようになったら良い。	農業委員会	・歴史認識について市職員への講義の機会がほしい。	桶狭間ガイドボランティア
	・地元で就職したいが高卒・大卒でないと就職できないと考えている人と、人手が足りていない中小企業のマッチングができれば良い。	プラス・エデュケート	・自治会の新規加入者を増やすためにも、働き方の変化をふまえ、役員を仕事と両立できるようにするか、制度自体をなくしたい。	豊明団地自治会
	・活動する協力会員と、会費で支援する賛助会員があるが、けやきの会のファンを増やし、賛助会員も増やしていきたい。	けやきの会	・藤田医科大学と協力し、子どもの見守りのため居場所をつくる。	豊明団地自治会
	・ママたちが講師となり、持っている知恵や特技を教えられるよう育成していきたい。	ママコアラ	・育成会が行政に提言するためにも、新規加入者を増やしたい。団体同士のつながりやアテンドを市にも支援してほしい。	豊明市手をつなぐ育成会
	・ボランティアのため、できる範囲のことしかできないが、市の「多文化共生推進計画」に協力し、連携していきたい。	豊明市国際交流協会	・心のケアの時代を見据えた活動を推進したい。色々な団体と話して共通点やつながりを見つけたい。活動が広まり、参加者が増えてほしい。	傾聴ボランティア「とよあけ」
	・樺庵について、昔の伝統や文化を残しつつも、気軽に利用できるカフェのような雰囲気のある場所にしたい。	豊明市文化協会	・南部地域にもう1つサロンをつくりたい。南部は老人会も減少しているし、なかなか遠出しづらい地域であるためニーズはある。	NPO おたがいさまの家 いっぱく
	・ひまわりなどの市民講座と連携したい。	豊明市文化協会	・婚活・合コンイベントを開催し、それを通じてできたカップルが豊明市に住んでもらえたら嬉しい。	豊明市商工会 青年部
	・お母さんが子どもを預けて外出できるように、一時預かりの活動までできたら良いと考えている。	自主保育サークル まんまる	・地区の民生委員から情報をもって、地域の事情がわかることもあるため、情報交換を継続的に行っていきたい。	主任児童委員

項目	主な意見(抜粋)			
④ 豊明市の魅力や特色、課題	・部活動の地域移行について、学校教育を含めた人材育成とスポーツ指導を推進委員に求めるのは難しい。	スポーツ推進委員会	・コンパクトなまちで便利。ベトナム人も集まりやすい。高いビルもなく、駅や病院などすべてが近い。	ベトナム TOYOAKE
	・部活動の地域移行に関して、柔道とソフトテニスは一時的に進めているが、近隣市町も含め、みんな混乱が起きている。	豊明市スポーツ協会	・子どもの権利条例を制定してほしい。「制定した」という事実が、子どもにとって思っていることを発言できるきっかけになる。	パステル
	・ごみを拾ったり、川をきれいにしたり、自分たちも環境保全が「できる」ことを伝えたい。自主的にできるようになってほしい。	豊明エコキッズ	・学校では満足する相談体制がなく進路などの情報も得られない。学校内にフリースクールや不登校の子のための居場所を拡充してほしい。	パステル
	・東海道をはじめとした主要な街道が通っていることもあり、まちが東西につながっており、土地を通過する人々に対して寛容さをもっている。	歴史民俗資料館調査研究会	・コロナ禍が明け、会食の場や仕出しがなくなり、大勢で集まれる場所が減っている。	区長連合会
	・農地が多いため、夏は田んぼの影響で気温が低くなり、田んぼダムとして水害対策にも貢献するなど、環境面からみても魅力的である。	農業委員会	・市内避難所は収容人数が少なく、在宅避難が中心となるため、各家庭で1週間分のトイレと食料準備、耐震補強や家具固定を徹底すべき。	藤田医科大学防災教育センター
	・市職員は、LGBTQ への理解もあり、外国人を単なる労働力ではなく隣人として捉えてくれている、大事にしてくれているという印象がある。	プラス・エデュケート	・他市に比べ、まちに観光客向けのルート案内や史跡の説明等の看板、パネルが少ない。	桶狭間ガイドボランティア
	・これから人口減になるが、どの年代にスポットを当てていくか。外国人のみの比率を出すと、また違った視点でみるができると思う。	プラス・エデュケート	・外国人にとっては住みやすい。日本語教室や多言語表記など外国人への配慮が手厚い。	豊明団地自治会
	・高齢者が1人で暮らしていると買い物、配達など困りごともある。	けやきの会	・ひまわりバスは利用者が増えていて、成功していると感じる。	豊明団地自治会
	・けやきの会さんを講師として招き、おこしもの料理教室を開催するなど、世代間交流をできるのも良い。	ママコアラ	・外国人と共に暮らす日本人に対する配慮がない。転入時にルールやマナーの講習を行い、相談窓口などもきちんと設けてほしい。	豊明団地自治会
	・子育てしながら町内会長の任を担うことは難しい。デジタル化なども進めてほしい。	ママコアラ	・障がい者基幹相談支援センターが、手帳を持っているがサービスを受けていない家庭への訪問を行っている。つながりができてありがたい。	豊明市手をつなぐ育成会
	・外国人の目立った排斥がない。外国人が嫌な思いをしていないように感じる。団地に対し、そうならないように話をしてきた背景がある。	豊明市国際交流協会	・グループホームで1人生活している人などは生活資金が限られているため、安価な交通サービスや支援を充実させてほしい。	豊明市手をつなぐ育成会
	・メインストリートがない。豊明のお土産や名産品はどこで買えるのかと聞かれることもあるが、そういったものがない。	豊明市国際交流協会	・カラットが魅力的。イベントも多く、色々な世代が交流できる。ボランティア団体も利用しやすい。	傾聴ボランティア「とよあけ」
	・生涯学習と文化が線引きされてしまっている。	豊明市文化協会	・南部地域は不便。福祉会館や体育館などの施設は市役所周辺の北部に多く、行きづらい。バスも少ないため出かけるのが大変である。	NPO おたがいさまの家 いっぴく
	・市としての一体感がない。以前は豊明まつりの実行委員会などで集まり、連携ができていたが、今はその機会もない。	豊明市文化協会	・アクセスも良く、住みやすいと思っている。福祉の視点でも不満は感じていない。	豊明市商工会 青年部
	・災害時に医療ケアができるかが課題。非常時は誰もが電源を必要としているが、医療ケアが必要な人は電源が生死にかかわる問題になる。	豊明市肢体不自由児者父母兄弟の会 スマイルクラブ	・桶狭間など歴史のまちではあるが、これといった特産品などはなく、まつりなどに注目しがちになっている。	豊明市商工会 青年部
・最終的には「親なき後」を考えなければいけない。肢体不自由については、入所施設はあるがグループホームが市内にない。一人では暮らしていけないため、頼れるところがほしい。	豊明市肢体不自由児者父母兄弟の会 スマイルクラブ	・学校の中に児童館(児童クラブ)があると良いが、夏休みなど時期によっては利用者が多すぎるあまりパンクしている。長期休み等に児童が遊ぶスペースが必要。	主任児童委員	
・沓掛にひまわりバスの路線がない。車の運転ができなくなったときや、子どもが学生になって通学や外出するときに困る。	自主保育サークル まんまる	・子連れ家族が住める場所がなく、子どもの転出者が増えている地域もあれば、若い人が多い地域もある。	主任児童委員	
⑤ 将来の豊明のありたい姿	・スポーツができる集いの場や運動公園がほしい。	スポーツ推進委員会	・子どもが豊明市に残ってくれるようなまち、市内で子育てをしたいと思ってもらえるようにしてほしい。	パステル
	・笑顔の溢れる、住んでよかったなと思えるまちであってほしい。それを、スポーツの視点から支えていきたい。	豊明市スポーツ協会	・マイノリティが住みやすいまちこそが、取りこぼしのないまち	パステル
	・豊明の自然をアピールしたい。自然に触れたいときは、他市ではなく豊明市内に出かけてほしい。	豊明エコキッズ	・災害が少ない地理的メリットを生かし、安心して住めるまちにしたい。災害に強いまちづくりをもっとしてほしい。	藤田医科大学防災教育センター
	・郷土愛を育てたい。誇りがもてるまちづくり。	歴史民俗資料館調査研究会	・桶狭間古戦場があるまちとして発信、PRし、有効活用してもらいたい。	桶狭間ガイドボランティア
	・緑を大切にしつつ、人が集まれるような企業や飲食店が増え、にぎやかなまちになってほしい。	農業委員会	・豊明市の良さを市外にもっとPRし、若い世代を呼び込みたい。「医療のまち」など、良さを生かしたキャッチフレーズなどがあると良い。	豊明団地自治会
	・第一次産業に従事したい外国人を人材として捉えられると良い。	プラス・エデュケート	・グループホームや施設、支援員を増やしてほしい。	豊明市手をつなぐ育成会
	・行政だけで全てのことができるわけではないなか、市民を巻き込んでよくやっていると思う。	けやきの会	・みんなが笑顔で、ひきこもらないように、居場所や多世代交流が増えてほしい。	傾聴ボランティア「とよあけ」
	・今のまま高齢者に優しい状態を継続してほしいと思う。	ママコアラ	・みんなが誇りや愛情をもっと持てるようになると良いと思う。	豊明市商工会 青年部
	・SNSのDMなど気軽なものを活用すれば、もっと若い人からの意見を集めることができると思う。	自主保育サークル まんまる	・豊明市内で素敵な活動をしている人はたくさんいるはずであり、そこに宣伝や集客をしやすい環境を整えていければ、もっと盛り上がる。	豊明市商工会 青年部
	・緑の多いまちにしたい。道路の脇に大きな木があると良い。	ベトナム TOYOAKE	・子育て世代も高齢者にも住みやすいまちになってほしい。	主任児童委員

